

地域福祉を考えるアンケート 結果報告書

令和2年6月

健康福祉部地域福祉課

目 次

第1章 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の内容.....	1
3 調査の方法.....	3
第2章 調査対象者の基本情報.....	4
1 年齢、性別及び家族構成.....	4
2 居住年数と住まいの状況.....	9
3 職業、勤務日数及び世帯の収入.....	10
4 継続居住の意向.....	13
第3章 地域活動の状況等.....	14
1 地域での役割.....	14
2 近所づきあいの状況.....	15
3 近所のまとめり.....	18
4 地域活動への参加状況.....	18
5 災害時の支え合い.....	26
6 地域における支え合い.....	28
7 地域福祉活動への参加意向.....	37
8 地域福祉活動において連携が必要な組織.....	41
9 地域福祉活動のリーダー像.....	42
10 地域福祉活動を推進する人材の育成法.....	43
11 地区担当民生委員・児童委員の認知度.....	43
12 民生委員・児童委員への期待.....	44
第4章 社会福祉協議会とボランティア活動.....	45
1 社会福祉協議会の認知度.....	45
2 社会福祉協議会への期待.....	48
3 ボランティア活動等への参加状況等.....	48
第5章 地域における福祉課題と相談体制.....	53
1 地域で優先的に解決しなければならない課題.....	53
2 家族内における要支援者の有無.....	56
3 生活の問題に係る相談相手.....	57

4	福祉に係る相談結果.....	59
5	虐待発見時の対応方法.....	60
6	成年後見制度の認知度.....	60
第6章 計画策定後の意識変化と今後の方向性.....		61
1	地域福祉計画の認知度.....	61
2	計画策定後の地域変化.....	61
3	充実を期待する福祉政策.....	63
資料編.....		64
地域福祉を考えるアンケート集計結果.....		64

第1章 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、第2期会津若松市地域福祉計画策定方針（令和元年9月6日決裁）に基づき、複雑化・多様化する地域における地域生活課題及び地域福祉の推進に係る市民ニーズ、さらには第1期地域福祉計画策定後の意識変化を把握することで、第2期計画策定作業の円滑化に資することを目的に実施した。

2 調査の内容

調査の内容は、次のとおりである。

(1) 属性（基本情報）

- ① 性別、年齢、職業、世帯の状況及び居住地区（小学校区・町名）

(2) 地域活動について

- ① 各種団体等の役職や地域における活動状況
- ② 近所づきあいの状況
- ③ 災害時の支え合い
- ④ 地域福祉活動の拠点
- ⑤ 地域活動に対する意欲

(3) 困りごと等の内容と相談体制

- ① 困りごと・悩みごとの内容
- ② 困りごと・悩みごとの相談先及び支援の担い手

(4) 社会福祉協議会の役割について

- ① 認知度
- ② その期待される役割

(5) 民生委員・児童委員の役割について

- ① 認知度
- ② その期待される役割

(6) ボランティア団体・NPO法人の活動について

- ① 人材の発掘・養成
- ② ボランティア活動等への意欲

(7) これまでの取組の評価について

- ① 地域福祉計画等の認知度
- ② 計画策定後の地域の変化
- ③ 地区社会福祉協議会の認知度

(8) 自由記載

- ① 見守り・支え合い活動の充実に向けて

(9) 調査項目の体系

調査項目の体系は表 1-1 『 調査項目の体系 』 のとおりである。

表 1-1 調査項目の体系

区分	No.	質問の内容	基本情報の必要性
基本情報（属性）	問1	住んでいる小学校区（19学区）	地域ケア会議などの地域の懇談の中で、居住年数や持ち家、借家などの基礎的な属性で、地域福祉活動への意識が異なる。 居住年数や住居の形態などの基礎的な情報とアンケート集計結果との分析を通して浮き彫りになる住民の意識や地域の実情を十分に把握し、計画の改訂及び福祉生活課題の解決に向けた仕組みづくりを推進する。
	問2	居住年数（実年数）	
	問3	住まい（自己・家族所有、借家）	
	問4	継続居住の意向	
	問5	年齢、性別、家族の人数（構成）	
	問6	世帯員全体に係るおおよその収入	
	問7	職業と勤務時間	
把握したい事項	No.	質問項目	調査内容
(1) 市民協働による 支え合いの仕組みを構築するために必要な事項	問8	地域での役割	地域福祉活動取組状況
	問9	近所づきあいの程度	付き合いの程度
	問10	近所づきあいをしない理由（問10関連）	付き合いしない理由
	問11	ご近所の印象	地域としてのまとまり状況
	問12	町内会への加入	町内会加入状況
	問13	地域活動・行事への参加状況	地域活動等の参加の状況
	-1	参加している活動や行事（問14関連）	活動別の参加状況
	-2	参加していない理由（問14関連）	不参加の利用
	問14	地域の活動の場	地域活動の施設
	問15	災害時の協力体制	地域住民相互の協力体制のあり方
	問16	提供する情報の範囲	知らせてもよい個人情報
	問17	情報の提供先	個人情報を知らせてもよい対象
	問18	手助けしている、できる、してほしいこと	活動状況、今後の活動の可能性と必要性
	問19	地域福祉活動への意欲	地域における福祉活動への参加意向
	問20	地域福祉活動の展開範囲	地域福祉活動に係る活動圏域
	問21	地域福祉活動のリーダー	望ましいリーダー像
	問22	地域福祉活動に係る人材の育成	人材の育成に必要な事項
	問23	地域内での連携	地域における連携すべき組織
	(2) サービス提供体制の あり方など、行政、 社会福祉協議会及び 地域住民それぞれが 果たすべき役割等の 検討を進めるために 必要な事項	問37	民生委員・児童委員の認知の有無
問38		民生委員・児童委員への期待	今後、充実すべき活動や事業
問26		ボランティア活動の経験	ボランティア活動などに係る経験の有無
問27		参加したボランティア活動等の分野	ボランティア活動状況
問28		参加したいボランティア活動等の分野	ボランティア活動希望
(3) 制度の狭間にも 対応しうる新たな 福祉サービスに 係るニーズを 把握するために 必要な事項	問29	ボランティア活動等へ参加する条件	自分にあった時間や活動内容
	問34	社会福祉協議会の認知の有無	社会福祉協議会活動の認知度
	問35	社会福祉協議会への期待	今後、充実すべき活動や事業
	問24	優先的に解決すべき地域課題	優先的に解決すべき地域課題
	問30	家族内の要支援者等の有無	要支援者の有無
	問31	困ったときの相談先・本来相談したい相談先	福祉生活課題の相談先、充実すべき相談先
	問32	福祉に係る相談結果	相談結果
(4) これまでの取組 に対する評価	問33	解決できなかった相談内容	今後、充実すべき相談先
	問40	虐待発見時の対応方法	虐待発見時の対応先
	問39	成年後見人制度の認知の有無	成年後見人制度への認知度
	問43	地域福祉計画の認知の有無	地域福祉計画の認知度
(5) 市の地域福祉の推進 に必要な事項	問25	計画策定後の地域の変化	取組状況の市民の認識
	問36	地区社会福祉協議会の認知の有無	活動計画の認知度
	問42	市が重点的に取り組むべき福祉施策	今後、充実すべき福祉施策
	問44	地域福祉の取り組みについて（自由記載）	

3 調査の方法

調査の方法は次のとおりである。

(1) 調査対象者

会津若松市民

(2) 調査者数及び回答者数

① 調査者数

満 20 歳以上の市民 2,000 人

年代別対象者数

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
330 人	330 人	330 人	330 人	330 人	350 人

② 回答者数及び回答率

622 人 (31.1%)

(3) 抽出方法

住民基本台帳から抽出した。

(4) 調査方法

郵送による配付・回収した。

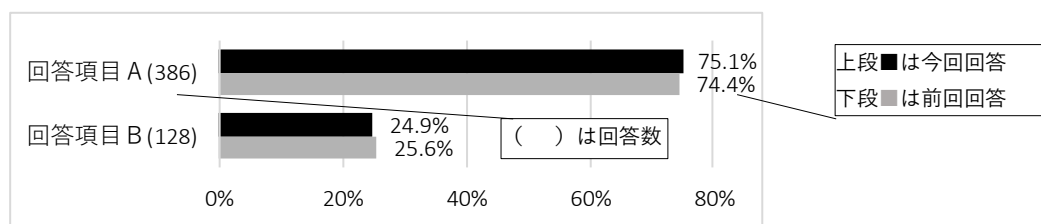
(5) 調査期間

令和元年 11 月 15 日 から 12 月 2 日 までの 2 週間 (令和元年 12 月 11 日 到着分まで集計)

(6) その他

○ 本文及びグラフの () 内に記載している数字は、各回答項目の今回アンケートの回答数である。

○ グラフの上段は今回の回答で、下段は前回 (平成 25 年度) の回答である。



○ 回答率については、「各回答項目の回答数／有効回答者数」で算出している。

○ 集計では、回答の比率を小数点第二位で四捨五入して表記しているため、各項目の合計が 100.0%にならない場合がある。

○ 説明は、欠損値を除く形で行っている。

○ 地区別の集計については、地区が特定できないものを除いて集計しているため、数値や割合の合計が全体の集計と一致しない。

○ 年代別の集計については、年齢が特定できないものを除いて集計しているため、数値や割合の合計が全体の集計と一致しない。

第2章 調査対象者の基本情報

この章では、どのような人がこのアンケートに回答しているのか、調査対象者の基本情報を分析している。

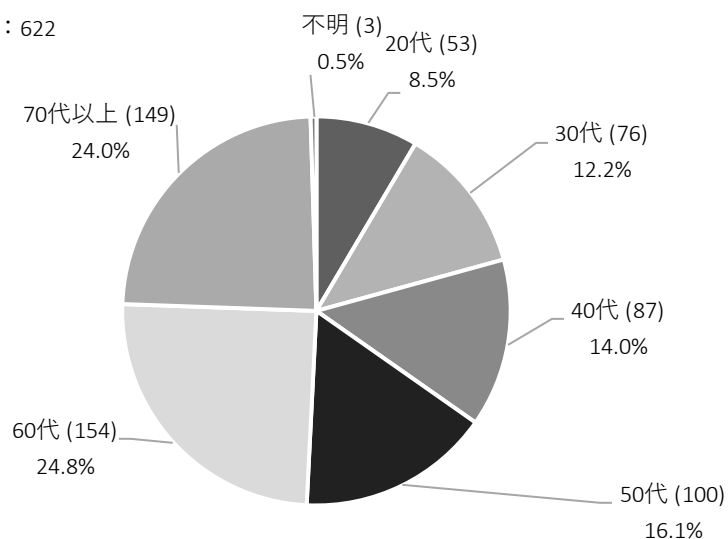
1 年齢、性別及び家族構成

(1) 年齢

回答者の年齢層については図2-1『年齢』のとおりであり、60代及び70代以上で全体の約半分を占める状況にある。また若干の低下がみられるが、50代、40代、30代、20代と年代が低下するほど回答者数が減少している。

図2-1 年齢

有効回答者数：622

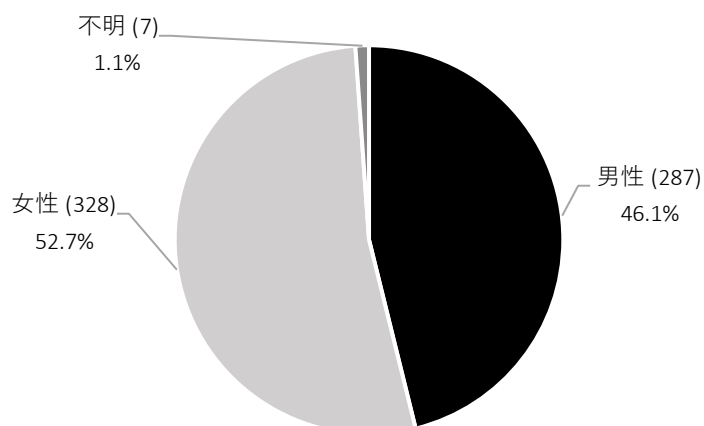


(2) 性別

回答者の性別については、図 2-2『性別』のとおりであり、男性が 46.1% (287 人)、女性が 52.7% (328 人) だった。

図 2-2 『性別』

有効回答者数：622



(3) 地区別家族の人数（構成）

回答者の家族数（回答者本人を含む）については、表 2-1『地区別家族数』のとおりであり、家族数について地区別に類型化した。

まず、2 人以下で生活する世帯が多い小学校区は、大戸 50.0%(3 件) である。市全体では、2 人以下で生活する世帯が 33.4%(208 件) だった。

次に、3 人以上で生活する世帯が多いのは荒館 87.1% (27 件)、湊 80.0%(8 件)、川南 80.0%(12 件)、河東 79.6%(43 件)、神指 76.5%(13 件)、永和 75.0%(9 件)、謹教 74.4%(32 件)、門田 74.4%(32 件)、城南 73.1%(19 件) だった。市全体では、3 人以上で生活する世帯が 66.6%(414 件) だった。

表 2-1 『地区別家族数』

小学校区	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	合 計	2人以下	3人以上
鶴城	6	11	10	5	1	4	37	17	20
	16.2%	29.7%	27.0%	13.5%	2.7%	10.8%	100%	45.9%	54.1%
城北	3	19	10	11	6	4	53	22	31
	5.7%	35.8%	18.9%	20.8%	11.3%	7.5%	100%	41.5%	58.5%
行仁	4	6	4	8	2	2	26	10	16
	15.4%	23.1%	15.4%	30.8%	7.7%	7.7%	100%	38.5%	61.5%
城西	8	12	18	12	1	4	55	20	35
	14.5%	21.8%	32.7%	21.8%	1.8%	7.3%	100%	36.4%	63.6%
謹教	3	8	15	6	6	5	43	11	32
	7.0%	18.6%	34.9%	14.0%	14.0%	11.6%	100%	25.6%	74.4%
日新	2	8	7	8	3	2	30	10	20
	6.7%	26.7%	23.3%	26.7%	10.0%	6.7%	100%	33.3%	66.7%
湊	1	1	2	2	1	3	10	2	8
	10.0%	10.0%	20.0%	20.0%	10.0%	30.0%	100%	20.0%	80.0%
一箕	5	17	16	7	3	7	55	22	33
	9.1%	30.9%	29.1%	12.7%	5.5%	12.7%	100%	40.0%	60.0%
松長	4	7	4	5	1	2	23	11	12
	17.4%	30.4%	17.4%	21.7%	4.3%	8.7%	100%	47.8%	52.2%
永和		3	5	1	2	1	12	3	9
	0.0%	25.0%	41.7%	8.3%	16.7%	8.3%	100%	25.0%	75.0%
神指		4	4	5		4	17	4	13
	0.0%	23.5%	23.5%	29.4%	0.0%	23.5%	100%	23.5%	76.5%
門田	4	7	6	8	5	13	43	11	32
	9.3%	16.3%	14.0%	18.6%	11.6%	30.2%	100%	25.6%	74.4%
城南	2	5	7	7	3	2	26	7	19
	7.7%	19.2%	26.9%	26.9%	11.5%	7.7%	100%	26.9%	73.1%
大戸	1	2	1		1	1	6	3	3
	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	100%	50.0%	50.0%
東山	4	7	7	6	1	2	27	11	16
	14.8%	25.9%	25.9%	22.2%	3.7%	7.4%	100%	40.7%	59.3%
小金井	3	8	4	8	6	8	37	11	26
	8.1%	21.6%	10.8%	21.6%	16.2%	21.6%	100%	29.7%	70.3%
荒館		4	6	7	3	11	31	4	27
	0.0%	12.9%	19.4%	22.6%	9.7%	35.5%	100%	12.9%	87.1%
川南	1	2		2	2	8	15	3	12
	6.7%	13.3%	0.0%	13.3%	13.3%	53.3%	100%	20.0%	80.0%
河東		11	14	8	5	16	54	11	43
	0.0%	20.4%	25.9%	14.8%	9.3%	29.6%	100%	20.4%	79.6%
地区不明	6	9	3	2	0	2	22	15	7
	27.3%	40.9%	13.6%	9.1%	0.0%	9.1%	100%	68.2%	31.8%
合 計	57	151	143	118	52	101	622	208	414
	9.2%	24.3%	23.0%	19.0%	8.4%	16.2%	100%	33.4%	66.6%

(4) 地区別同居世代数

回答者の同居世代状況については、表 2-2『地区別同居世代数』のとおりであり、同居世代数について地区別に類型化した。市内 19 地区のうち 10 地区においては二世代同居の割合が最も多く、全体でも 40.2%(250 件) だった。

なお、前回調査と比べ、四世代同居が 18.8%から 4.0%に減少しているのに対し、一世代は 13.1%から 31.2%へ増加している。

また、二世代同居が多数を占めている地区は 15 地区で、全体でも 41.1%であった。

次に、三世代同居が多数を占める小学校区は荒館 48.4%(15 件)や川南 46.7%(7 件)、神指 47.1%(8 件) だった。

また、二世代以上が同居している割合が 80%を超えているのが 4 地区 (湊、城南、荒館、川南)あり、市全体では 68.8%(428 件) である。

表 2-2 地区別同居世代数

小学校区	一世代	二世代	三世代	四世代	合計	二世代以上
鶴城	16	13	7	1	37	21
	43.2%	35.1%	18.9%	2.7%	100%	56.8%
城北	16	29	8		53	37
	30.2%	54.7%	15.1%		100%	69.8%
行仁	10	11	5		26	16
	38.5%	42.3%	19.2%		100%	61.5%
城西	22	26	5	2	55	33
	40.0%	47.3%	9.1%	3.6%	100%	60.0%
謹教	11	21	10	1	43	32
	25.6%	48.8%	23.3%	2.3%	100%	74.4%
日新	8	15	7		30	22
	26.7%	50.0%	23.3%		100%	73.3%
湊	2	3	4	1	10	8
	20.0%	30.0%	40.0%	10.0%	100%	80.0%
一箕	19	25	10	1	55	36
	34.5%	45.5%	18.2%	1.8%	100%	65.5%
松長	10	8	5		23	13
	43.5%	34.8%	21.7%		100%	56.5%
永和	3	6	2	1	12	9
	25.0%	50.0%	16.7%	8.3%	100%	75.0%
神指	4	5	8		17	13
	23.5%	29.4%	47.1%		100%	76.5%
門田	12	12	14	5	43	31
	27.9%	27.9%	32.6%	11.6%	100%	72.1%
城南	5	14	6	1	26	21
	19.2%	53.8%	23.1%	3.8%	100%	80.8%
大戸	3	1	2		6	3
	50.0%	16.7%	33.3%		100%	50.0%
東山	9	13	5		27	18
	33.3%	48.1%	18.5%		100%	66.7%
小金井	11	13	10	3	37	26
	29.7%	35.1%	27.0%	8.1%	100%	70.3%
荒館	5	9	15	2	31	26
	16.1%	29.0%	48.4%	6.5%	100%	83.9%
川南	3	2	7	3	15	12
	20.0%	13.3%	46.7%	20.0%	100%	80.0%
河東	12	17	22	3	54	42
	22.2%	31.5%	40.7%	5.6%	100%	77.8%
地区不明	13	7	1	1	22	9
	59.1%	31.8%	4.5%	4.5%	100%	40.9%
合計	194	250	153	25	622	428
	31.2%	40.2%	24.6%	4.0%	100%	68.8%

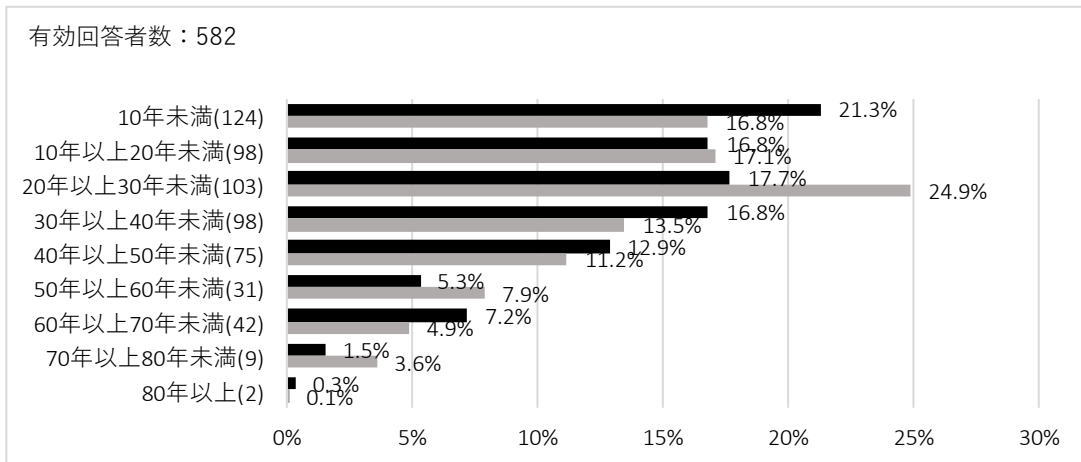
2 居住年数と住まいの状況

(1) 居住年数

回答者の居住年数については、図 2-3『居住年数』のとおりであり、「10年未満」が21.3%(124件)と最も多い状況にあり、居住年数20年以上の回答を合算すると61.9%(360件)である。

前回調査時と比較し「10年未満」が4.5ポイントの増加、「20年以上30年未満」が7.2ポイント減少していた。

図 2-3 居住年数

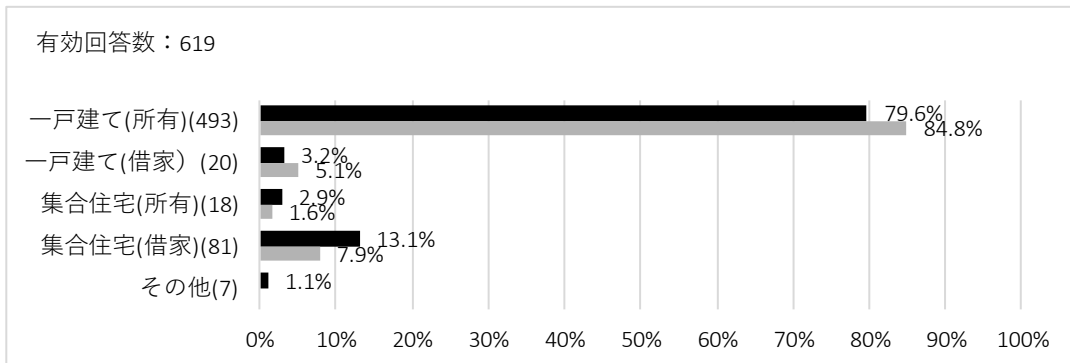


(2) 住まいの状況

回答者の住まいの状況については、図 2-4『住まいの状況』のとおりであり、「一戸建て(自己・家族所有)」が76.9%(493件)である。さらに、「一戸建て(自己・家族所有)」と「一戸建て(借家)」を合計すると82.9(513件)となる。

また、前回調査と比較すると、「一戸建て(自己・家族所有)」が前回より、5.2ポイント減少する一方で、「集合住宅(借家)」が5.2ポイント増加している。

図 2-4 住まいの状況



《その他の回答》

会社 等

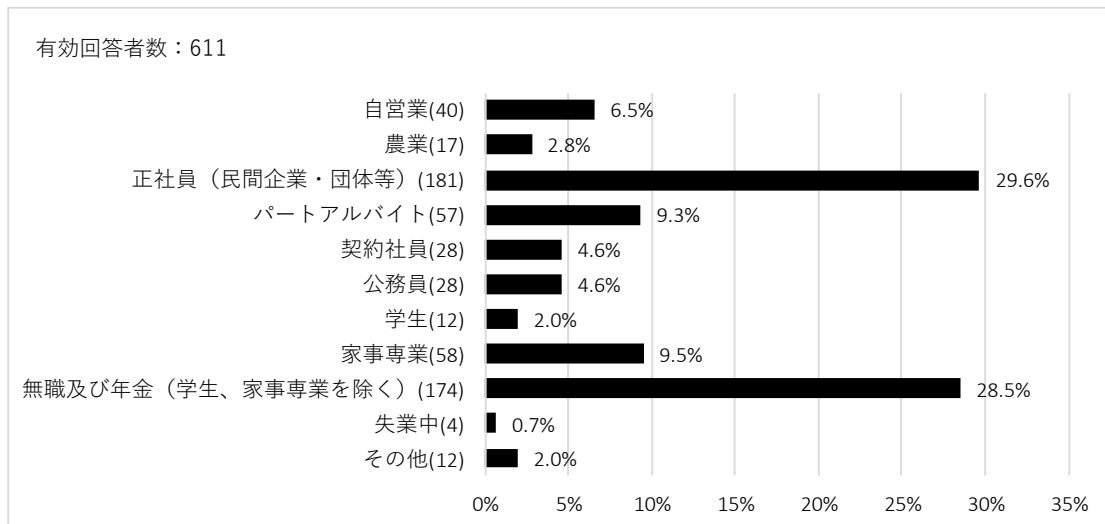
3 職業、勤務日数及び世帯の収入

(1) 職業分布

回答者の職業については、図 2-5『職業分布』のとおりであり、「正社員（民間企業・団体等）」が 29.6%(181 件)、「パート・アルバイト」が 9.3%(57 件)、「契約社員」と「公務員」がそれぞれ 4.6%(28 件)で、勤務している者が 47.3%(294 件)だった。

一方、「無職及び年金（学生・家事専業を除く）」が 28.5%(174 件)、「家事専業」が 9.5%(58 件)、「失業中」が 0.7%(4 件)と、勤務していない者が 38.6%(236 件)をだっ

図 2-5 職業分布



《その他の回答》

就労継続支援事業所 等

(2) 勤務日数

回答者の勤務日数を職業別に類型化した結果は、表 2-3『職業別勤務日数』のとおりであり、勤務者の 52.8%が 5 日から 7 日の勤務であった。

回答者全体では、勤務日数が 0 日から 2 日までの人が 42.1%、5 日から 7 日までの人が 52.8%であった。

表 2-3 職業別勤務日数

職 業	0日	1日～2日	3日～4日	5日～6日	7日	合計	0日～2日	5日～7日
自営業			6	20	3	29		23
			20.7%	69.0%	10.3%	100%		79%
農 業				3	4	7		7
				42.9%	57.1%	100%		100%
正社員		2	2	170	1	175	2	171
		1.1%	1.1%	97.1%	0.6%	100%	1.1%	97.7%
パート・ アルバイト		1	15	40		56	1	40
		1.8%	26.8%	71.4%		100%	1.8%	71.4%
契約社員			2	26		28		26
			7.1%	92.9%		100%		93%
公務員				26		26		26
				100%		100%		100%
学 生			3	7		10		7
			30.0%	70.0%		100%		70%
家事専業	58					58	58	
	100%					100%	100%	
無職・ 年金生活	174					174	174	
	100%					100%	100%	
失業中	4					4	4	
	100%					100%	100%	
その他	3	2	1	6		12	5	6
	25.0%	16.7%	8.3%	50.0%		100%	41.7%	50.0%
合 計	239	5	29	298	8	579	244	306
	41.3%	0.9%	5.0%	51.5%	1.4%	100%	42.1%	52.8%

(3) 勤務時間

回答者の勤務時間数を職業別に類型化した結果は、表 2-4『勤務時間』のとおりであり、勤務しているグループでは、「自営業」が 82.8%(24 件)、「農業」が 100%(8 件)、「正社員」が 100%(175 件)、「パート・アルバイト」が 82.1%(46)、「契約社員」が 96.4%(27)、「公務員」が 96.0%(24)と多くが 5 時間以上の勤務となっている。

全体では、5 時間以上の勤務をしている人が 52.7%、5 時間未満の勤務をしている人が 47.3%だった。

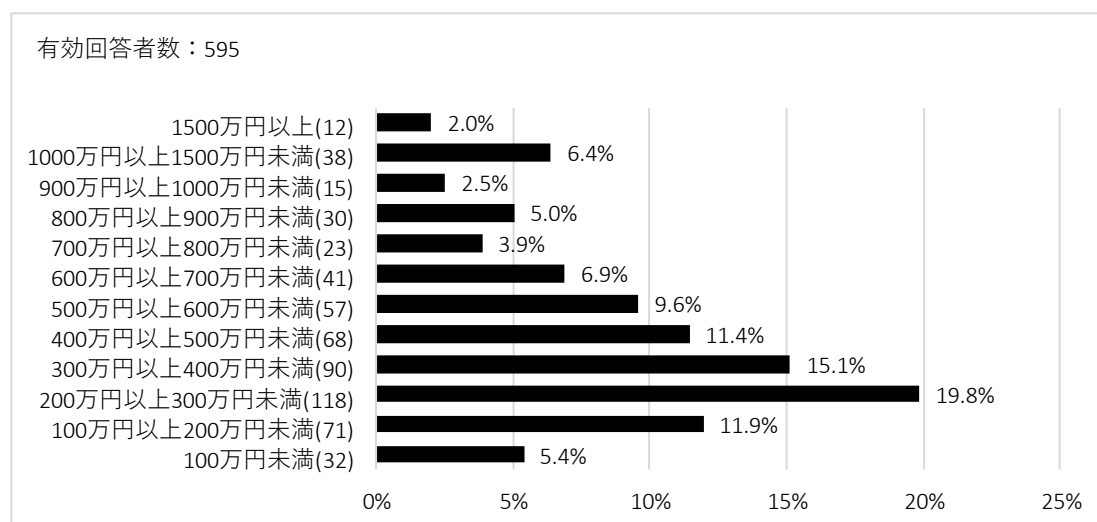
表 2-4 勤務時間

職 業	0時間	1～4時間	5～8時間	9時間～	合計	5時間以上
自営業		5	16	8	29	24
		17.2%	55.2%	27.6%	100%	82.8%
農 業			7	1	8	8
			87.5%	12.5%	100%	100%
正社員			128	47	175	175
			73.1%	26.9%	100%	100%
パート・ アルバイト		10	41	5	56	46
		17.9%	73.2%	8.9%	100%	82.1%
契約社員		1	24	3	28	27
		3.6%	85.7%	10.7%	100%	96.4%
公務員		1	17	7	25	24
		4.0%	68.0%	28.0%	100%	96.0%
学 生		1	7	1	9	8
		11.1%	77.8%	11.1%	100%	88.9%
家事専業	58				58	
	100%				100%	
無職・ 年金生活	174				174	
	100%				100%	
失業中	4				4	
	100%				100%	
その他	3	4	5		12	5
	25.0%	33.3%	41.7%		100%	41.7%
合 計	239	21	221	69	550	290
	43.5%	3.8%	40.2%	12.5%	100%	52.7%

(4) 世帯収入

回答世帯の収入については、図 2-6『世帯全体にかかるおおよその収入』のとおりであり、世帯年収「200 万円以上 300 万円未満」が 19.8%(118 件)、「300 万円以上 400 万円未満」が 15.1%(90 件)、「100 万円以上 200 万円未満」が 11.9%(71 件)、「400 万円以上 500 万円未満」が 11.4%(68 件)であり、世帯収入が 100 万円以上 500 万円未満に全体の 58.3%が集中している。

図 2-6 世帯全体にかかるおおよその収入

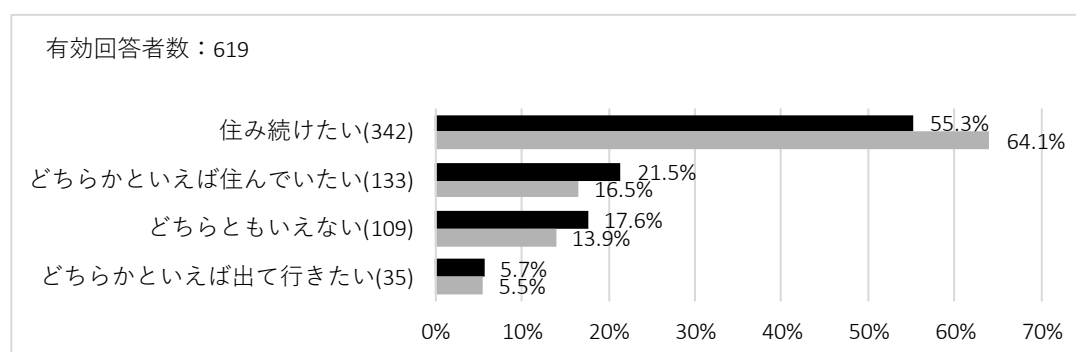


4 継続居住の意向

回答者の「継続居住の意向」については、図 2-7『継続居住意向』のとおりであり、「住み続けたい」が 55.3%(342 件)、「どちらかといえば住んでいたい」が 21.5%(133 件)、「どちらともいえない」が 17.6%(109 件)、「どちらかといえば出て行きたい」が 5.7%(35 件)だった。

「住み続けたい」、「どちらかといえば住んでいたい」という継続して居住したいと考える人が全体の 76.8%となっている。前回調査より 3.8 ポイント減少し、そのうち「住み続けたい」が 8.8 ポイント減少していた。

図 2-7 継続居住意向



第3章 地域活動の状況等

この章では、住み慣れた地域で生活をするために、どのような支援が必要なのかを調査した。特に、ここ数年来、孤立死が社会問題となっていることから、孤立死を未然に防止するための地域住民による見守りや声かけといった活動の必要性について調査したいと考えた。

近年、女性の社会進出や核家族化が進行し、若い世代に町内会行事などから生まれる近所づきあいがあまり見られなくなっている。そして、これまで高齢者や障がい者などを普段の生活の中で見守る、あるいは手伝うという地域コミュニティの機能が弱体化している。

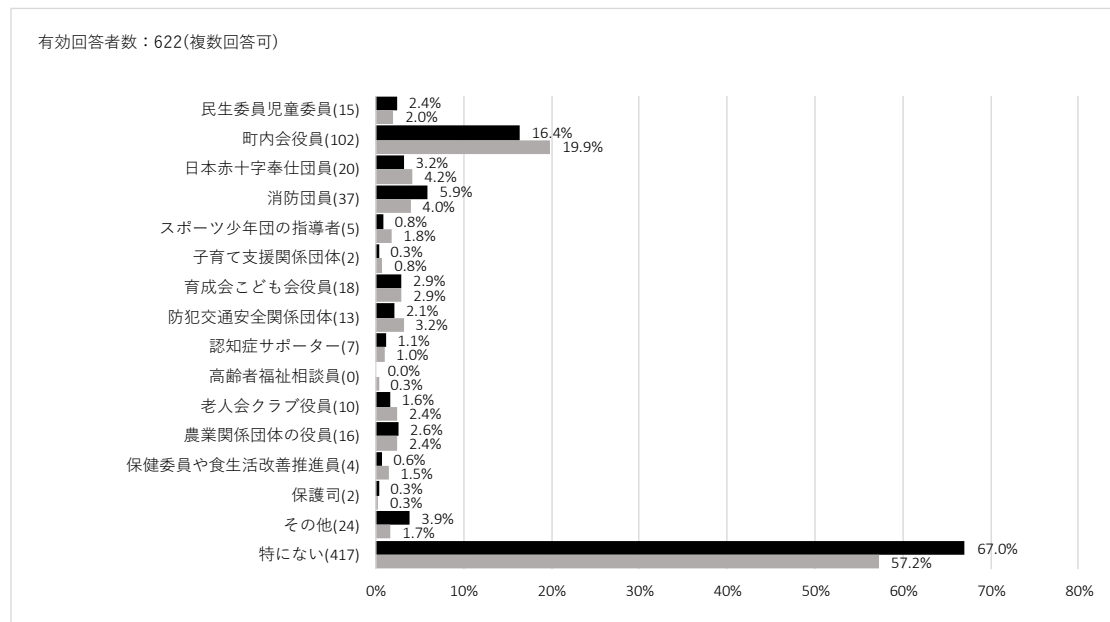
このような状況を踏まえ、行政、住民、社会福祉協議会などによる地域福祉活動組織の基盤づくり等に必要な事項について分析している。

1 地域での役割

回答者が担っている地区での役割（役職）については、図3-1『地域での役割』のとおりであり、「特になし」が67.0%(417件)で、これを除く33.0%が地域において何らかの役割を担っている。

具体的な役割（役職）としては、「町内会役員」が16.4%(102件)、「消防団員」.9%(37件)、「日本赤十字奉仕団員」が3.2%(20件)という結果であった。

図3-1 地域での役割



《その他の回答》

婦人消防団、学校支援員、青年団、寺社役員 等

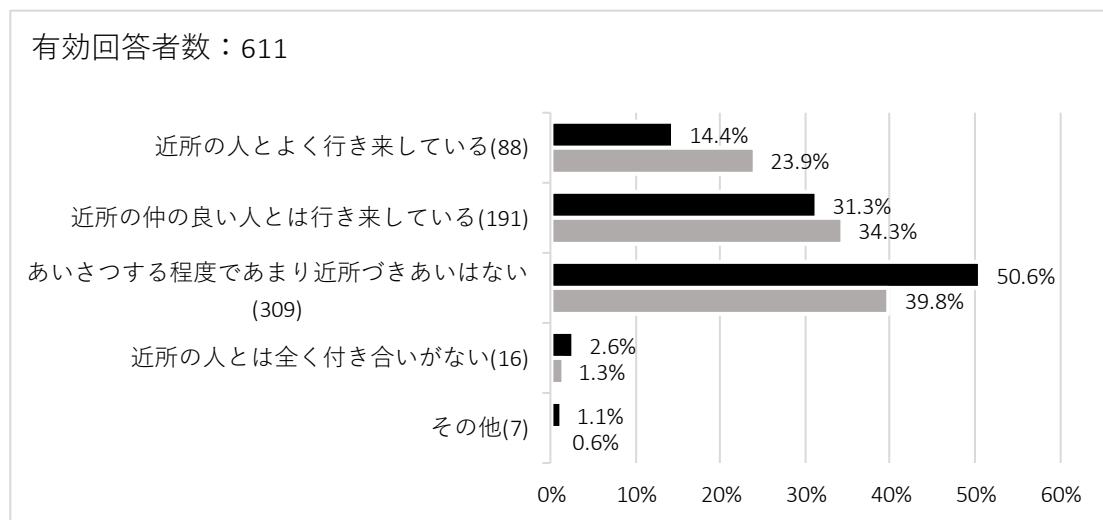
2 近所づきあいの状況

近所づきあいの程度については、図 3-2『近所づきあいの程度』のとおりであり、「あいさつする程度であまり近所づきあいはない」が 50.6%(309 件)、「近所の人とは全くつきあいがいい」が 2.6%(16 件)であり、近所づきあいがいいと回答した人の合計は 53.2%(325 件)であった。

一方、「近所の仲の良い人とは行き来している」が 31.3%(191 件)、「近所の人とよく行き来している」が 14.4%(88 件)で、近所づきあいがいいと回答した人の合計は 45.7%(279 件)であった。

前回調査では、近所づきあいがいいと回答した人の合計は 41.1%であり、今回 13.4 ポイント増加した。その内訳は、「あいさつする程度であまり近所づきあいはない」が 10.8 ポイント、「近所の人とは全くつきあいがいい」1.3 ポイントとなっている。

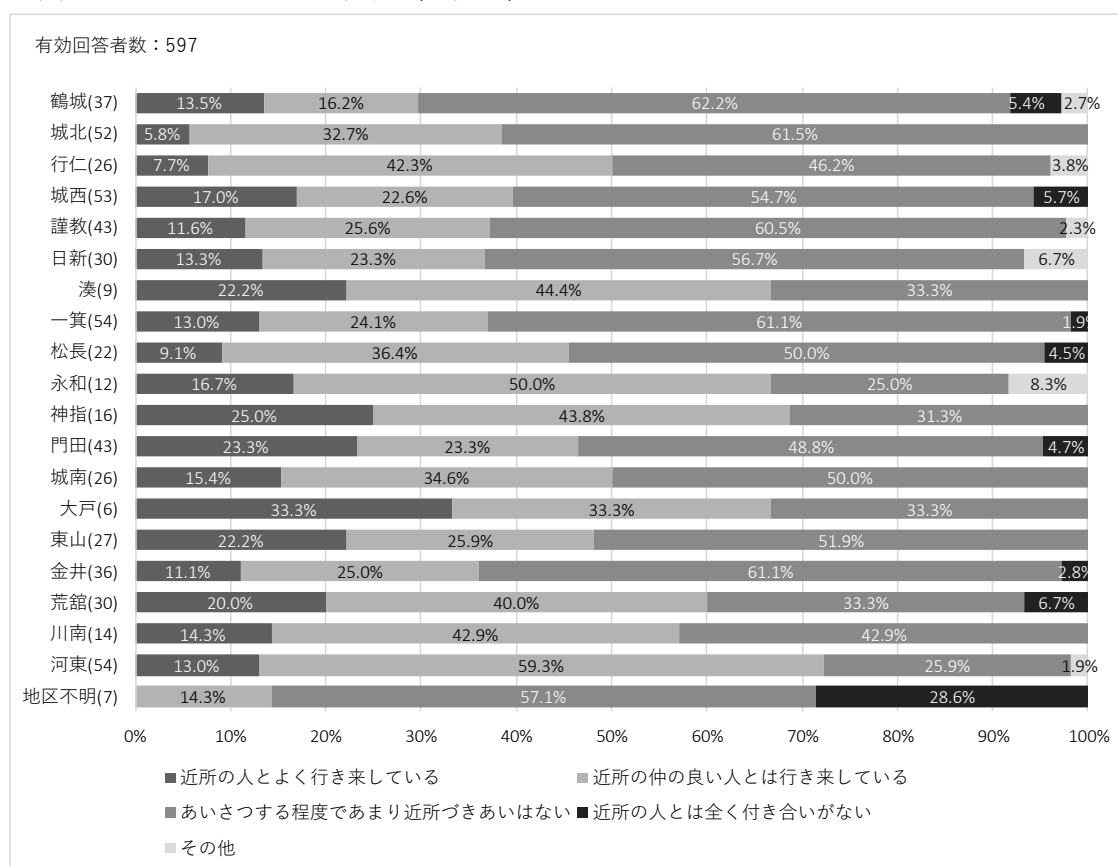
図 3-2 近所づきあいの程度



「近所づきあいの状況」を小学校区別に集計すると、図 3-3『近所づきあいの程度（地区別）』のとおりであり、「近所と行き来している」の割合が河東地区は 72.3%、神指、湊、永和、大戸の小学校区はそれぞれ 60%以上となっている。

逆に鶴城、小金井、一箕、城北、謹教、城西の小学校区では近所づきあいが無いの割合が 60%を超え、地区によって近所づきあいの程度に違いが見られた。

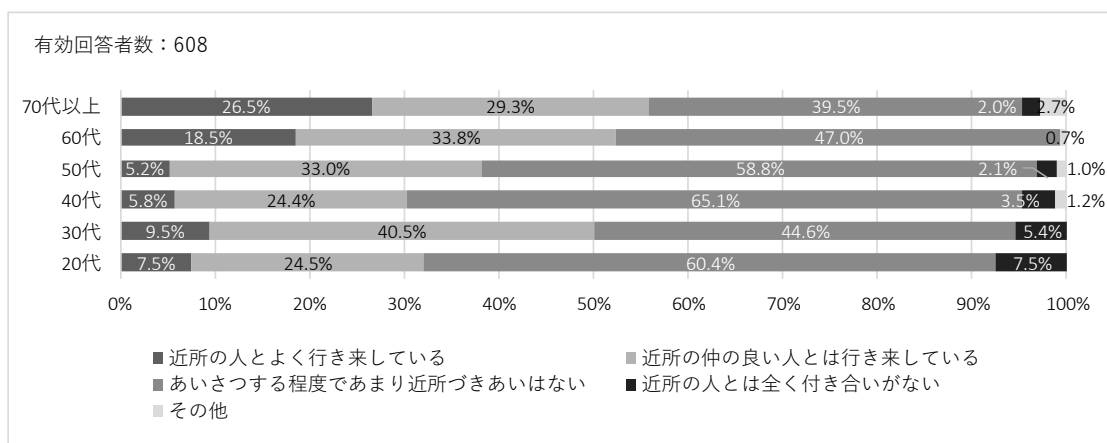
図 3-3 近所づきあいの程度（地区別）



「近所づきあいの程度」を年代別に集計すると、図 3-4『近所づきあいの程度（年代別）』のとおりであり、近所づきあいがあるとの割合が 70 代以上、60 代、30 代は 50%以上である。特に 70 代以上は、「近所の人とよく行き来している」が 26.5%となった。

逆に 50 代、40 代、20 代は近所づきあいが無いの割合が 60%以上で、年代によって近所づきあいの程度に違いが見られた。

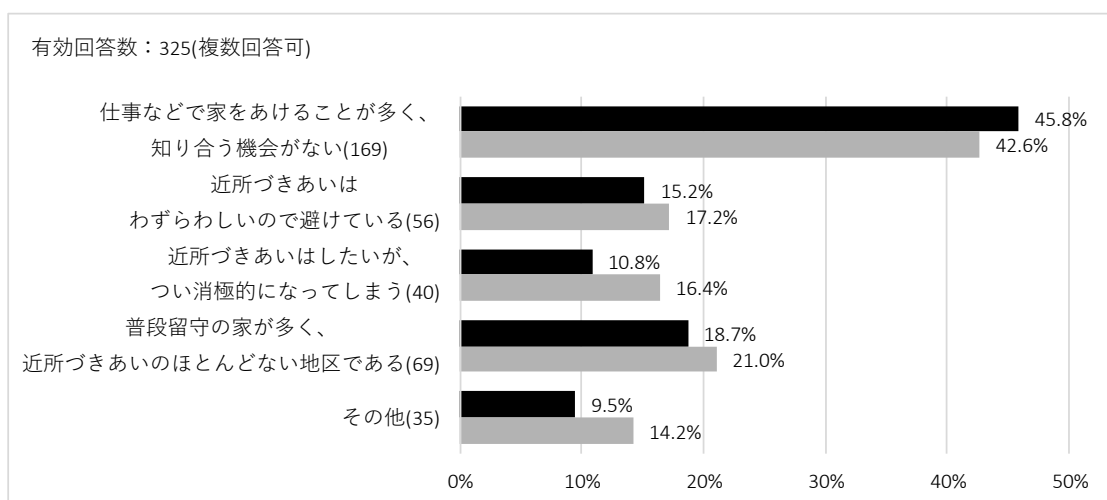
図 3-4 近所づきあいの程度（年代別）



「近所づきあいがない」理由については、その理由を3項目まで選択可として質問を行った。結果は図 3-5『近所づきあいできない理由』のとおり、「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」が45.8%(169件)、「ふだん留守の家が多く、近所づきあいのほとんどない地区である」が18.7%(69件)、「近所づきあいはしたいが、つい消極的になってしまう」は10.8%(40件)であった。また、「近所づきあいはわずらわしいので避けている」と回答したのは、15.2%(56件)であった。

前回調査と比べると、「知り合う機会がない」が3.2ポイント増加し、「近所づきあいのない地区」が2.3ポイントの減少、「消極的になってしまう」が5.6ポイントの減少、「わずらわしいので避けている」が2.0ポイントの減少が見られた。

図 3-5 近所づきあいできない理由



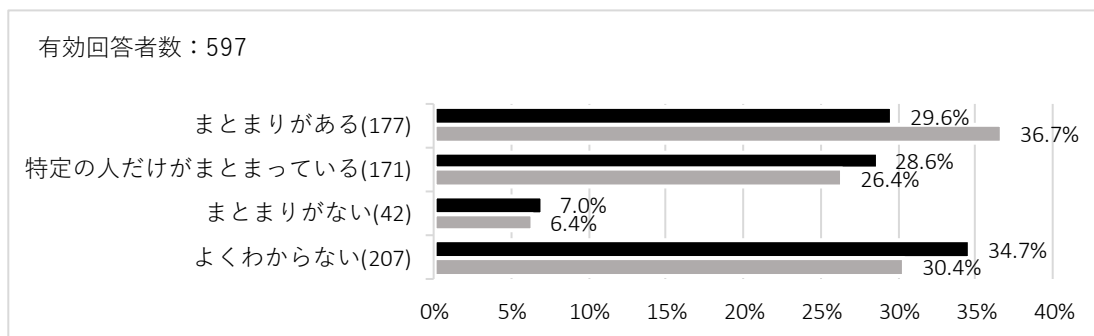
《その他の回答》

病気で近所づきあいが難しい、引っ越してきたばかり 等

3 近所のまとまり

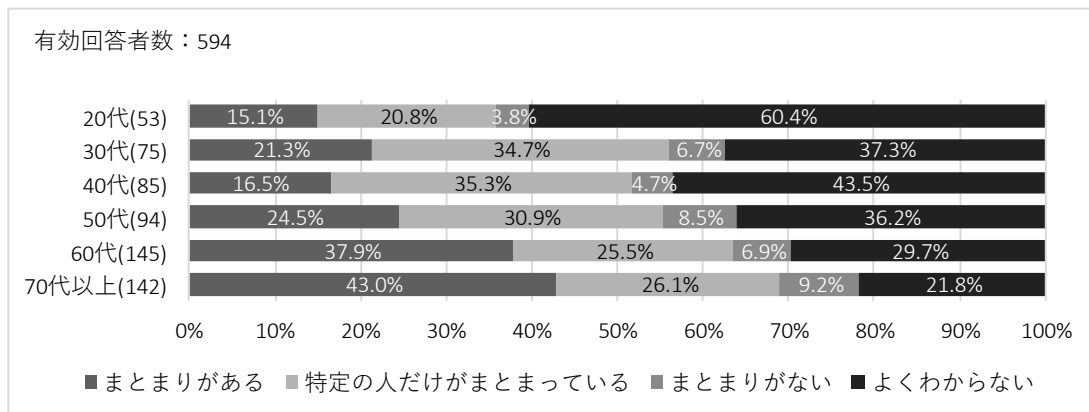
「近所のまとまり」については、図 3-6『近所のまとまり』のとおりであり、近所について「まとまりがある」が 29.6%(177 件)、「特定の人だけがまとまっている」が 28.6%(171 件)、「まとまりがない」は 7.0% (42 件)だった。また、「よくわからない」と回答した人は、33%(207 件)であった。

図 3-6 近所のまとまり



「近所のまとまり」を年代別に集計すると図 3-7『近所のまとまり (年代別)』のとおりであり、年齢が上がるほど近所が「まとまりがある」と回答している人の割合が多くなり、年齢が下がるほど「よくわからない」との回答の割合が多くなる傾向がある。

図 3-7 近所のまとまり (年代別)

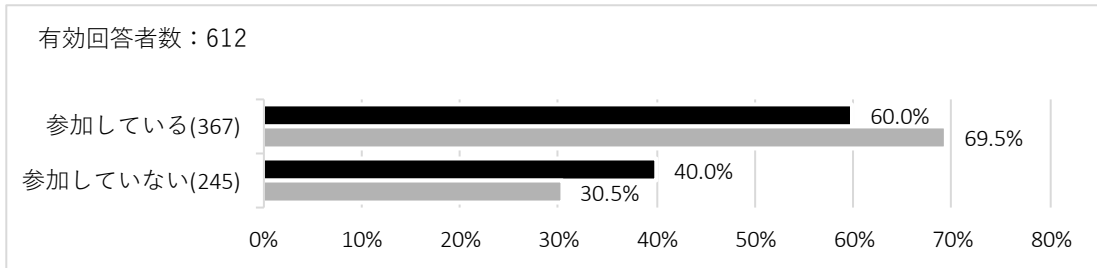


4 地域活動への参加状況

「地域活動への参加状況」については、図 3-8『地域活動への参加状況』のとおりであり、「参加している」が 60.0%(367 件)、「参加していない」が 40.0%(245 件)だった。

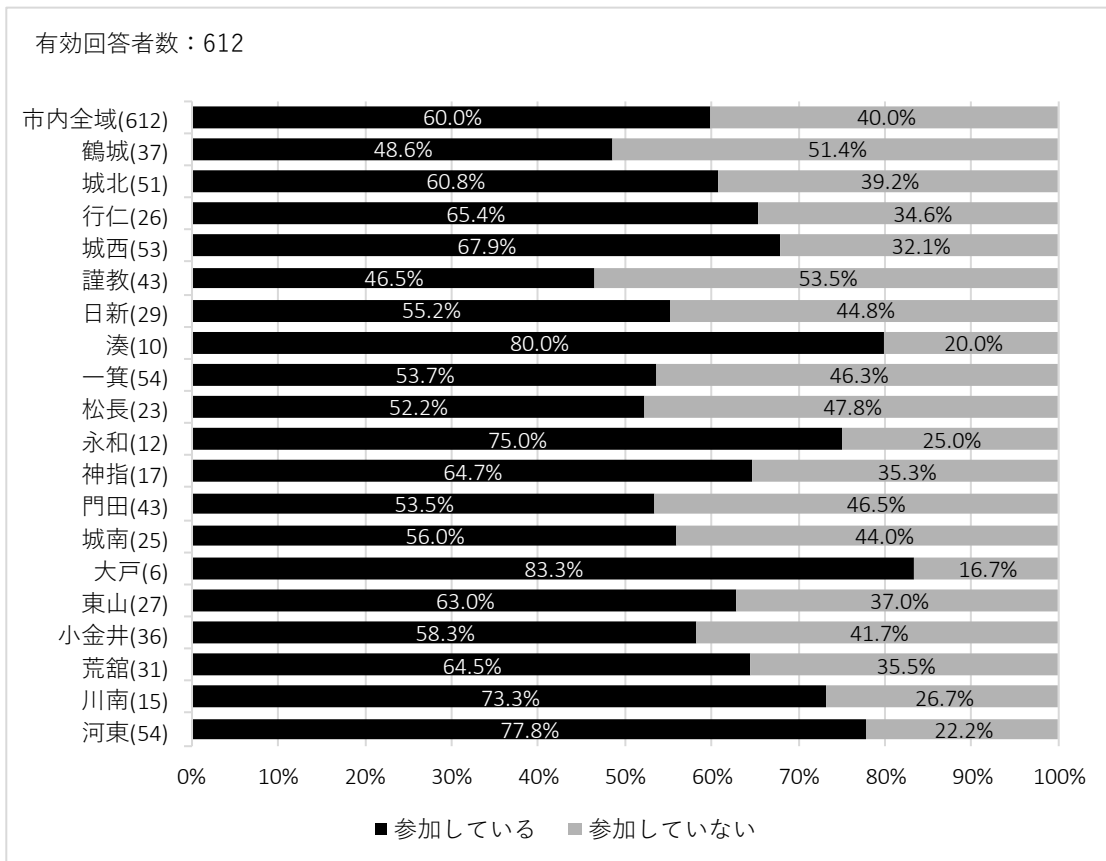
なお、前回調査では、「参加している」が 69.5%であり、9.5 ポイントの減少が見られた。

図 3-8 地域活動への参加状況



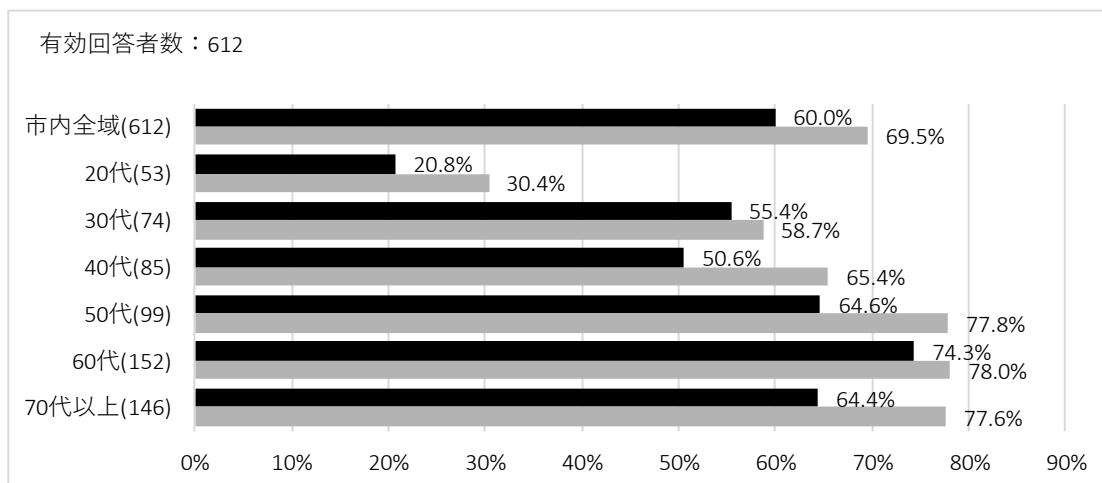
「地域活動への参加状況」を小学校区別で集計した結果が図 3-9『地域活動への参加状況（地区別）』であり、湊、永和、大戸、川南、河東の小学校区での地域活動への参加率が高い状況である。

図 3-9 地域活動への参加状況（地区別）



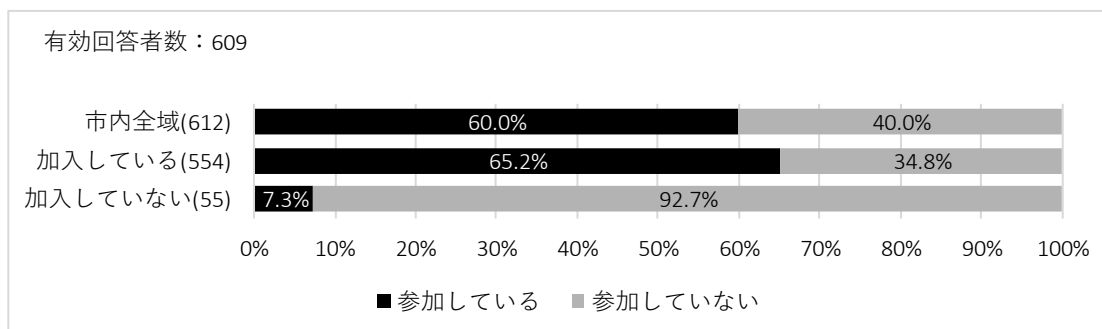
「地域活動への参加状況」を年代別に集計した結果が図 3-10『地域活動への参加状況（年代別）』であり、全世代において参加率の減少が見られる中、特に 20 代の参加率が他の年代と比較して引き続き低い状況になっている。

図 3-10 地域活動への参加状況（年代別）



「地域活動への参加状況」を町内会の加入状況別で集計した結果が図 3-11『地域活動への参加状況（町内会加入状況別）』であり、町内会に加入していない人の地域活動への参加率が低い状況にある。

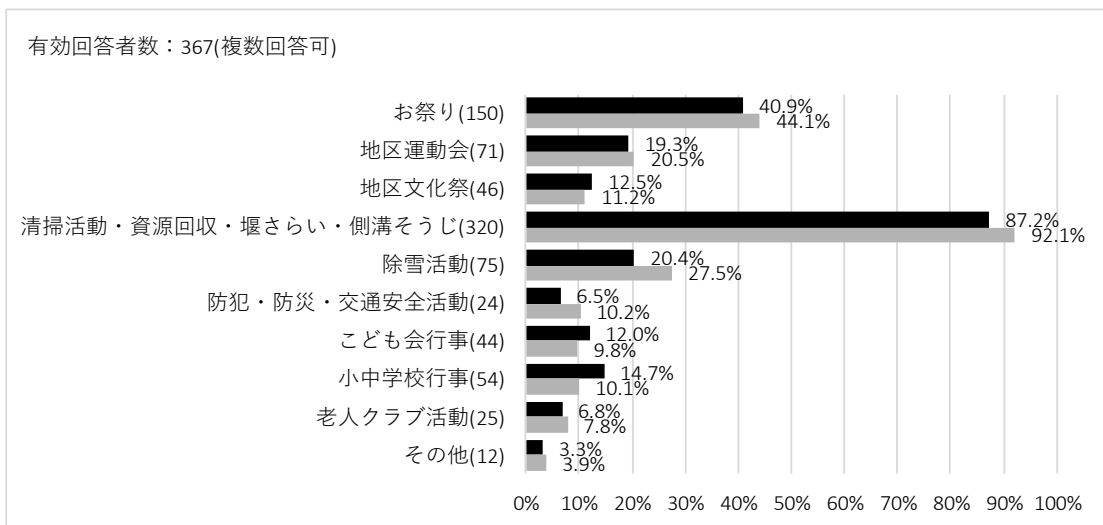
図 3-11 地域活動への参加状況（町内会加入状況別）



「参加している活動や行事」については、図 3-12『参加している活動や行事』のとおりであり、「清掃活動・資源回収・堰さらい・側溝そうじ」が 87.2%(320 件)と極めて参加率が高い。続いて、「お祭り」が 40.9%(150 件)、「除雪活動」は 20.4%(75 件)と続いている。

なお、前回調査と比較すると、「小中学校行事」が 4.6 ポイントの増加、「子ども会行事」2.2 ポイントの増加が見られた。反対に「除雪活動」が 7.1 ポイントの減少、「清掃活動等」が 4.9 ポイントの減少、防犯活動等が 3.7 ポイントの減少であった。

図 3-12 参加している活動や行事



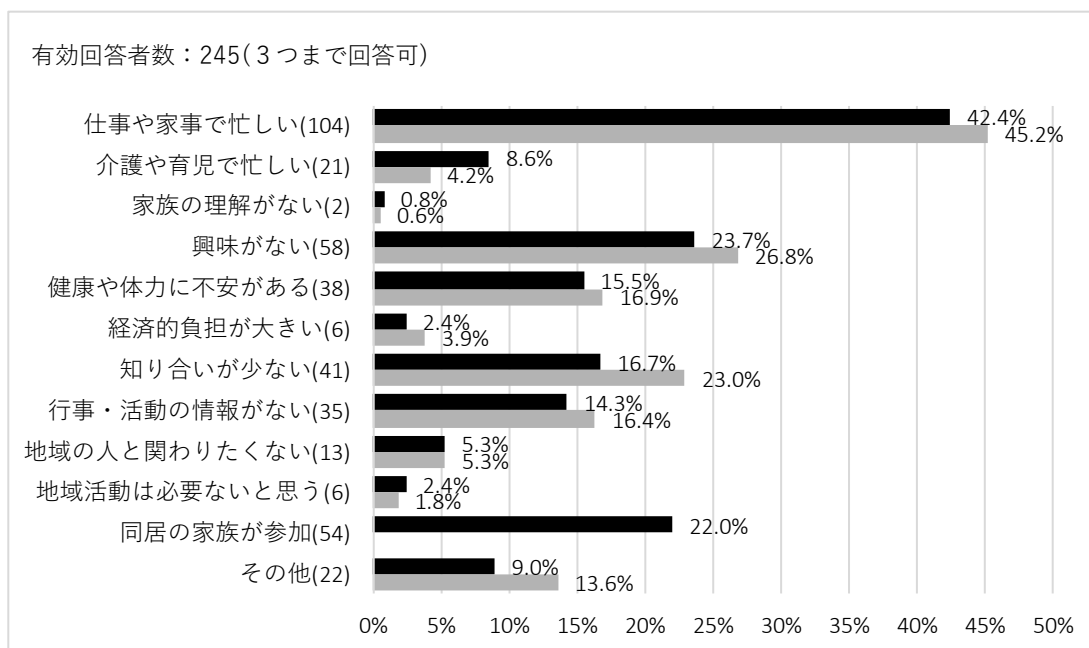
《その他の回答》

芋煮会、旅行、健康教室 等

「参加してない」理由について、その理由を3項目まで選択可として質問を行った。結果は図3-13『参加していない主な理由』のとおりであり、「仕事や家事が忙しい」が42.4% (104件)、「興味がない」が23.7%(58件)、「同居の家族が参加」が22.0%(54件)、「知り合いが少ない」が16.7%(41件)、「健康や体力に不安がある」が15.5%(38)、「行事・活動の情報がない」が14.3%(35件)であった。

前回調査と比較すると、「知り合いが少ない」が7.0ポイント減少している。

図3-13 参加していない主な理由

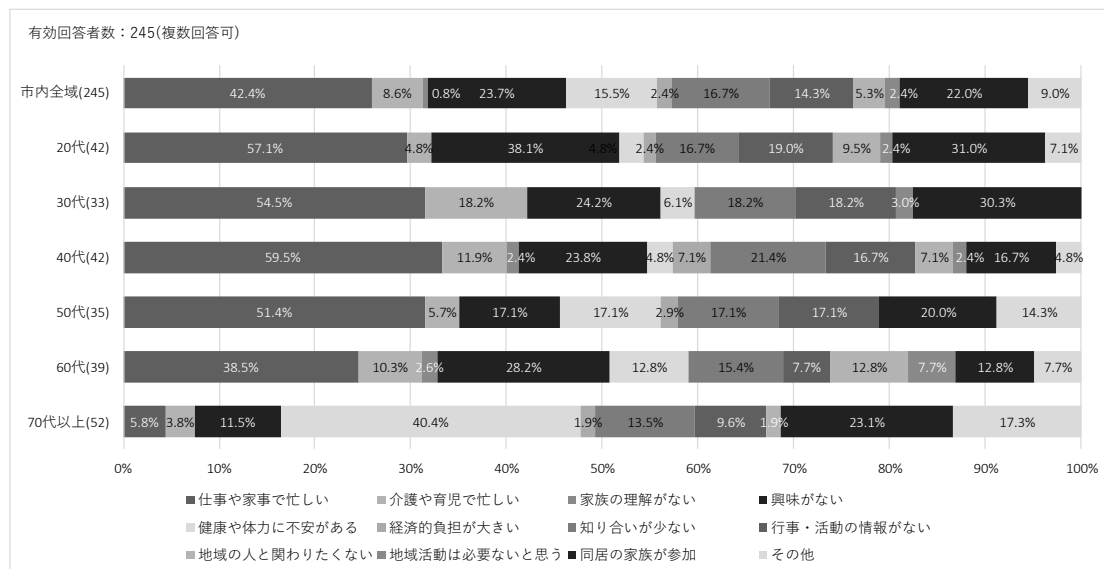


《その他の回答》

集合住宅、生活の中心が別の地域 等

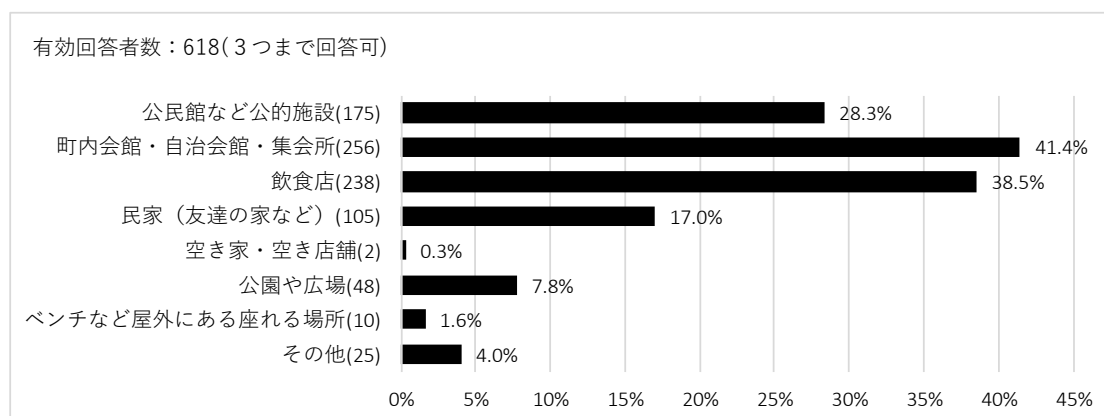
「参加してない」理由を年代別で集計した結果は図 3-14『参加していない主な理由（年代別）』である「行事・活動の情報がない」が 60 代では 7.7%、70 代以上では 9.6%と他の年代と比較し、低くなっている。また、70 代以上の「健康や体力に不安がある」が 40.4%と他の年代と比較し、高くなっている。

図 3-14 参加していない主な理由（年代別）



「活動するときに集まる場所」については、主な 3 項目までを選択可として質問を行った。結果は図 3-15『活動するときに集まる場所』のとおりであり、「町内会館・自治会館・集会所」が 41.4%(256 件)、「飲食店」が 38.5%(238 件)、「公民館など公的施設」が 28.3%(175 件)となっている。

図 3-15 活動するときに集まる場所



《その他の回答》

神社・寺、スポーツジム等運動施設、学校 等

「活動するときに集まる場所」を小学校区別で集計した結果が表 3-1『活動するときに集まる場所（地域別）』である。

「町内会館・自治会館・集会所」と 50%以上の方が回答したのは、湊、永和、神指、大戸、東山、川南、河東の小学校区であり、行仁、松長、城南の小学校区は 50%以上の方が「飲食店」と回答している。

また、湊、大戸、東山の小学校区は、50%程度の方が「公民館など公的施設」と回答している。

表 3-1 活動するときに集まる場所（地域別）

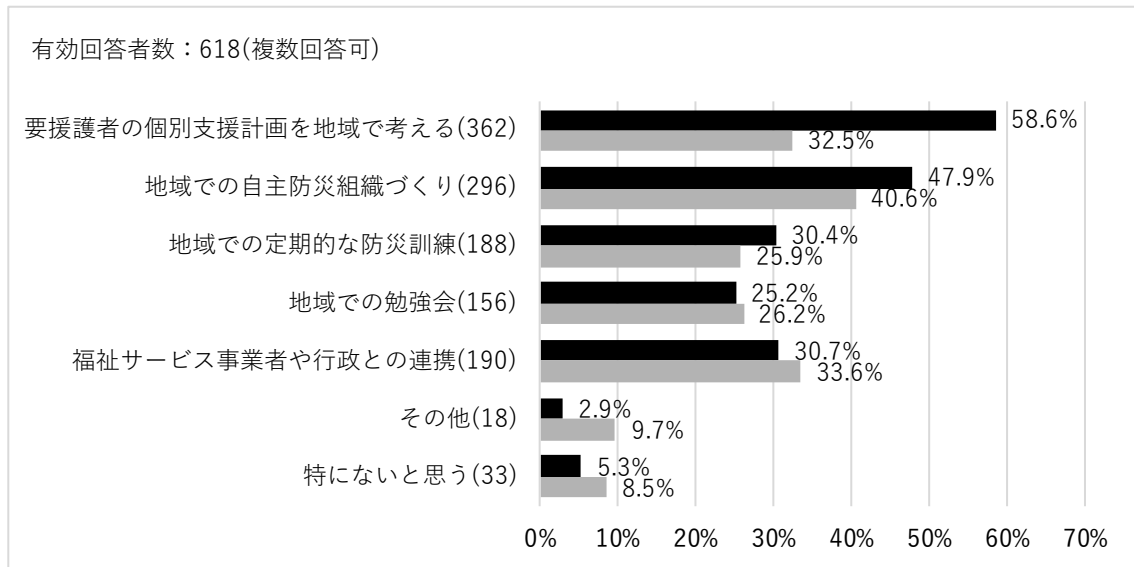
小学校区	公民館など 公的施設	町内会館等	飲食店	民家	公園・広場	その他
市内全域	175	256	238	105	48	37
	28.3%	41.4%	38.5%	17.0%	7.8%	6.0%
鶴城	12	9	10	5	4	3
	32.4%	24.3%	27.0%	13.5%	10.8%	8.1%
城北	15	23	20	8	3	2
	28.3%	43.4%	37.7%	15.1%	5.7%	3.8%
行仁	7	6	16	5	1	0
	28.0%	24.0%	64.0%	20.0%	4.0%	0.0%
城西	15	25	20	11	4	2
	27.3%	45.5%	36.4%	20.0%	7.3%	3.6%
謹教	10	14	17	3	4	2
	23.3%	32.6%	39.5%	7.0%	9.3%	4.7%
日新	9	10	13	5	4	3
	31.0%	34.5%	44.8%	17.2%	13.8%	10.3%
湊	4	6	1	1	0	3
	44.4%	66.7%	11.1%	11.1%	0.0%	33.3%
一箕	9	22	24	10	7	1
	16.4%	40.0%	43.6%	18.2%	12.7%	1.8%
松長	9	6	12	4	1	3
	39.1%	26.1%	52.2%	17.4%	4.3%	13.0%
永和	4	6	3	2	0	0
	36.4%	54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	0.0%
神指	6	9	4	4	1	0
	35.3%	52.9%	23.5%	23.5%	5.9%	0.0%
門田	15	20	17	7	4	3
	34.9%	46.5%	39.5%	16.3%	9.3%	7.0%
城南	7	8	15	2	1	1
	26.9%	30.8%	57.7%	7.7%	3.8%	3.8%
大戸	3	3	1	1	0	0
	50.0%	50.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%
東山	13	14	9	3	2	3
	48.1%	51.9%	33.3%	11.1%	7.4%	11.1%
小金井	8	14	15	9	1	4
	21.6%	37.8%	40.5%	24.3%	2.7%	10.8%
荒館	9	13	13	9	2	4
	29.0%	41.9%	41.9%	29.0%	6.5%	12.9%
川南	3	9	5	4	2	0
	20.0%	60.0%	33.3%	26.7%	13.3%	0.0%
河東	14	32	19	11	4	2
	25.9%	59.3%	35.2%	20.4%	7.4%	3.7%

5 災害時の支え合い

地震や火災等の災害が発生した際の住民による「災害時の支え合い」については、主な3項目まで選択可として質問を行った。結果は図 3-16『災害時に住民同士が協力し合うために必要なこと』のとおりであり、「要援護者の個別支援計画を地域で考える」が58.6%(362件)、「地域での自主防災組織づくり」が47.9%(296件)、「福祉サービス事業者や行政との連携」が30.7%(190件)だった。

前回調査との比較では「要援護者の個別支援計画を地域で考える」が26.1ポイント、「地域での自主防災組織づくり」が7.3ポイント、「地域での定期的な防災訓練」が4.5ポイントそれぞれ増加した。このように住民による「災害時の支え合い」が必要だと考える意識の変化が見られた。

図 3-16 災害時に住民同士が協力し合うために必要なこと



《その他の回答》

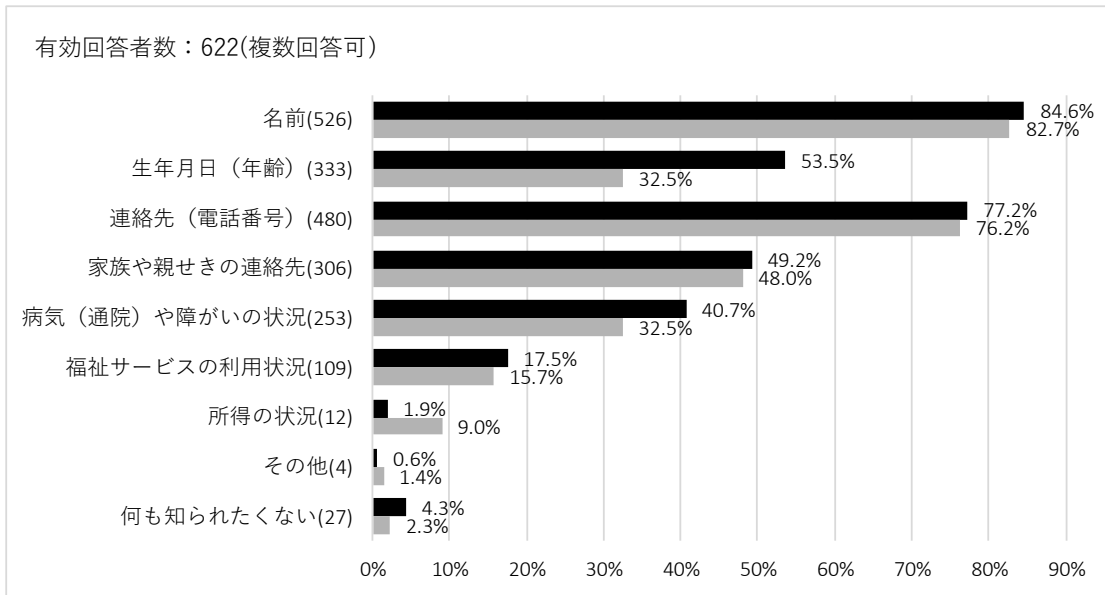
日頃の近所づきあい 等

「災害に備えて知らせてもよいと考えている情報」については、結果は図 3-17『災害に備えて知らせてもよいと考えている情報』のとおりであり、「名前」が84.6%(526件)、「連絡先(電話番号)」が77.2%(480件)、「生年月日」が53.5%(333件)、「家族や親せきの連絡先」が49.2%(306件)、「病気(通院)や障がいの状況」が40.7%(253件)だった。

また、「何も知られたくない」との回答も4.3%(27件)あり、前回調査と比較すると2ポイントの増加が見られた。

そのほかでは前回調査と比較すると「生年月日(年齢)」が21.0ポイント、「病気(通院)や障がいの状況」8.2ポイントの増加が見られた。

図 3-17 災害に備えて知らせてもよいと考えている情報



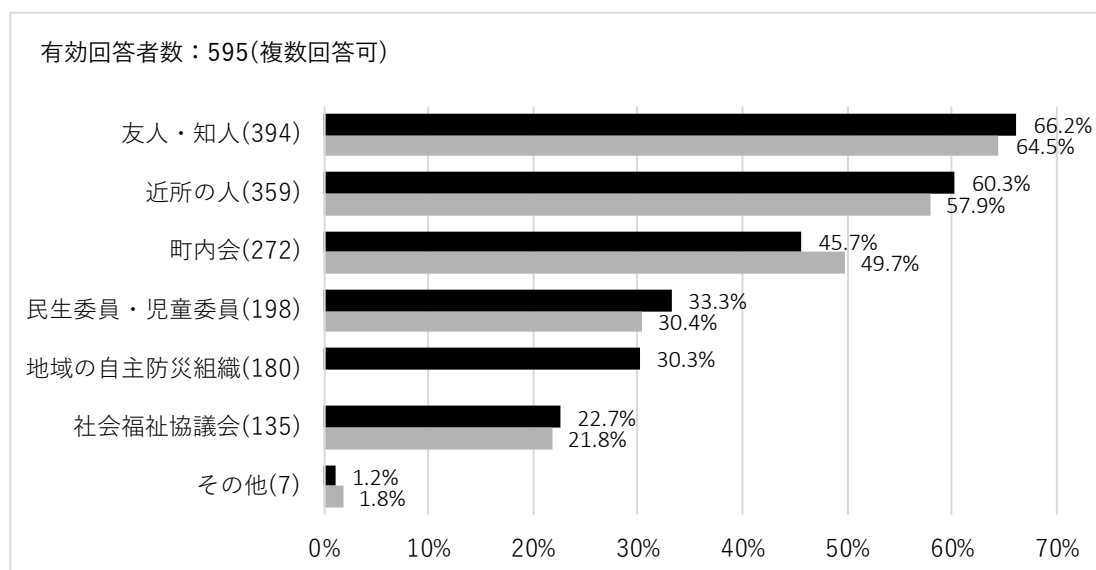
《その他の回答》

家族構成、助ける人が必要な情報全て 等

「災害時のために情報を知らせてもよい範囲」については、災害時のための情報について「何も知られたくない」と回答した27名を除いた595名に対し、個人情報をもどの範囲まで知らせてよいか質問し、複数回答可としている。

結果は図3-18『災害時のために情報を知らせてもよい範囲』のとおりであり、「友人・知人」が66.2%(394件)、「近所の人」が60.3%(359件)、「町内会」が45.7%(272件)、「民生委員・児童委員」が33.3%(198件)、「地域の自主防災組織」が30.3%(180件)、「社会福祉協議会」が22.7%(135件)という結果となった。

図3-18 災害時のために情報を知らせてもよい範囲



《その他の回答》

行政機関、災害時の支援者、親せき 等

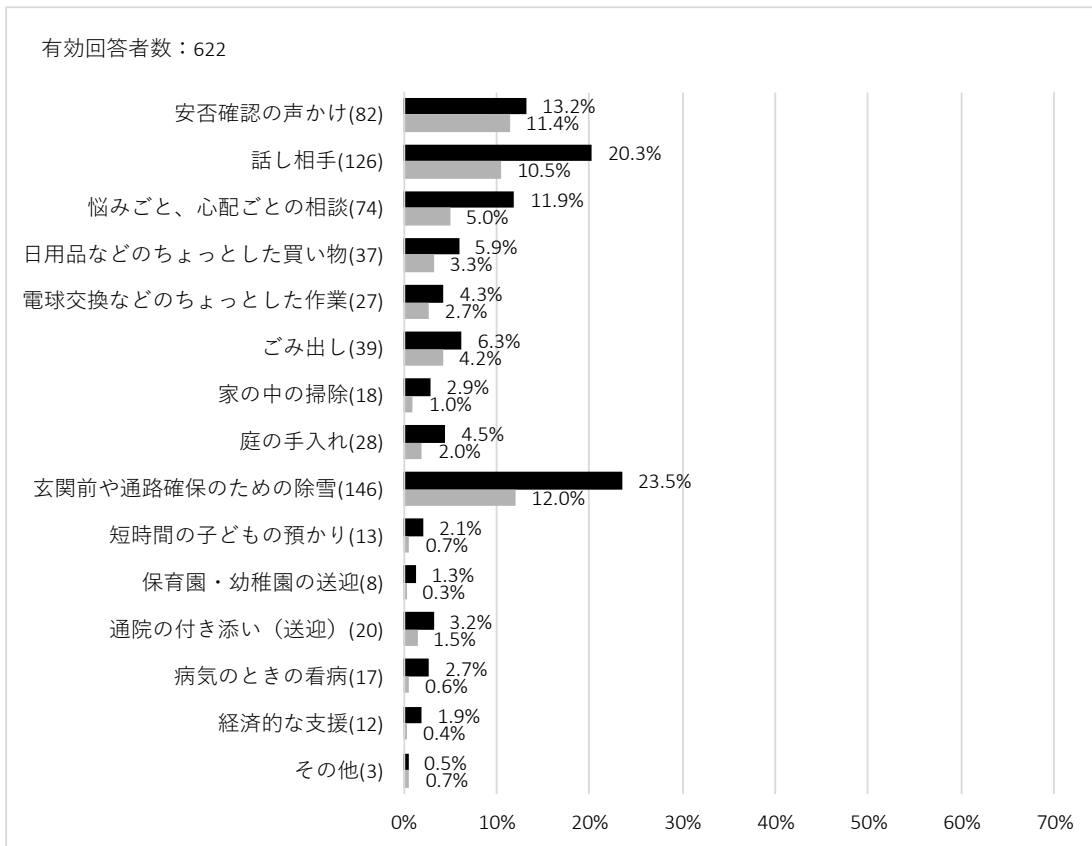
6 地域における支え合い

「地域における支え合い」については、身近な地域生活課題等に係るニーズと担い手の状況、可能性を把握するため、「現在、既に手助けしていること」、「今後手助けできると思うこと」、「現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと」という質問を行った。

まず、地域福祉活動に係る担い手の現在の状況を把握するための「現在、既に手助けしていること」の質問については、複数回答可として質問を行った。結果は図3-19『現在、既に手助けしていること』のとおりであり、「玄関前の除雪」が23.5%(146件)、「話し相手」が20.3%(126件)「安否確認の声かけ」が13.2%(82件)が多い状況であった。

前回調査と比較すると上位の3項目は同じものの、「安否確認の声かけ」が1.8ポイント、「玄関前の除雪」が11.5ポイント、「話し相手」が9.8ポイントと増加している。

図 3-19 現在、既に手助けしていること(a1)



《その他の回答》

農産物の差し入れ

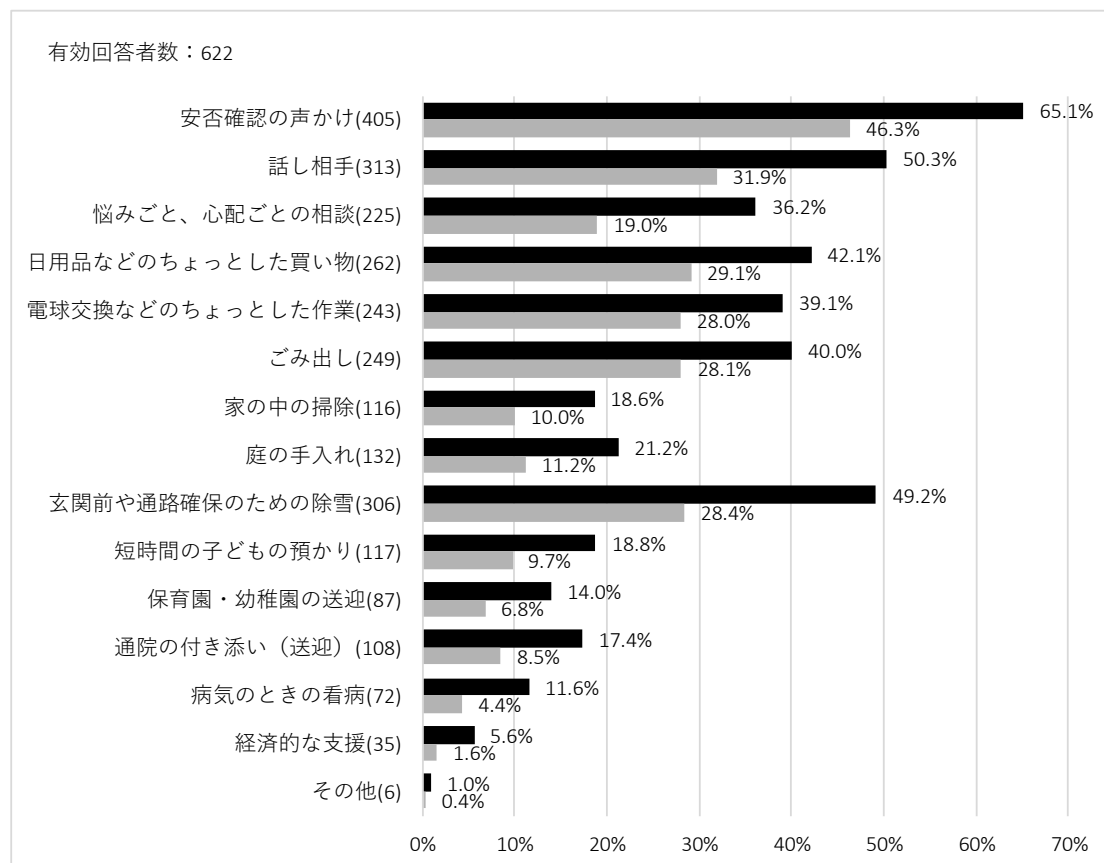
「現在、既に手助けしていること」の回答を小学校区別に集計した。結果は表 3-2『現在、既に手助けしていること（地区別）』のとおり、ほとんどの地区で「安否確認の声かけ」、「話し相手」、「玄関前の除雪」が多い状況であった。

表 3-2 現在、既に手助けしていること（地区別）(a2)

小学校区	安否確認 の声かけ	話し相手	心配事等 の相談	ちょっとした 買った買物	ちょっと した作業	ごみ出し	家の掃除	庭の手入 れ	玄関前の 除雪	子どもの 預かり	保育園等 の送迎	通院の付 き添い	病気のと きの看病	経済的な 支援	その他
鶴城	8	8	5	5	2	2	1	3	8			1			1
	21.6%	21.6%	13.5%	13.5%	5.4%	5.4%	2.7%	8.1%	21.6%			2.7%			2.7%
城北	4	8	5	3	2	3	2	3	13	1			3		2
	7.5%	15.1%	9.4%	5.7%	3.8%	5.7%	3.8%	5.7%	24.5%	1.9%			5.7%		3.8%
行仁		5	4	3	1	2	1		6	1					
		19.2%	15.4%	11.5%	3.8%	7.7%	3.8%		23.1%	3.8%					
城西	12	14	7	1	2	3		1	8			3			1
	21.8%	25.5%	12.7%	1.8%	3.6%	5.5%		1.8%	14.5%			5.5%			1.8%
謹教	4	7	7	1	2	2	1	2	12	1	1		1		2
	9.3%	16.3%	16.3%	2.3%	4.7%	4.7%	2.3%	4.7%	27.9%	2.3%	2.3%		2.3%		4.7%
日新	1	2	2	1	1	2	1	1	8	1		1	1		1
	3.3%	6.7%	6.7%	3.3%	3.3%	6.7%	3.3%	3.3%	26.7%	3.3%		3.3%	3.3%		3.3%
湊	4	4	3	2	2	1	1	2	4			1			1
	40.0%	40.0%	30.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	20.0%	40.0%			10.0%			10.0%
一箕	4	11	9	3	3	4		2	13	1	1	3	1		
	7.3%	20.0%	16.4%	5.5%	5.5%	7.3%		3.6%	23.6%	1.8%	1.8%	5.5%	1.8%		
松長	4	5	2	3	1	2	1	2	8			1			1
	17.4%	21.7%	8.7%	13.0%	4.3%	8.7%	4.3%	8.7%	34.8%			4.3%			4.3%
永和	1	2	1						2		1				
	8.3%	16.7%	8.3%						16.7%		8.3%				
神指	3	4	3	1		1	1		4						
	17.6%	23.5%	17.6%	5.9%		5.9%	5.9%		23.5%						
門田	4	7	2	2		1		1	7	2	3	2	1		1
	9.3%	16.3%	4.7%	4.7%		2.3%		2.3%	16.3%	4.7%	7.0%	4.7%	2.3%		2.3%
城南	7	6	2		1	2	1	2	6	1					1
	26.9%	23.1%	7.7%		3.8%	7.7%	3.8%	7.7%	23.1%	3.8%					3.8%
大戸		2	1	1											
		33.3%	16.7%	16.7%											
東山	2	5	1	1	1			1	7				1	1	1
	7.4%	18.5%	3.7%	3.7%	3.7%			3.7%	25.9%				3.7%	3.7%	3.7%
小金井	3	2	2			2		1	9	1		1			
	8.1%	5.4%	5.4%			5.4%		2.7%	24.3%	2.7%		2.7%			
荒館	5	6	5	2	2	2			7	1	1	1			1
	16.1%	19.4%	16.1%	6.5%	6.5%	6.5%			22.6%	3.2%	3.2%	3.2%			3.2%
川南	1	4	2			1	1		3	1					
	6.7%	26.7%	13.3%			6.7%	6.7%		20.0%	6.7%					
河東	11	18	10	7	5	6	4	5	16	1		4	4		2
	20.4%	33.3%	18.5%	13.0%	9.3%	11.1%	7.4%	9.3%	29.6%	1.9%		7.4%	7.4%		3.7%

地域福祉活動に係る将来的な担い手の確保について把握するための「今後手助けできると思うこと」の質問については、複数回答可とし質問を行った。結果は図 3-20『今後手助けできると思うこと』のとおり、「安否確認の声かけ」が 65.1%(405 件)、「話し相手」が 50.3%(313 件)、「玄関前の除雪」が 49.2%(306)、「日用品などのちょっとした買物」が 42.1%(262 件)、「ごみ出し」が 40.0%(249 件)、「電球交換などちょっとした作業」が 39.1%(243 件)が多い状況であった。

図 3-20 今後手助けできると思うこと(b1)



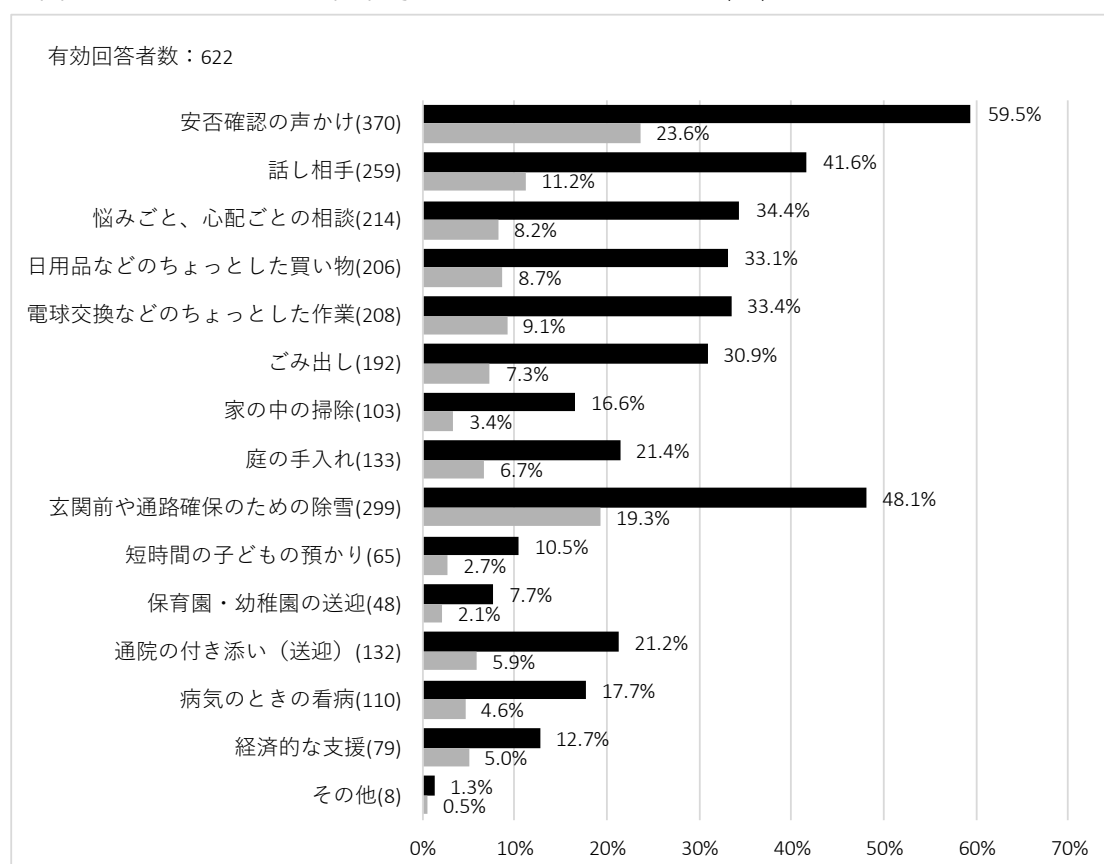
「今後手助けできると思うこと」の回答を小学校区別に集計した。結果は表 3-3『今後手助けできると思うこと（地区別）』のとおりであり、地区別に集計したところ、ほとんどの地区で「安否確認の声かけ」の回答が最も多く、次に「話し相手」や「ちょっとした買い物や作業」、「玄関前の除雪」の回答が多い状況であった。

表 3-3 今後手助けできると思うこと（地区別）(b2)

小学校区	安否確認 の声かけ	話し相手	心配事等 の相談	ちょっとした 買い物	ちょっと した作業	ごみ出し	家の掃除	庭の手入 れ	玄関前の 除雪	子どもの 預かり	保育園等 の送迎	通院の付 き添い	病気のど きの看病	経済的な 支援	その他
鶴城	22 59.5%	19 51.4%	12 32.4%	15 40.5%	11 29.7%	11 29.7%	6 16.2%	9 24.3%	11 29.7%	5 13.5%	2 5.4%	2 5.4%	1 2.7%	1 2.7%	
城北	34 64.2%	27 50.9%	18 34.0%	26 49.1%	23 43.4%	24 45.3%	10 18.9%	11 20.8%	30 56.6%	11 20.8%	6 11.3%	6 11.3%	7 13.2%	5 9.4%	
行仁	19 73.1%	17 65.4%	16 61.5%	15 57.7%	16 61.5%	13 50.0%	7 26.9%	9 34.6%	14 53.8%	4 15.4%	4 15.4%	3 11.5%	3 11.5%	1 3.8%	
城西	34 61.8%	23 41.8%	17 30.9%	14 25.5%	16 29.1%	19 34.5%	6 10.9%	12 21.8%	24 43.6%	2 3.6%	4 7.3%	7 12.7%	4 7.3%	2 3.6%	
謹教	30 69.8%	19 44.2%	12 27.9%	15 34.9%	14 32.6%	17 39.5%	4 9.3%	5 11.6%	21 48.8%	9 20.9%	4 9.3%	6 14.0%	4 9.3%	1 2.3%	
日新	18 60.0%	13 43.3%	8 26.7%	12 40.0%	11 36.7%	11 36.7%	2 6.7%	3 10.0%	15 50.0%	5 16.7%	4 13.3%	4 13.3%	2 6.7%	1 3.3%	
湊	6 60.0%	6 60.0%	2 20.0%	6 60.0%	4 40.0%	2 20.0%	5 50.0%	3 30.0%	4 40.0%	2 20.0%	3 30.0%	2 20.0%	2 20.0%	1 10.0%	
一箕	36 65.5%	24 43.6%	21 38.2%	23 41.8%	23 41.8%	21 38.2%	10 18.2%	11 20.0%	32 58.2%	10 18.2%	6 10.9%	9 16.4%	4 7.3%	1 1.8%	
松長	12 52.2%	11 47.8%	8 34.8%	10 43.5%	8 34.8%	8 34.8%	5 21.7%	6 26.1%	11 47.8%	5 21.7%	4 17.4%	7 30.4%	4 17.4%	3 13.0%	
永和	10 83.3%	6 50.0%	4 33.3%	9 75.0%	7 58.3%	5 41.7%	2 16.7%	3 25.0%	7 58.3%	2 16.7%	2 16.7%	4 33.3%	1 8.3%	1 8.3%	
神指	12 70.6%	7 41.2%	5 29.4%	7 41.2%	8 47.1%	8 47.1%	4 23.5%	2 11.8%	6 35.3%	3 17.6%	2 11.8%	3 17.6%	2 11.8%	1 5.9%	1 5.9%
門田	28 65.1%	24 55.8%	17 39.5%	17 39.5%	17 39.5%	16 37.2%	10 23.3%	9 20.9%	22 51.2%	10 23.3%	9 20.9%	11 25.6%	8 18.6%	2 4.7%	1 2.3%
城南	16 61.5%	15 57.7%	8 30.8%	11 42.3%	8 30.8%	10 38.5%	7 26.9%	6 23.1%	13 50.0%	9 34.6%	8 30.8%	6 23.1%	3 11.5%	3 11.5%	1 3.8%
大戸	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%		
東山	19 70.4%	13 48.1%	8 29.6%	13 48.1%	12 44.4%	11 40.7%	2 7.4%	3 11.1%	14 51.9%	5 18.5%	3 11.1%	4 14.8%	5 18.5%	3 11.1%	
小金井	25 67.6%	18 48.6%	12 32.4%	14 37.8%	14 37.8%	15 40.5%	4 10.8%	5 13.5%	17 45.9%	7 18.9%	5 13.5%	5 13.5%	3 8.1%		
荒館	22 71.0%	16 51.6%	14 45.2%	14 45.2%	12 38.7%	14 45.2%	7 22.6%	9 29.0%	15 48.4%	6 19.4%	6 19.4%	9 29.0%	4 12.9%	3 9.7%	1 3.2%
川南	13 86.7%	11 73.3%	10 66.7%	5 33.3%	5 33.3%	7 46.7%	4 26.7%	6 40.0%	10 66.7%	5 33.3%	3 20.0%	3 20.0%	4 26.7%	1 6.7%	1 6.7%
河東	38 70.4%	35 64.8%	27 50.0%	31 57.4%	28 51.9%	32 59.3%	17 31.5%	17 31.5%	33 61.1%	14 25.9%	9 16.7%	13 24.1%	8 14.8%	3 5.6%	1 1.9%

「現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと」の質問については、複数回答可とし質問を行った。結果は図 3-21『現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと』のとおりであり、個別項目は前回より多くなっているものの、傾向は前回と同様であり「安否確認の声かけ」が59.5%と最も高く、次に「玄関前の除雪」が48.1%、「話し相手」が41.6%と続きました。

図 3-21 現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと(c1)



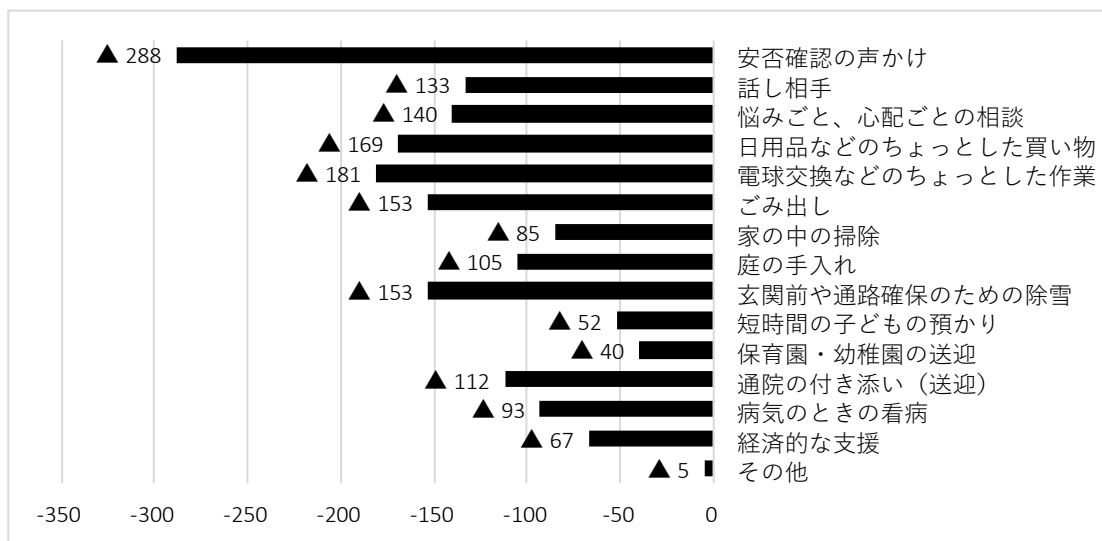
「現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと」の回答を小学校区別に集計した。結果は表 3-4『現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと（地区別）』のとおり、ほとんどの地区で「安否確認の声かけ」、「玄関前の除雪」の回答が多い状況であった。

表 3-4 現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと（地区別）(c2)

小学校区	安否確認 の声かけ	話し相手	心配事等 の相談	ちょっとした 買った買物	ちょっとした した作業	ごみ出し	家の掃除	庭の手入 れ	玄関前の 除雪	子どもの 預かり	保育園等 の送迎	通院の付 き添い	病気のど きの看病	経済的な 支援	その他
鶴城	24 64.9%	17 45.9%	12 32.4%	16 43.2%	16 43.2%	13 35.1%	9 24.3%	8 21.6%	16 43.2%	3 8.1%	2 5.4%	7 18.9%	6 16.2%	3 8.1%	1 2.7%
城北	32 60.4%	19 35.8%	13 24.5%	16 30.2%	12 22.6%	13 24.5%	7 13.2%	14 26.4%	27 50.9%	5 9.4%	3 5.7%	9 17.0%	9 17.0%	5 9.4%	1 1.9%
行仁	20 76.9%	13 50.0%	14 53.8%	12 46.2%	14 53.8%	11 42.3%	8 30.8%	11 42.3%	16 61.5%	3 11.5%	3 11.5%	5 19.2%	5 19.2%	2 7.7%	
城西	30 54.5%	23 41.8%	19 34.5%	12 21.8%	12 21.8%	12 21.8%	8 14.5%	10 18.2%	23 41.8%	3 5.5%	3 5.5%	15 27.3%	11 20.0%	7 12.7%	
謹教	28 65.1%	19 44.2%	17 39.5%	13 30.2%	14 32.6%	12 27.9%	6 14.0%	4 9.3%	21 48.8%	3 7.0%	2 4.7%	8 18.6%	6 14.0%	5 11.6%	
日新	18 60.0%	11 36.7%	9 30.0%	9 30.0%	12 40.0%	12 40.0%	5 16.7%	6 20.0%	17 56.7%	3 10.0%	2 6.7%	8 26.7%	3 10.0%	5 16.7%	
湊	7 70.0%	5 50.0%	5 50.0%	5 50.0%	3 30.0%	2 20.0%	2 20.0%	2 20.0%	4 40.0%	1 10.0%	1 10.0%	4 40.0%	2 20.0%	3 30.0%	
一箕	28 50.9%	23 41.8%	20 36.4%	22 40.0%	19 34.5%	16 29.1%	7 12.7%	10 18.2%	26 47.3%	6 10.9%	3 5.5%	7 12.7%	7 12.7%	8 14.5%	
松長	12 52.2%	8 34.8%	5 21.7%	7 30.4%	6 26.1%	6 26.1%	3 13.0%	7 30.4%	11 47.8%	2 8.7%		5 21.7%	3 13.0%	2 8.7%	
永和	8 66.7%	4 33.3%	3 25.0%	5 41.7%	5 41.7%	5 41.7%	1 8.3%	1 8.3%	5 41.7%			4 33.3%	1 8.3%	2 16.7%	
神指	10 58.8%	5 29.4%	5 29.4%	4 23.5%	5 29.4%	5 29.4%	4 23.5%	3 17.6%	7 41.2%	2 11.8%	1 5.9%	4 23.5%	1 5.9%		
門田	25 58.1%	18 41.9%	16 37.2%	12 27.9%	16 37.2%	10 23.3%	8 18.6%	9 20.9%	24 55.8%	8 18.6%	7 16.3%	8 18.6%	11 25.6%	3 7.0%	1 2.3%
城南	13 50.0%	7 26.9%	8 30.8%	6 23.1%	7 26.9%	7 26.9%	6 23.1%	4 15.4%	12 46.2%	4 15.4%	3 11.5%	6 23.1%	6 23.1%	6 23.1%	2 7.7%
大戸	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%
東山	16 59.3%	10 37.0%	6 22.2%	7 25.9%	11 40.7%	8 29.6%	2 7.4%	3 11.1%	13 48.1%	3 11.1%	1 3.7%	4 14.8%	5 18.5%	3 11.1%	
小金井	24 64.9%	18 48.6%	13 35.1%	14 37.8%	14 37.8%	17 45.9%	3 8.1%	8 21.6%	20 54.1%	1 2.7%	2 5.4%	8 21.6%	8 21.6%	2 5.4%	
荒館	18 58.1%	15 48.4%	12 38.7%	11 35.5%	11 35.5%	9 29.0%	3 9.7%	10 32.3%	12 38.7%	5 16.1%	5 16.1%	9 29.0%	7 22.6%	4 12.9%	1 3.2%
川南	12 80.0%	11 73.3%	9 60.0%	5 33.3%	5 33.3%	6 40.0%	3 20.0%	5 33.3%	9 60.0%	3 20.0%	1 6.7%	1 6.7%	4 26.7%	4 26.7%	1 6.7%
河東	30 55.6%	22 40.7%	20 37.0%	24 44.4%	22 40.7%	24 44.4%	13 24.1%	15 27.8%	26 48.1%	8 14.8%	7 13.0%	16 29.6%	12 22.2%	11 20.4%	

「現在、既に手助けしていること」から「現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと」を差し引いたものを図 3-22『現在の地域福祉活動によるニーズに対する状況』のとおり算出した。その結果、「安否確認の声かけ」が▲288件、「玄関前の除雪」が▲133件、「電球交換などちょっとした作業」が▲118件、「日用品などのちょっとした買物」が▲100件というように、「現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと」よりも「現在、既に手助けしていること」が少ない結果であった。

図 3-22 現在の地域福祉活動によるニーズに対する状況(a1-c1)



「現在の地域福祉活動によるニーズに対する状況」の回答を小学校区別に集計した。結果は表 3-5『現在の地域福祉活動によるニーズに対する状況 (地区別)』のとおり、わずかではあるが地区によって現在の活動による、ニーズに対する状況が異なる結果となった。

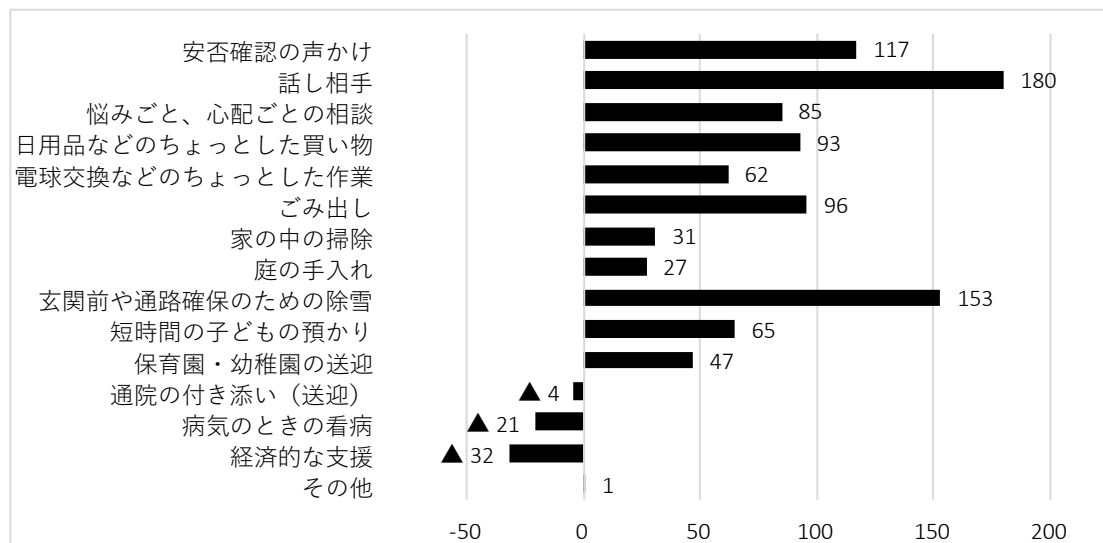
表 3-5 現在の地域福祉活動によるニーズに対する状況 (地区別) (a2-c2)

小学校区	安否確認の声かけ	話し相手	心配事等の相談	ちょっとした買い物	ちょっとした作業	ごみ出し	家の掃除	庭の手入れ	玄関前の除雪	子どもの預かり	保育園等の送迎	通院の付き添い	病気のときの看病	経済的な支援
鶴城	▲16	▲9	▲7	▲11	▲14	▲11	▲8	▲5	▲8	▲3	▲2	▲6	▲6	▲2
城北	▲28	▲11	▲8	▲13	▲10	▲10	▲5	▲11	▲14	▲4	▲3	▲9	▲6	▲3
行仁	▲20	▲8	▲10	▲9	▲13	▲9	▲7	▲11	▲10	▲2	▲3	▲5	▲5	▲2
城西	▲18	▲9	▲12	▲11	▲10	▲9	▲8	▲9	▲15	▲3	▲3	▲12	▲10	▲7
謹教	▲24	▲12	▲10	▲12	▲12	▲10	▲5	▲2	▲9	▲2	▲1	▲8	▲5	▲3
日新	▲17	▲9	▲7	▲8	▲11	▲10	▲4	▲5	▲9	▲2	▲2	▲7	▲2	▲4
湊	▲3	▲1	▲2	▲3	▲1	▲1	▲1			▲1	▲1	▲3	▲1	▲3
一箕	▲24	▲12	▲11	▲19	▲16	▲12	▲7	▲8	▲13	▲5	▲2	▲4	▲6	▲8
松長	▲8	▲3	▲3	▲4	▲5	▲4	▲2	▲5	▲3	▲2		▲4	▲2	▲2
永和	▲7	▲2	▲2	▲5	▲5	▲5	▲1	▲1	▲3		1	▲4	▲1	▲2
神指	▲7	▲1	▲2	▲3	▲5	▲4	▲3	▲3	▲3	▲2	▲1	▲4	▲1	
門田	▲21	▲11	▲14	▲10	▲16	▲9	▲8	▲8	▲17	▲6	▲4	▲6	▲10	▲3
城南	▲6	▲1	▲6	▲6	▲6	▲5	▲5	▲2	▲6	▲3	▲3	▲6	▲6	▲5
大戸	▲3			▲2	▲2	▲2	▲2	▲1	▲2	▲1	▲1	▲2	▲1	▲1
東山	▲14	▲5	▲5	▲6	▲10	▲8	▲2	▲2	▲6	▲3	▲1	▲4	▲4	▲2
小金井	▲21	▲16	▲11	▲14	▲14	▲15	▲3	▲7	▲11		▲2	▲7	▲8	▲2
荒館	▲13	▲9	▲7	▲9	▲9	▲7	▲3	▲10	▲5	▲4	▲4	▲8	▲7	▲4
川南	▲11	▲7	▲7	▲5	▲5	▲5	▲2	▲5	▲6	▲2	▲1	▲1	▲4	▲4
河東	▲19	▲4	▲10	▲17	▲17	▲18	▲9	▲10	▲10	▲7	▲7	▲12	▲8	▲9

た「通院の付き添い（送迎）」、「病気の時の看病」、「経済的な支援」は下回っていた。現在、既に手助けしていること」と「今後手助けできると思うこと」を合算したのから「現在もしくは将来的に手助けしてほしいこと」を差し引いた結果、ほとんどの項目において、「手助けしている・できる」が「手助けしてほしいこと」を上回っていた。

一方、「通院の付き添い（送迎）」、「病気の時の看病」、「経済的な支援」の項目においては、「手助けしている・できる」が「手助けしてほしいこと」を下回っていた。

図 3-23 将来的な地域福祉活動の期待値によるニーズに対する状況(a1+b1-c1)



「将来的な地域福祉活動の期待値によるニーズに対する状況」を小学校区別に集計した。結果は表 3-6『将来的な地域福祉活動の期待値によるニーズに対する状況 (地区別)』のとおり、わずかではあるが地区によって将来的な活動による、ニーズに対する状況が異なっている結果となった。

表 3-6 将来的な地域福祉活動の期待値によるニーズに対する状況(a2+b2-c2) (地区別)

小学校区	安否確認の声かけ	話し相手	心配事等の相談	ちょっとした買い物	ちょっとした作業	ごみ出し	家の掃除	庭の手入れ	玄関前の除雪	子どもの預かり	保育園等の送迎	通院の付き添い	病気との看病	経済的な支援
鶴城	6	10	5	4	▲3		▲2	4	3	2		▲4	▲5	▲1
城北	6	16	10	13	13	14	5		16	7	3	▲3	1	2
行仁	▲1	9	6	6	3	4		▲2	4	2	1	▲2	▲2	▲1
城西	16	14	5	3	6	10	▲2	3	9	▲1	1	▲5	▲6	▲5
謹教	6	7	2	3	2	7	▲1	3	12	7	3	▲2	▲1	▲2
日新	1	4	1	4		1	▲2	▲2	6	3	2	▲3		▲3
湊	3	5		3	3	1	4	3	4	1	2	▲1	1	▲2
一箕	12	12	10	4	7	9	3	3	19	5	4	5	▲2	▲7
松長	4	8	5	6	3	4	3	1	8	3	4	3	2	1
永和	3	4	2	4	2		1	2	4	2	3			▲1
神指	5	6	3	4	3	4	1	▲1	3	1	1	▲1	1	1
門田	7	13	3	7	1	7	2	1	5	4	5	5	▲2	▲1
城南	10	14	2	5	2	5	2	4	7	6	5		▲3	▲2
大戸	▲1	2	1	1			▲1		▲1					▲1
東山	5	8	3	7	2	3		1	8	2	2		1	1
小金井	4	2	1				1	▲2	6	7	3	▲2	▲5	▲2
荒館	9	7	7	5	3	7	4	▲1	10	2	2	1	▲3	▲1
川南	2	4	3			2	2	1	4	3	2	2		▲3
河東	19	31	17	14	11	14	8	7	23	7	2	1		▲6

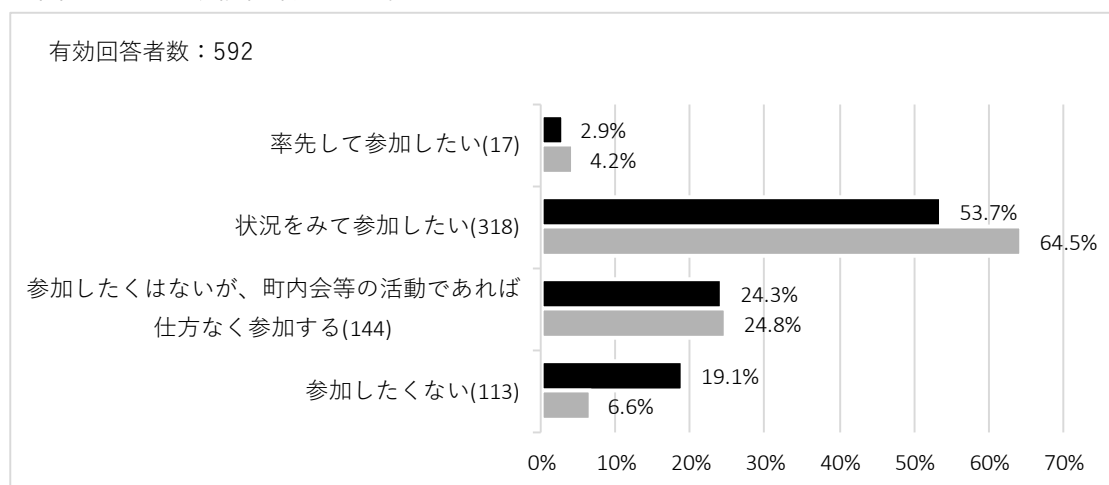
7 地域福祉活動への参加意向

「地域福祉活動への参加意向」については、結果は図 3-24『地域福祉活動への参加意向』のとおり「率先して参加したい」が2.9%(17件)、「状況をみて参加したい」が53.7%(318件)、「参加したくないが町内会等の活動となれば仕方なく参加する」が24.3%(419件)、「参加したくない」が19.1%(113件)という結果であった。

前回調査と比較すると「状況をみて参加したい」が10.8ポイント減少し、「参加したくない」が12.5ポイントの増加となった。

前回調査と比較し12.6ポイントの減少あるものの、消極的な参加も加えると80.9%の人が地域福祉活動に参加する意向を示している。

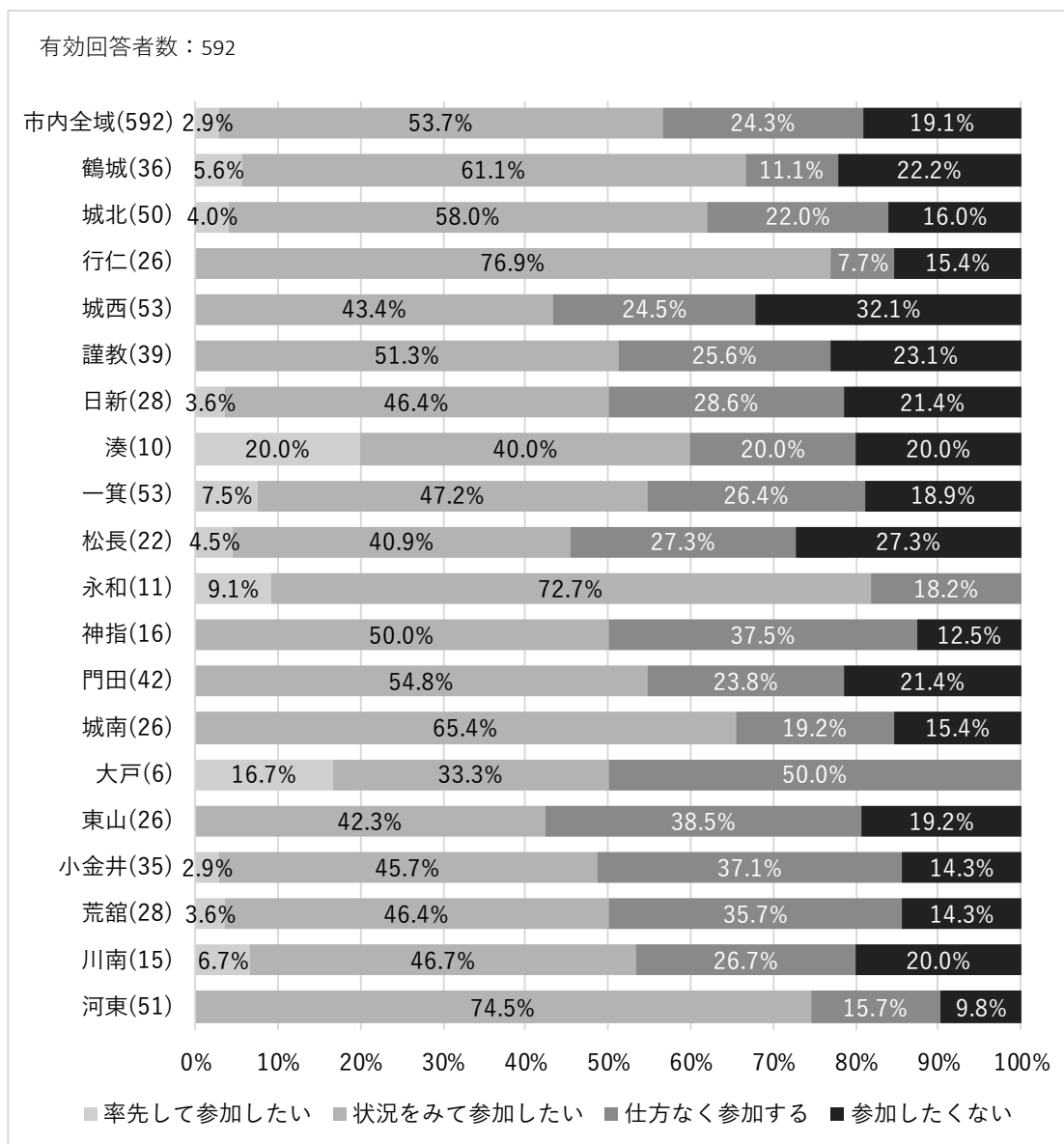
図 3-24 地域福祉活動への参加意向



「地域福祉活動への参加意向」を小学校区別に集計した。結果は図 3-25『地域福祉活

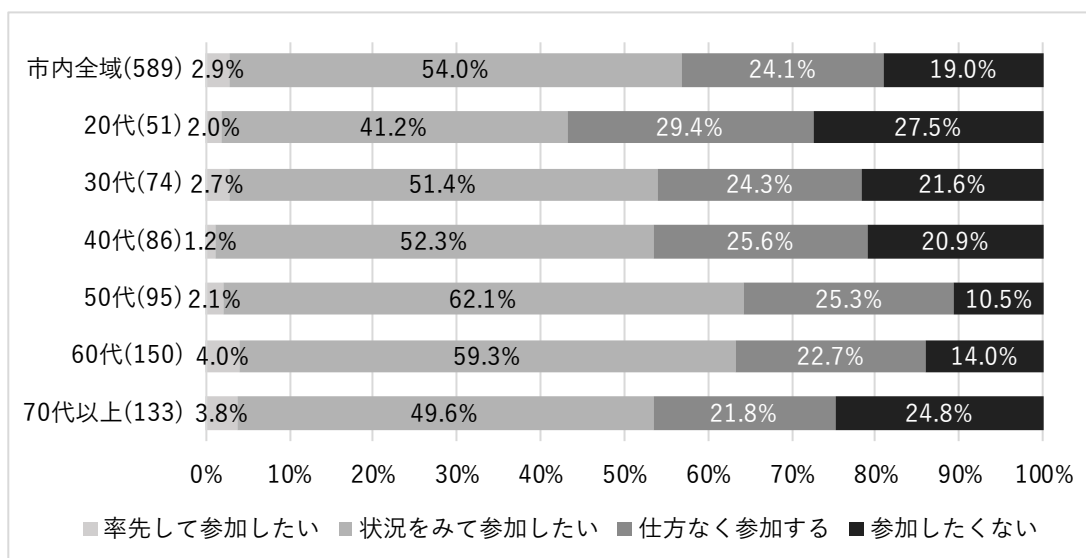
動への参加意向（地区別）』のとおり、多くの地区で同様の傾向を示しているものの、地区によっては「参加したくない」が30%を超える地区、逆に0という地区もあり、地域によって多少の違いが見られる。

図 3-25 地域福祉活動への参加意向（地区別）



「地域福祉活動への参加意向」を年代別で集計したものが図 3-26『地域福祉活動への参加意向（年代別）』であり、すべての年代で同様の傾向を示しているが、20代から40代までの「参加したくない」という回答が比較的多い。

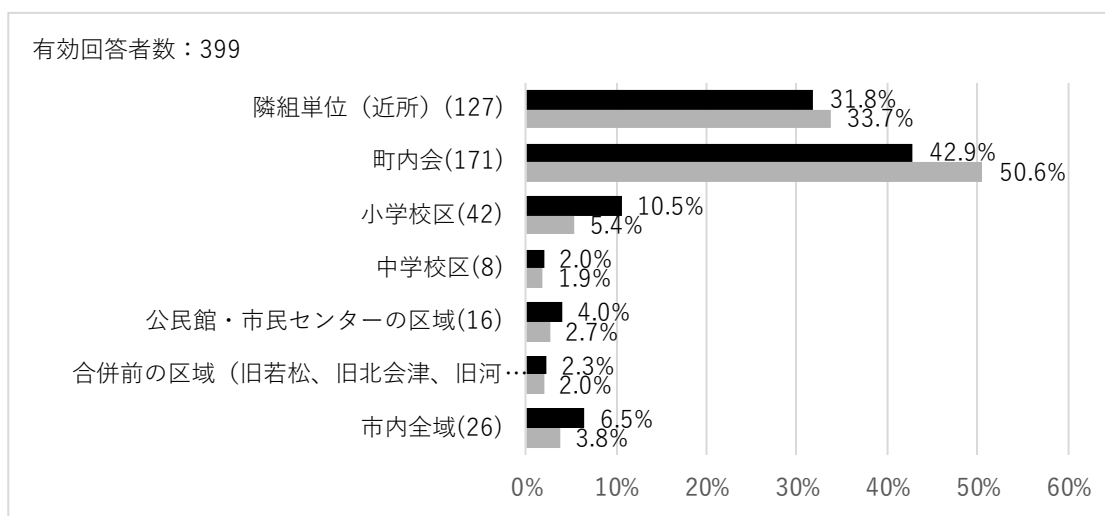
図 3-26 地域福祉活動への参加意向（年代別）



「地域福祉活動への参加可能範囲」である。前問で地域福祉活動に「参加したくない」と回答した113件を除く回答者を対象に、参加可能な地域の範囲について質問している。結果は図 3-27『地域福祉活動への参加可能範囲』のとおりであり、「町内会」42.9%(171件)、「隣組単位」31.8%(127件)との回答が大部分であった。隣組単位と町内会が地域福祉活動に参加できる範囲であると考える人が全体の7割を超えている結果となった。

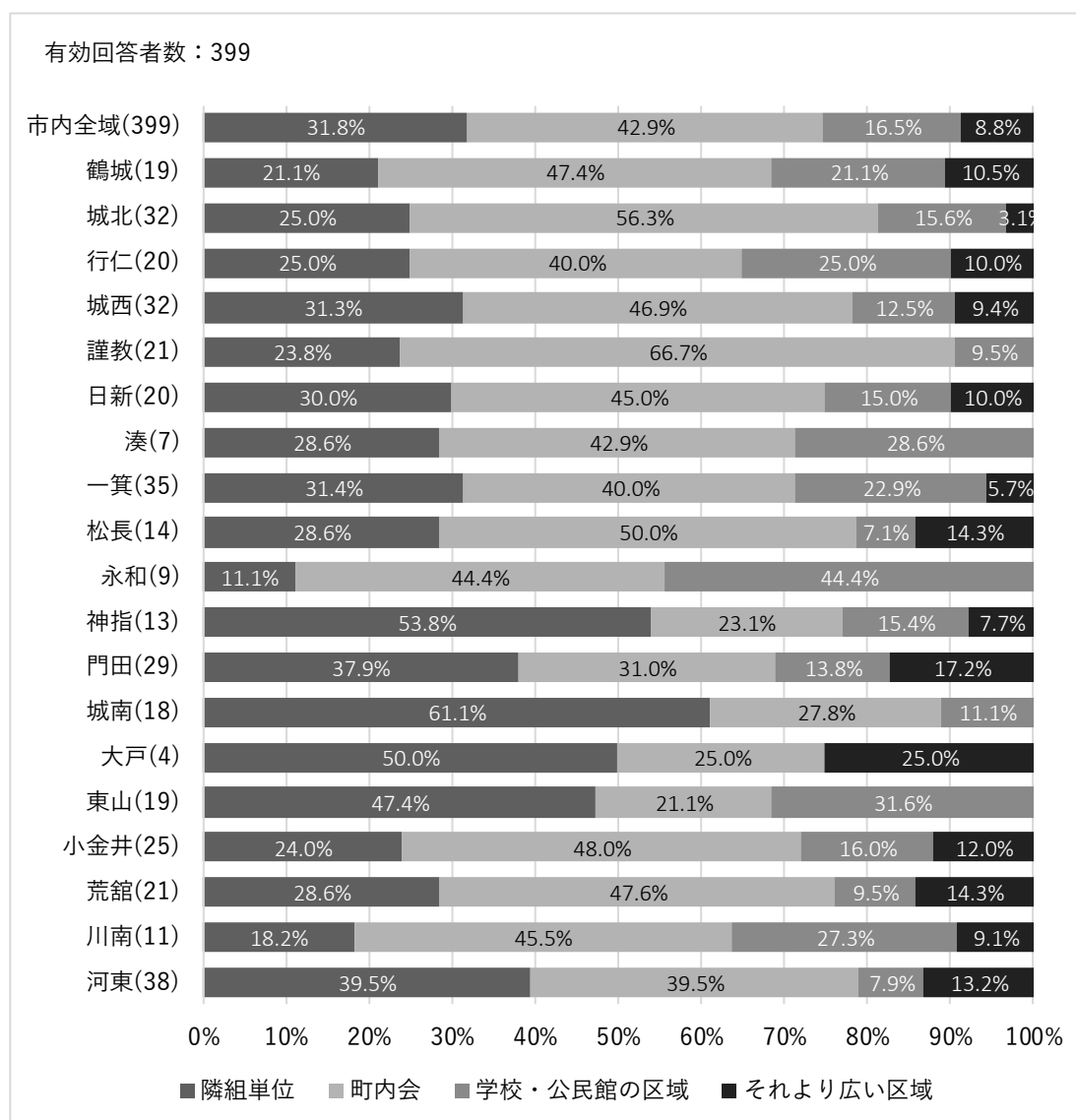
ただし、「町内会」、「隣組単位」と回答した人の割合は前回調査と比較し、9.6ポイント減少する中、「小学校区」、「市内全域」と回答した人の割合は7.8ポイント増加している。

図 3-27 地域福祉活動への参加可能範囲



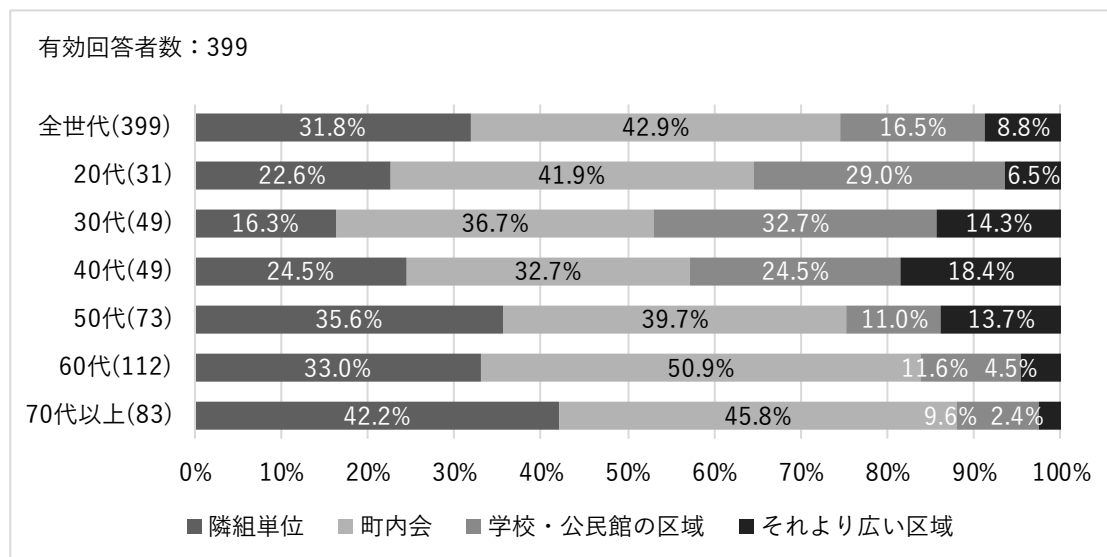
「地域福祉活動への参加可能範囲」を「隣組単位」、「町内会」以外を「小学校区より広い範囲」としてくり、地区別で集計した結果が図 3-28『地域福祉活動への参加可能範囲（地区別）』である。「隣組単位」「町内会」に占める割合は、地区ごとの際はあつもの、同様の傾向を示している。

図 3-28 地域福祉活動への参加可能範囲（地区別）



「地域福祉活動への参加可能範囲」の回答を年代別で集計した結果が図 3-29『地域福祉活動への参加可能範囲（年代別）』であり、30代以上は概ね年齢が上がるほど「隣組単位」までを参加可能範囲とする回答が多くなる。一方、年齢が下がるほど「学校・公民館の区域」以上の範囲を参加可能とする回答が多くなる傾向が見られる。

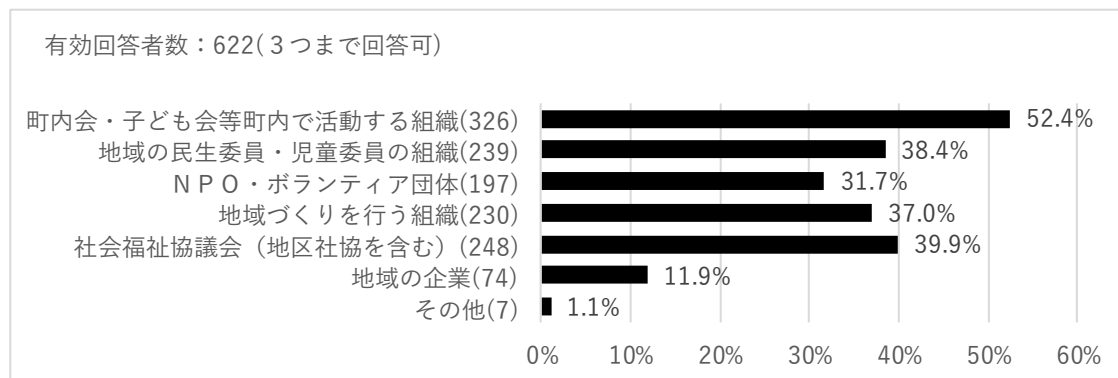
図 3-29 地域福祉活動への参加可能範囲（年代別）



8 地域福祉活動において連携が必要な組織

「地域福祉活動において連携が必要な組織」について、結果は図 3-30『地域内で連携する組織』のとおり「町内会・子ども会等町内で活動する組織」が52.4%(326件)と最も高く、「社会福祉協議会（地区社会福祉協議会を含む）」が39.9%(248件)、「地域の民生委員・児童委員の組織」が38.4%(239件)と続いている。

図 3-30 地域の中で連携する組織

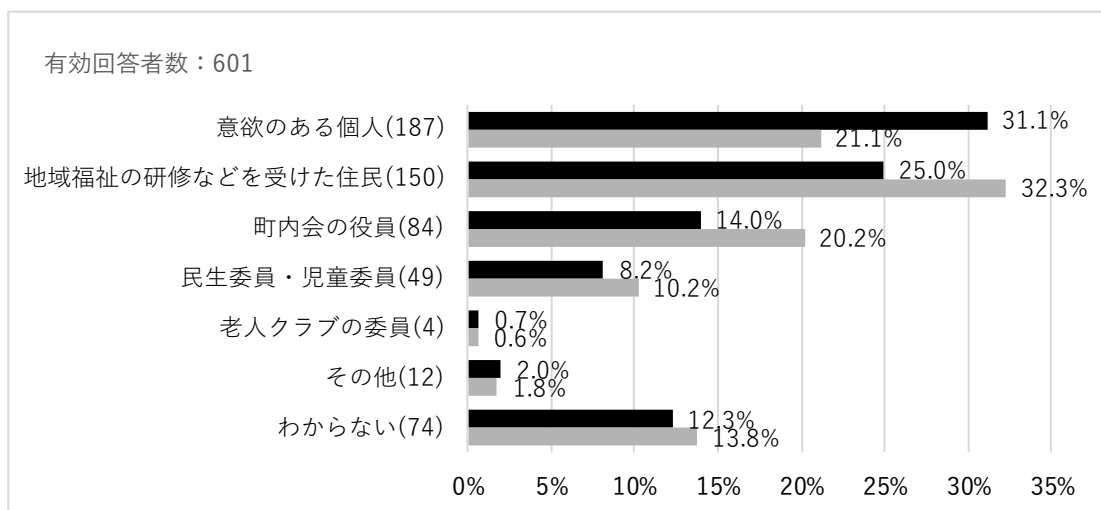


9 地域福祉活動のリーダー像

「地域福祉活動のリーダー像」については、結果は図 3-31『地域福祉活動のリーダー像』のとおりであり「意欲のある個人」が31.1%(187件)が最も高く、次いで「地域福祉の研修などを受けた住民」が25.0%(150件)、「町内会の役員」が14.0%(84件)、「民生委員・児童委員」が8.2%(49件)が続く。

前回調査と比較すると「意欲のある個人」が10.0ポイント増加する一方で、「地域福祉の研修などを受けた住民」が7.3ポイントの減少、「町内会の役員」で6.2ポイントの減少が見られた。

図 3-31 地域福祉活動のリーダー像



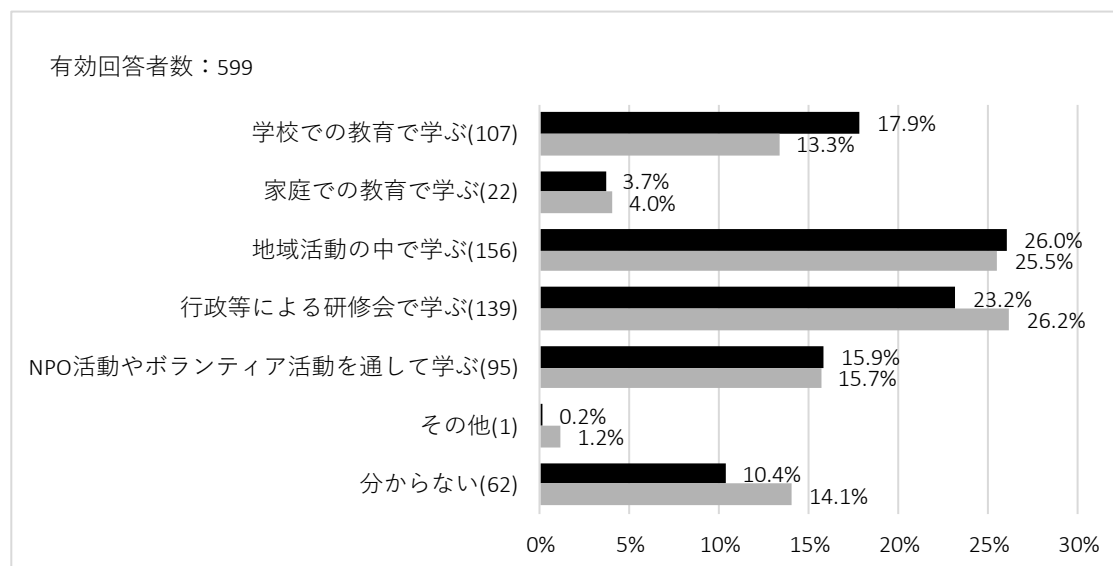
《その他の回答》

町内会で話し合っ決めて 等

10 地域福祉活動を推進する人材の育成法

「地域福祉活動を推進する人材の育成法」については、図 3-32『地域福祉活動を推進する人材の育成法』のとおりであり、「地域活動の中で学ぶ」が26.0%(156件)最も高く、次いで「行政等による研修会で学ぶ」が23.2%(139件)、「学校での教育で学ぶ」が17.9%(107件)、「NPO活動やボランティア活動を通して学ぶ」が15.9%(95件)、「家庭での教育で学ぶ」が3.7%(22件)が続く。

図 3-32 地域福祉活動を推進する人材の育成法

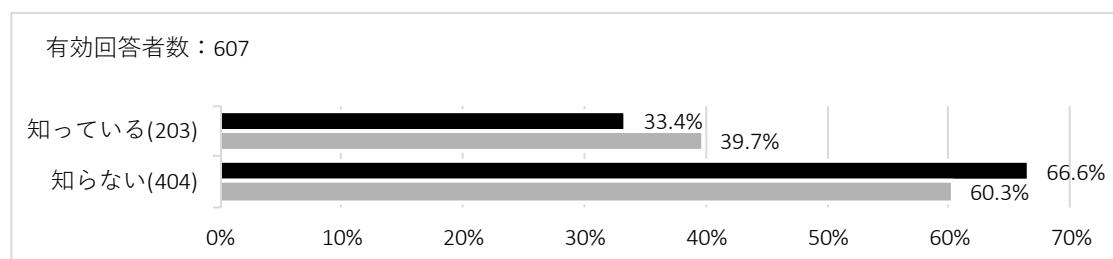


11 地区担当民生委員・児童委員の認知度

民生委員・児童委員は欠かすことができないキーパーソンであるという観点から、その認知度について質問を行った。結果は図 3-33『地区担当民生委員・児童委員の認知度』のとおりであり、「知っている」が33.4%(203件)に対し、66.6%(404件)が「知らない」と回答した。

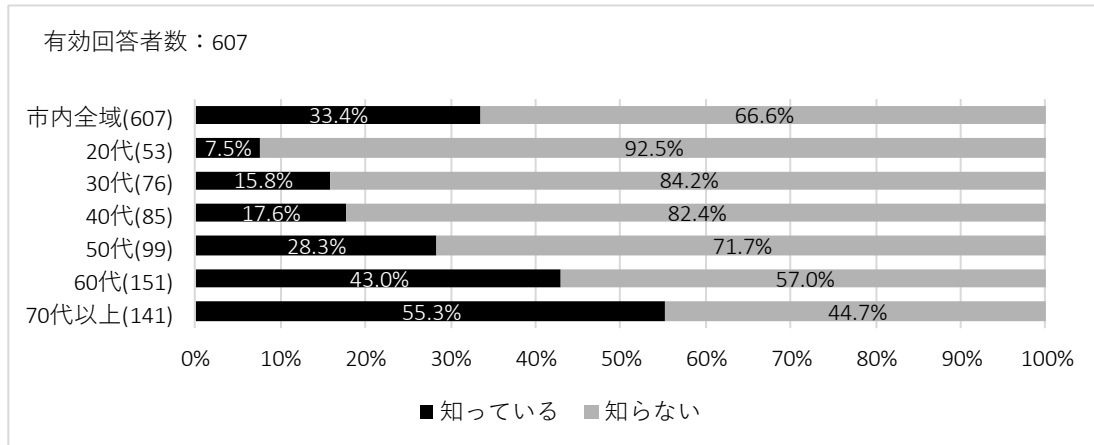
前回調査と比較すると「知っている」が6.3ポイント減少している。

図 3-33 地区担当民生委員・児童委員の認知度



「地区担当民生委員・児童委員の認知度」の回答を年代別で集計したものが図 3-34『地区担当民生委員・児童委員の認知度（年代別）』であり、年代が上がるほど認知度が高まり、20代と70代以上を比較すると明らかな差異が表れている。

図 3-34 地区担当民生委員・児童委員の認知度（年代別）

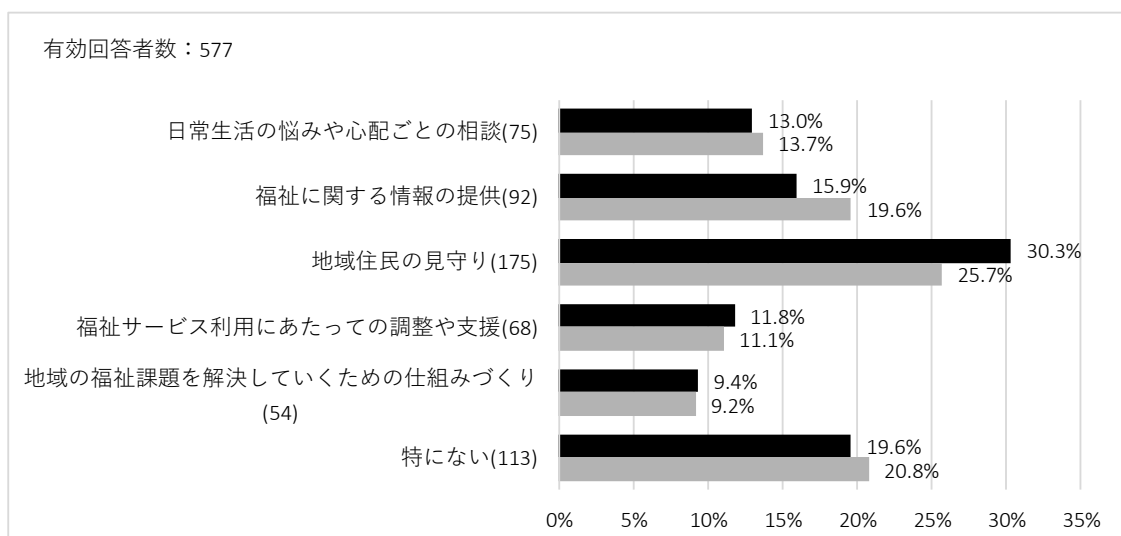


12 民生委員・児童委員への期待

「民生委員・児童委員への期待」については、地域福祉活動の推進にあたり、民生委員・児童委員の役割として今後充実が望まれる活動について質問を行った。結果は図 3-35『民生委員・児童委員の活動で充実してほしいこと』のとおりであり、「地域住民の見守り」が 30.3%(175 件) 最も高く、次いで「福祉に関する情報の提供」が 15.9%(92 件)、「日常生活の悩みや心配事の相談」が 13.0%(75 件)、「福祉サービス利用にあたっての調整や支援」が 11.8%(68 件)、「地域の福祉課題を解決していくための仕組みづくり」が 8.8%(54 件)が続く。

前回調査と比較すると「地域住民の見守り」だけが 4.6 ポイント増加している。

図 3-35 民生委員・児童委員の活動で充実してほしいこと



第4章 社会福祉協議会とボランティア活動

この章では、地域福祉活動の原動力として期待される社会福祉協議会、地域住民の現状、ボランティアやNPO法人の活動について分析している。

1 社会福祉協議会の認知度

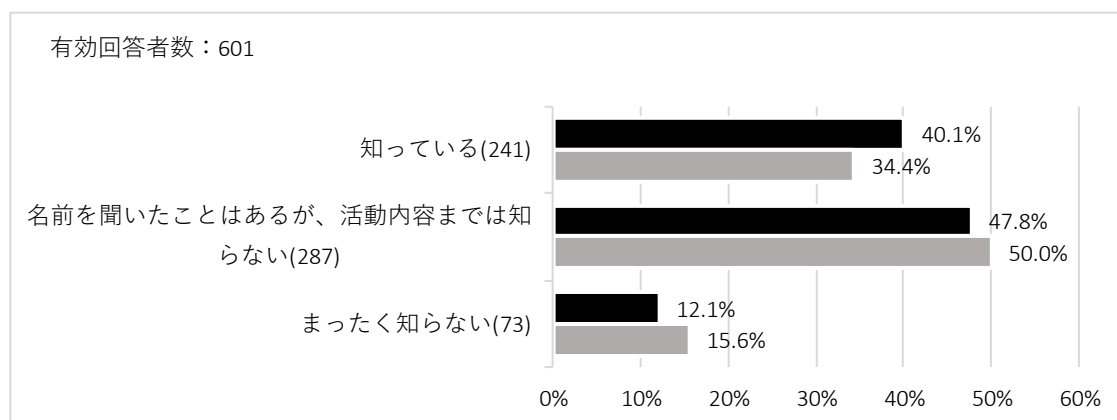
(1) 社会福祉協議会の認知度

地域福祉活動を推進するためには、社会福祉協議会の知名度を向上させることも必要と考える。

「社会福祉協議会の認知度」について、結果は図4-1『社会福祉協議会の認知度』のとおり、「知っている」が40.1%(241件)、「名前を聞いたことがあるが、活動内容まで知らない」が47.8%(287件)、「まったく知らない」が12.1%(73件)であった。

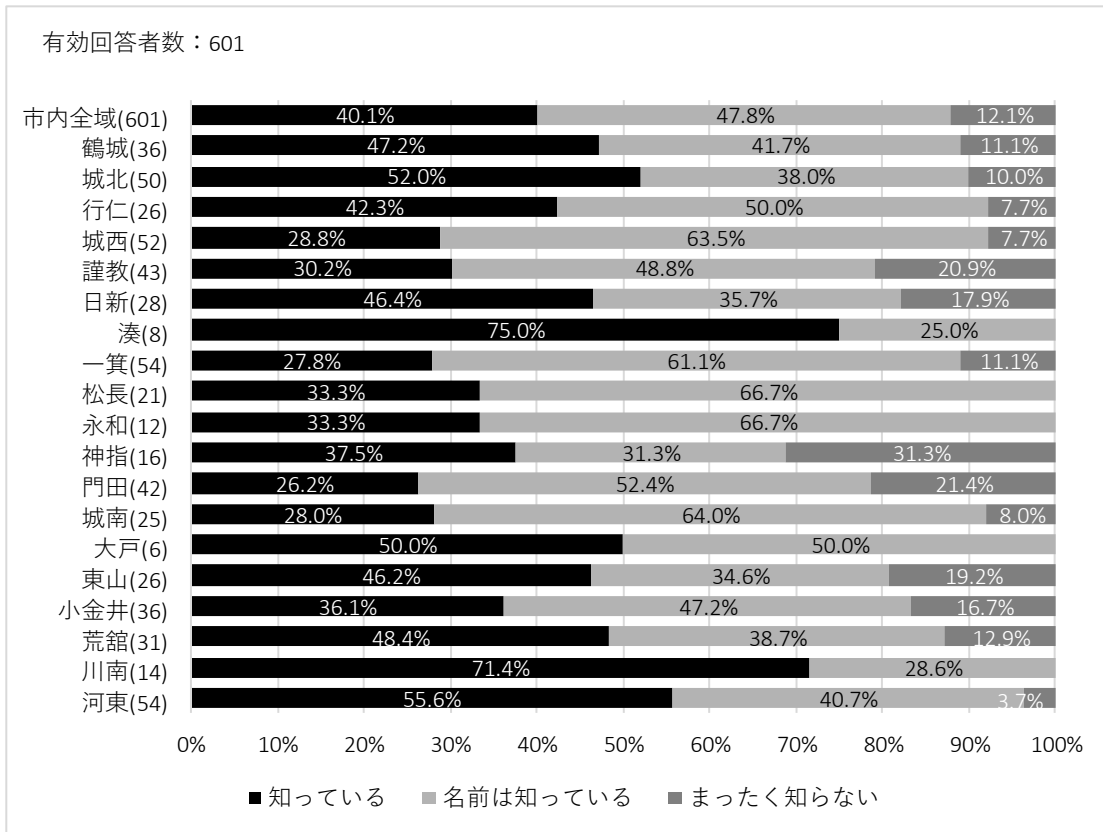
前回調査と比較すると、「知っている」、「名前を聞いたことがあるが、活動内容まで知らない」が3.5ポイント上昇をしている。

図4-1 社会福祉協議会の認知度



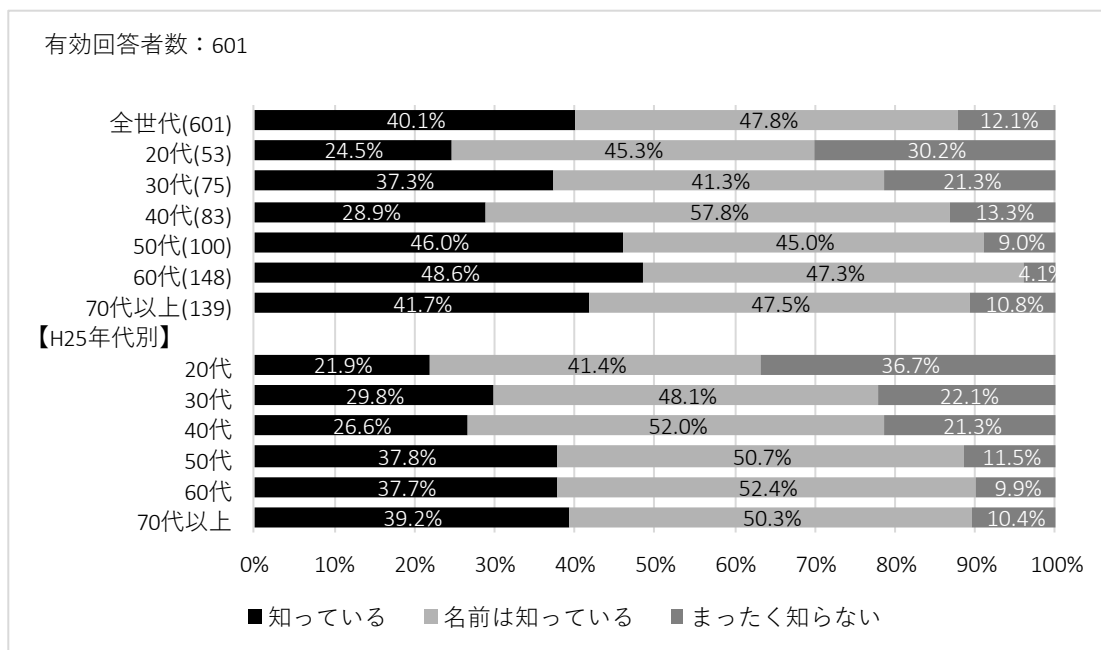
「社会福祉協議会の認知度」を小学校区で集計したものが図4-2『社会福祉協議会の認知度（地区別）』であり、湊地区のほか、城北、大戸、川南、河東の小学校区については、社会福祉協議会の認知度が比較的高い。

図 4-2 社会福祉協議会の認知度（地区別）



次に、年代別で集計したものが図 4-3『社会福祉協議会の認知度（年代別）』であり、「知っている」、「名前を知っているが、どんな団体かを知らない」の回答を合わせて 87.9%となっており前回調査より 5.7 ポイント増加している。20 代では 6.5 ポイント増加しており、年代が低くなるにしたがり認知度は低くなる傾向にある。

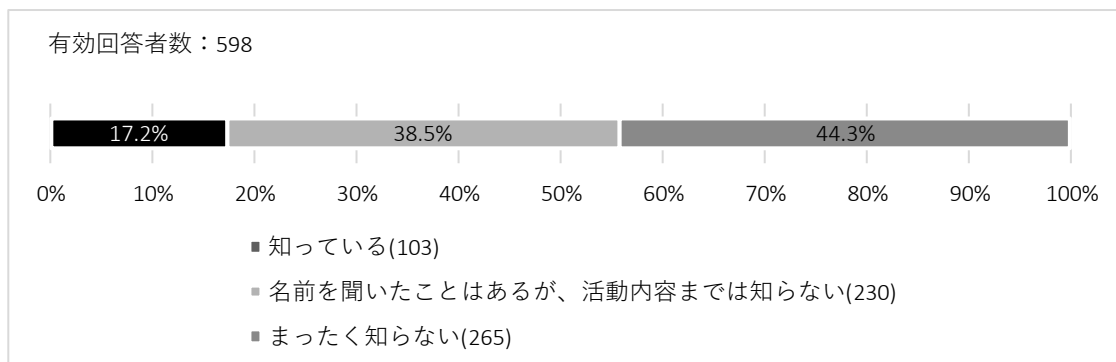
図 4-3 社会福祉協議会の認知度（年代別）



(2) 地区社会福祉協議会の認知度

「社会福祉協議会の認知度」については、図 4-4『地区社会福祉協議会の認知度』のとおりであり、「知っている」が 17.2%(103 件)に対して「名前を知っているが、活動内容については知らない」が 38.5%(230 件)、「まったく知らない」が 44.3%(265 件)で、よく知らないとの回答が 82.8%であった。

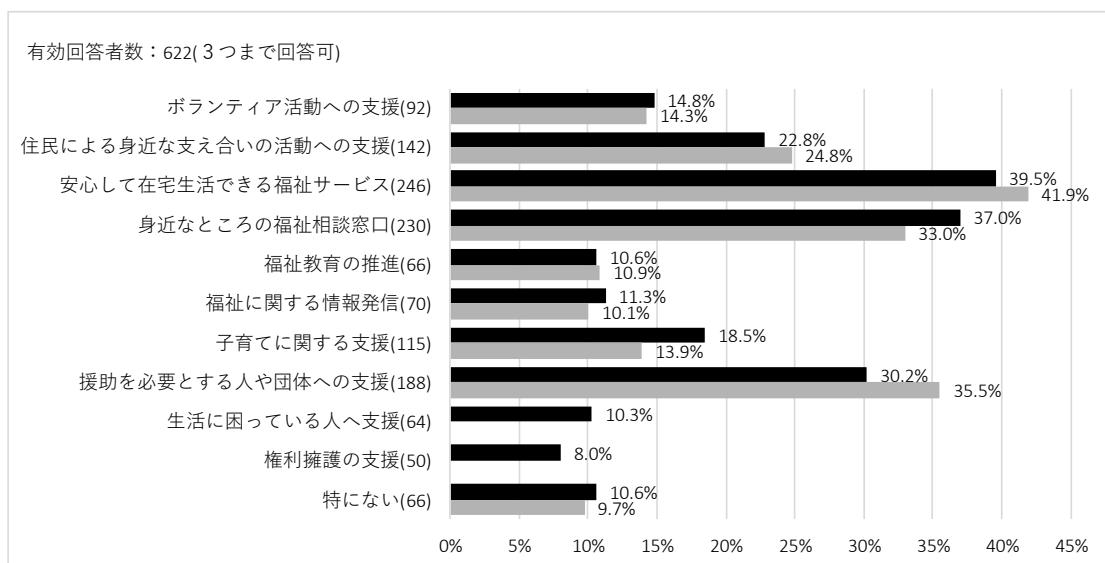
図 4-4 地区社会福祉協議会の認知度



2 社会福祉協議会への期待

「社会福祉協議会への期待」については、社会福祉協議会の活動や支援のうち、今後、充実を望む項目について3項目まで選択可として質問を行った。結果は図4-4『社会福祉協議会に充実してほしいこと』のとおりであり、「誰もが安心して在宅で生活するための在宅福祉サービス」が39.5%(246件)、「身近なところで福祉の相談ができる窓口」が37.0%(230件)、「高齢者や障がいのある人など援助を必要とする方々や団体への支援」が30.2%(188件)、「住民による身近な支え合いの活動への支援」が22.8%(142件)、「子育てに関する支援」が18.5%(115件)、「ボランティア活動への参加促進と支援」が14.8%(92件)であった。

図4-4 社会福祉協議会に充実してほしいこと

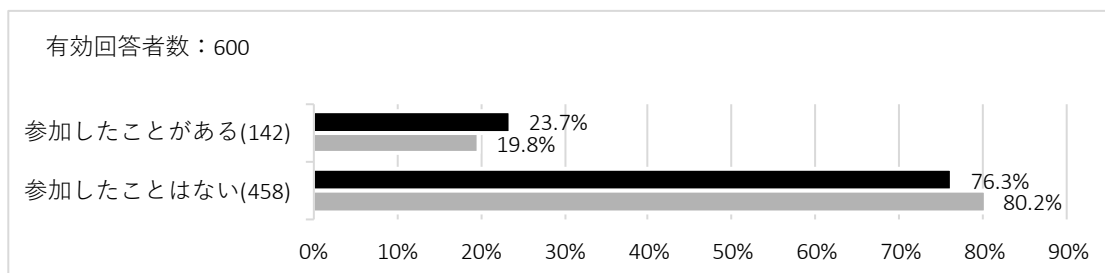


3 ボランティア活動等への参加状況等

「ボランティアやNPO法人の活動への参加状況等」については、図4-6『ボランティアやNPO法人の活動への参加経験』のとおり「参加したことがある」が23.7%(142)、「参加したことはない」が76.3%(458)であった。

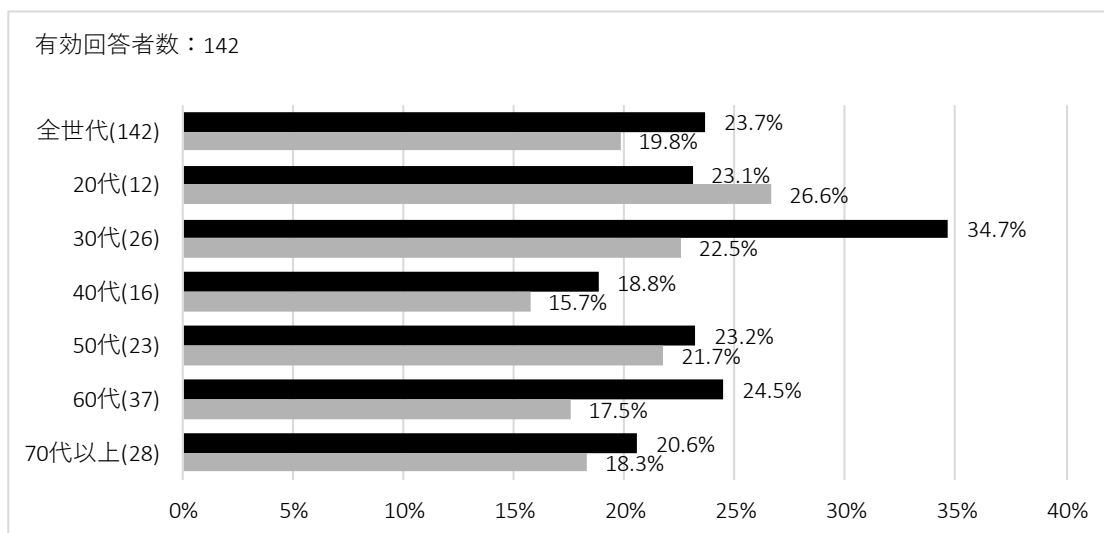
前回調査と比較し、「参加したことがある」で3.9ポイントの上昇がみられるものの「参加したことはない」が76.3%をであった。

図4-6 ボランティアやNPO法人の活動への参加経験



「ボランティアやNPO法人の活動への参加状況等」を年代別で集計したものが図4-7『ボランティアやNPO法人の活動への参加経験（年代別）』である。30代において「参加したことがある」の割合が比較的高いものの全年代の参加率に大きな差は見られなかった。

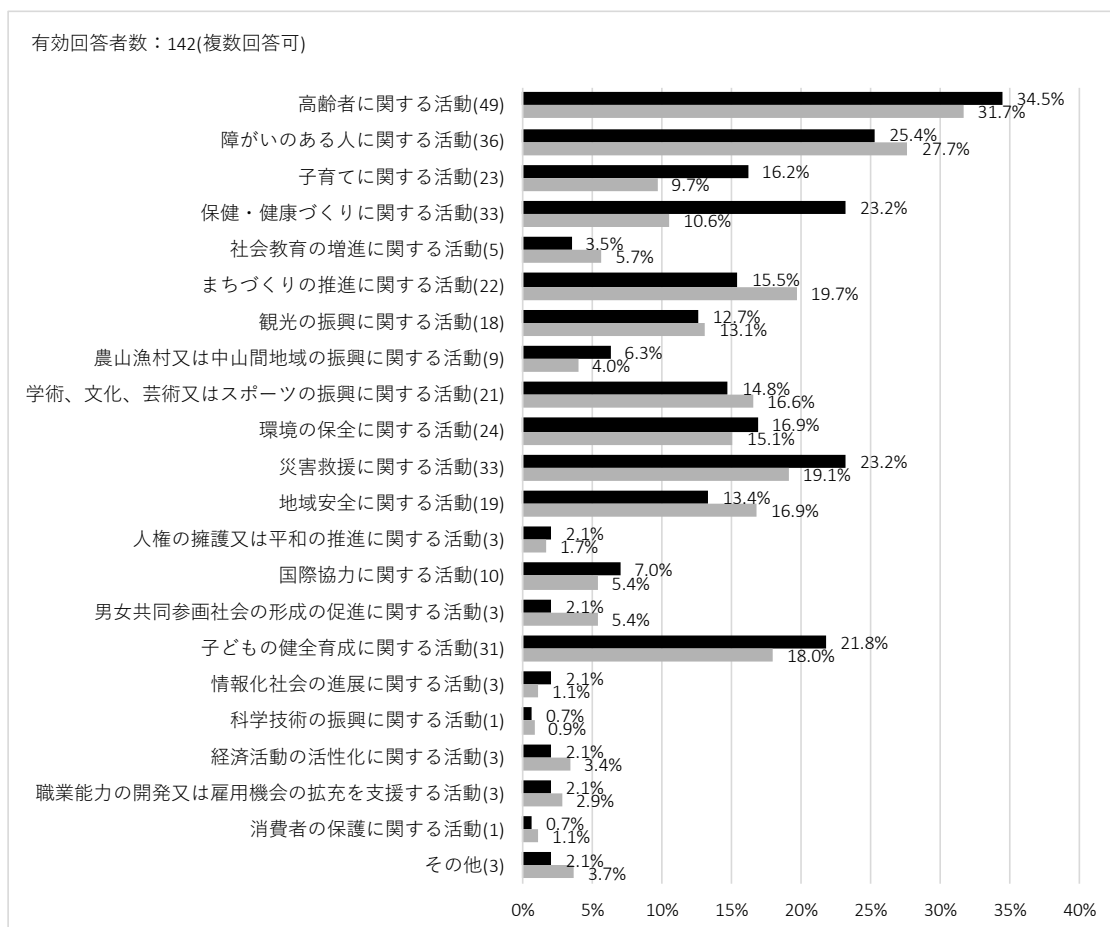
図4-7 ボランティアやNPO法人の活動への参加経験（年代別）



次に、「参加したボランティア活動やNPO活動」については、ボランティアやNPO法人の活動に参加したことがあると回答した142人を対象に、その内容について質問を行った。結果は図4-8『参加したボランティア活動やNPO活動』のとおりであり、「高齢者に関する活動」が34.5%(49件)が最も高く、次に「障がいのある人に関する活動」が25.4%(36件)、「保健・健康づくりに関する活動」と「災害救援に関する活動」が23.2%(33件)、「子どもの健全育成に関する活動」が21.8%(31件)が続く。

前回調査においても同様の傾向であったものの、「保健・健康づくりに関する活動」の結果において12.6ポイントの増と高い伸びが見られた。

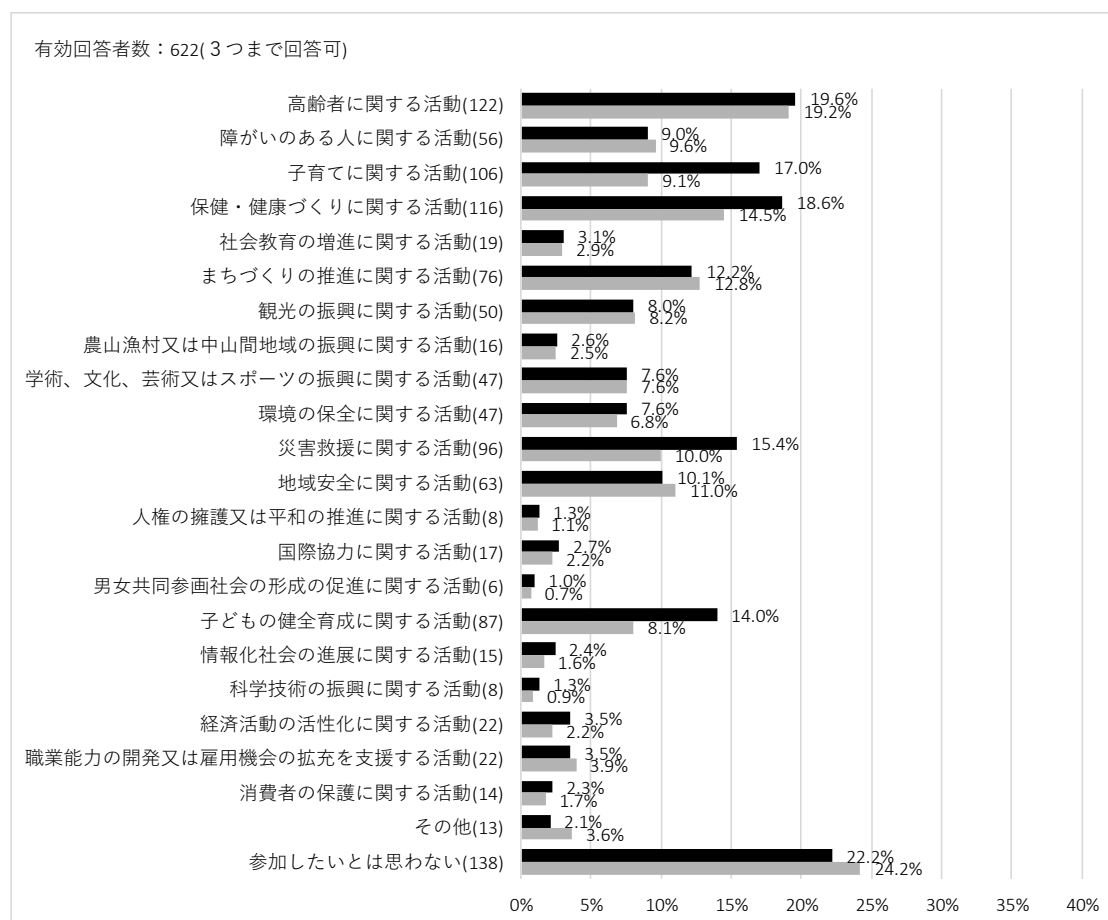
図4-8 参加したボランティア活動やNPO活動



次に、「参加したいボランティア活動やNPO活動」についてである。結果は図4-9『参加したいボランティア活動やNPO活動』のとおり、参加したくないが22.2%(138件)と最も高く、次いで「高齢者に関する活動」が19.6%(122)、「保健・健康づくりに関する活動」が18.6%(116件)、「子育てに関する活動」が17.0%(106件)、「災害救援活動」が15.4%(96件)、「子どもの健全育成を図る活動」が14.0%(87件)と続く。

前回調査と比較すると、「子育てに関する活動」が7.9ポイント、「子どもの健全育成を図る活動」が6.9ポイント、「災害救援活動」が5.4ポイント、「保健・健康づくりに関する活動」が4.1ポイントの増加が見られた。

図4-9 参加したいボランティア活動やNPO活動



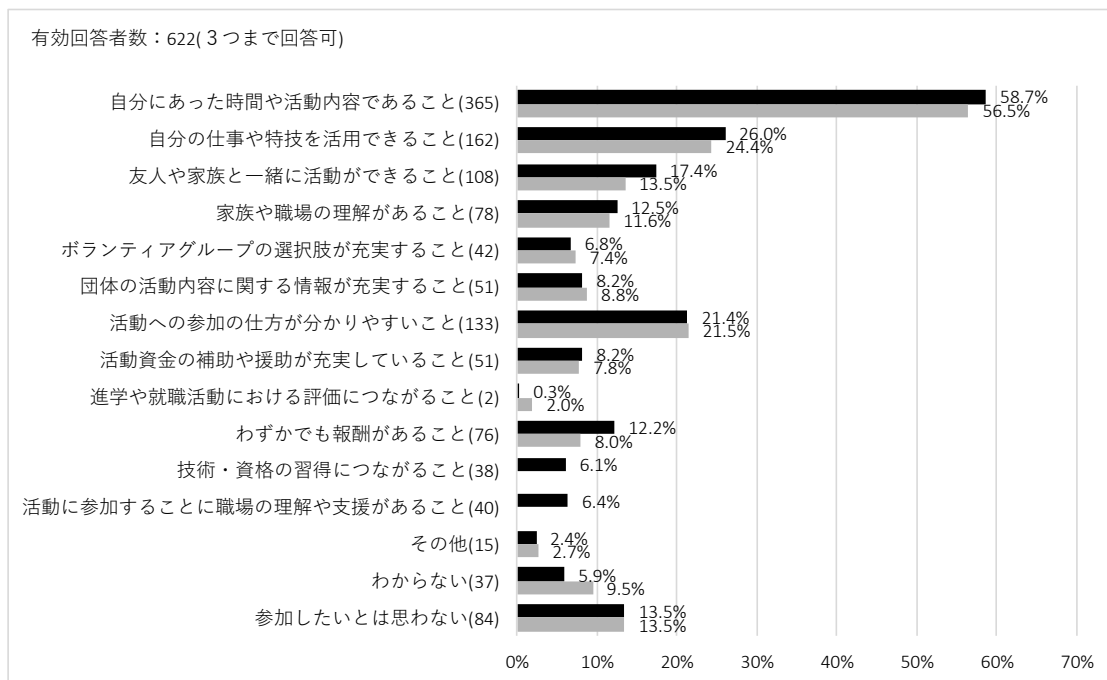
《その他の回答》

興味のあること 等

「ボランティア活動やNPO活動に参加するための条件」については、図 4-10『ボランティア活動やNPO活動に参加するための条件』のとおり、「自分にあった時間や活動内容であること」が58.7%(365件)が最も高く、次いで「自分の仕事や特技を活用できること」が26.0%(162件)、「活動への参加の仕方が分かりやすいこと」が21.4%(133件)と続いた。

また、前回調査と比較すると、「わずかでも報酬があること」が4.2ポイント、「友人や家族と一緒に活動ができること」が3.9ポイントの増加が見られた。

図 4-10 ボランティア活動やNPO活動に参加するための条件



《その他の回答》

活動に参加できる健康 等

第5章 地域における福祉課題と相談体制

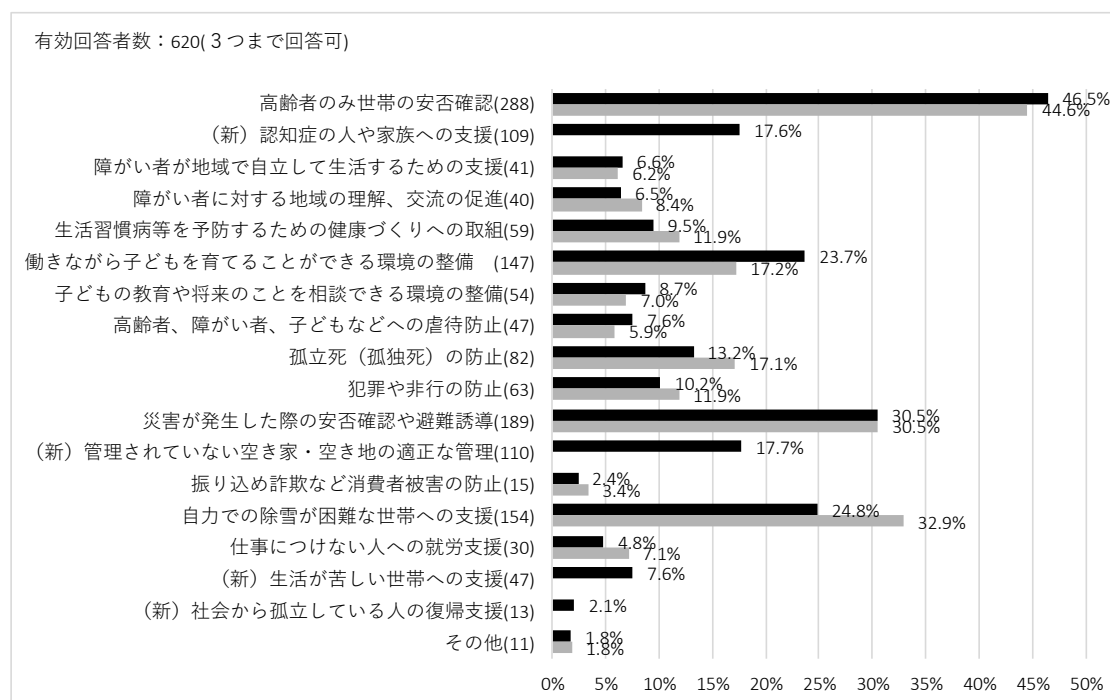
この章では、地域が抱える課題や福祉ニーズにはどのようなものがあるのか、行政、事業所、住民の連携をどのようにつくるのかについて分析している。

1 地域で優先的に解決しなければならない課題

「地域で優先的に解決しなければならない課題」については、図5-1『地域で優先的に解決しなければならない課題』のとおりであり、「高齢者のみ世帯の安否確認」が46.5% (288件)と最も高く、次いで「災害が発生した際の安否確認や避難誘導」が30.5%(189件)、「自力で除雪が困難な世帯への支援」が24.8%(154件)、「働きながら子どもを育てることができる環境の整備」が23.7%(147件)、「管理されていない空き家・空き地の適正な管理」が17.7%(110件)、「認知症の人や家族の支援」が17.6%(109件)と続いた。

前回調査と比較すると、新たに回答に加えた「管理されていない空き家・空き地の適正な管理」が17.7%。また「自力で除雪が困難な世帯への支援」が8.1ポイントの減少、「孤立死（孤独死）の防止」が3.9ポイントの減少とそれぞれ減少が見られた。

図5-1 地域で優先的に解決しなければならない課題



※（新）は新たに設定した質問

《その他の回答》

- ・高齢者の生活支援、ゴミ出し、病院への送迎、買い物、交流等の整備 等

回答結果を地区別に分析したところ、表 5-1『地域で優先的に解決しなければならない課題（地区別 上位3回答）』のとおりであり、湊、永和の小学校区を除く全ての地区で「高齢者のみの世帯の安否確認」が最優先的な課題であるという回答であった。なお、湊地区では「働きながら子供を育てることができる環境の整備」が、永和地区では「災害が発生した際の安否確認や避難誘導」が最優先的な課題であるとの結果であった。

そのほかの優先的な課題としては「災害が発生した際の安否確認や避難誘導」が17地区、「働きながら子どもを育てることができる環境の整備」、「自力での除雪が困難な世帯への支援」が9地区である。

また、湊、松長、大戸の小学校区では「管理されていない空き家・空き地の適正な管理」の回答数が上位に入っているなど地域課題の特徴が表れている。

表 5-1 地域で優先的に解決しなければならない課題（地区別 上位3回答）

鶴城	高齢者のみ世帯の安否確認	24	神指	高齢者のみ世帯の安否確認	8
	自力での除雪が困難な世帯への支援	14		災害が発生した際の安否確認や避難誘導	7
	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	11		働きながら子どもを育てることができる環境の整備	5
城北	高齢者のみ世帯の安否確認	17	門田	高齢者のみ世帯の安否確認	15
	自力での除雪が困難な世帯への支援	15		災害が発生した際の安否確認や避難誘導	14
	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	13		自力での除雪が困難な世帯への支援	14
行仁	高齢者のみ世帯の安否確認	12	城南	高齢者のみ世帯の安否確認	12
	自力での除雪が困難な世帯への支援	9		働きながら子どもを育てることができる環境の整備	7
	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	7		災害が発生した際の安否確認や避難誘導	7
城西	高齢者のみ世帯の安否確認	25	大戸	高齢者のみ世帯の安否確認	3
	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	20		管理されていない空き家・空き地の適正な管理	3
	働きながら子どもを育てることができる環境の整備	13		生活習慣病等を予防するための健康づくりへの取組	2
謹教	高齢者のみ世帯の安否確認	22	東山	高齢者のみ世帯の安否確認	18
	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	11		孤立死（孤独死）の防止	9
	自力での除雪が困難な世帯への支援	10		災害が発生した際の安否確認や避難誘導	9
日新	高齢者のみ世帯の安否確認	11	金井	自力での除雪が困難な世帯への支援	9
	認知症の人や家族への支援	10		高齢者のみ世帯の安否確認	20
	働きながら子どもを育てることができる環境の整備	9		災害が発生した際の安否確認や避難誘導	11
湊	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	9	荒館	働きながら子どもを育てることができる環境の整備	9
	働きながら子どもを育てることができる環境の整備	5		高齢者のみ世帯の安否確認	15
	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	3		災害が発生した際の安否確認や避難誘導	10
一箕	高齢者のみ世帯の安否確認 他5件	2	川南	働きながら子どもを育てることができる環境の整備	9
	高齢者のみ世帯の安否確認	24		高齢者のみ世帯の安否確認	10
	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	18		働きながら子どもを育てることができる環境の整備	7
松長	自力での除雪が困難な世帯への支援	16	河東	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	6
	高齢者のみ世帯の安否確認	10		高齢者のみ世帯の安否確認	27
	認知症の人や家族への支援	7		働きながら子どもを育てることができる環境の整備	20
永和	管理されていない空き家・空き地の適正な管理	7	市内全域	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	16
	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	6		認知症の人や家族への支援	16
	高齢者のみ世帯の安否確認	5		高齢者のみ世帯の安否確認	288
	自力での除雪が困難な世帯への支援	4		自力での除雪が困難な世帯への支援	189
				災害が発生した際の安否確認や避難誘導	154

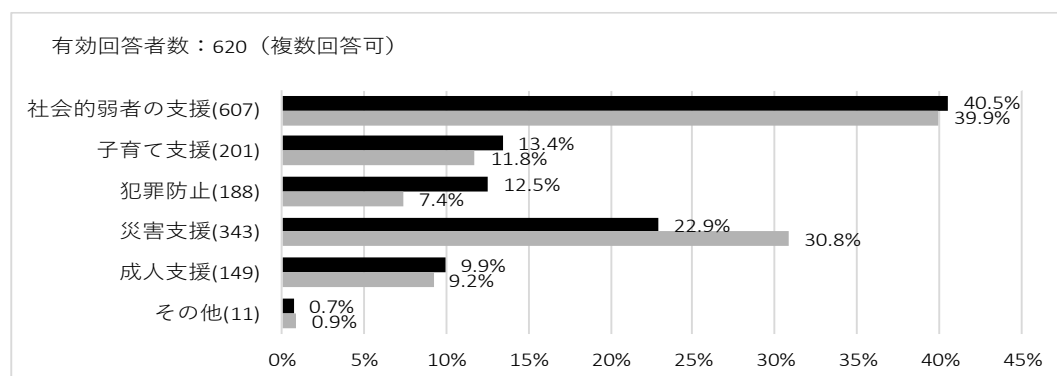
また、「地域で優先的に解決しなければならない課題」について、各課題を表 5-2『課題の類型化対照表』のとおり類型化し分析したところ、図 5-2『地域で優先的に解決しなければならない課題（類型化）』のとおり「社会的弱者（高齢者、障がい者、子どもなど）の支援」が 40.5%(607 件)と最も高く、次いで「災害支援」が 22.9%(343 件)、「子育て支援」が 13.4%(201 件)、「犯罪防止」が 12.5% (188 件)と続く。

前回調査と比較すると、「災害支援」は 7.9 ポイントの減少が見られたが引き続き高い割合にある。また、新たに加わった「管理されていない空き家・空き地の適正な管理」を反映した「犯罪防止」が 5.1 ポイントの増加となっている。

表 5-2 課題の類型化対照表

類 型	課 題
社会的弱者の支援	高齢者のみ世帯の安否確認
	認知症の人や家族への支援
	障がい者が地域で自立して生活するための支援
	障がい者に対する地域の理解、交流の促進
	高齢者、障がい者、子どもなどへの虐待防止
	孤立死（孤独死）の防止
子育て支援	働きながら子どもを育てることができる環境の整備
	子どもの教育や将来のことを相談できる環境の整備
犯罪防止	犯罪や非行の防止
	管理されていない空き家・空き地の適正な管理
	振り込め詐欺など消費者被害の防止
災害支援	災害が発生した際の安否確認や避難誘導
	自力での除雪が困難な世帯への支援
成人支援	生活習慣病等を予防するための健康づくりへの取組
	管理されていない空き家・空き地の適正な管理
	仕事につけない人への就労支援
	生活が苦しい世帯への支援
	社会から孤立している人の復帰支援

図 5-2 地域で優先的に解決しなければならない課題（類型化）

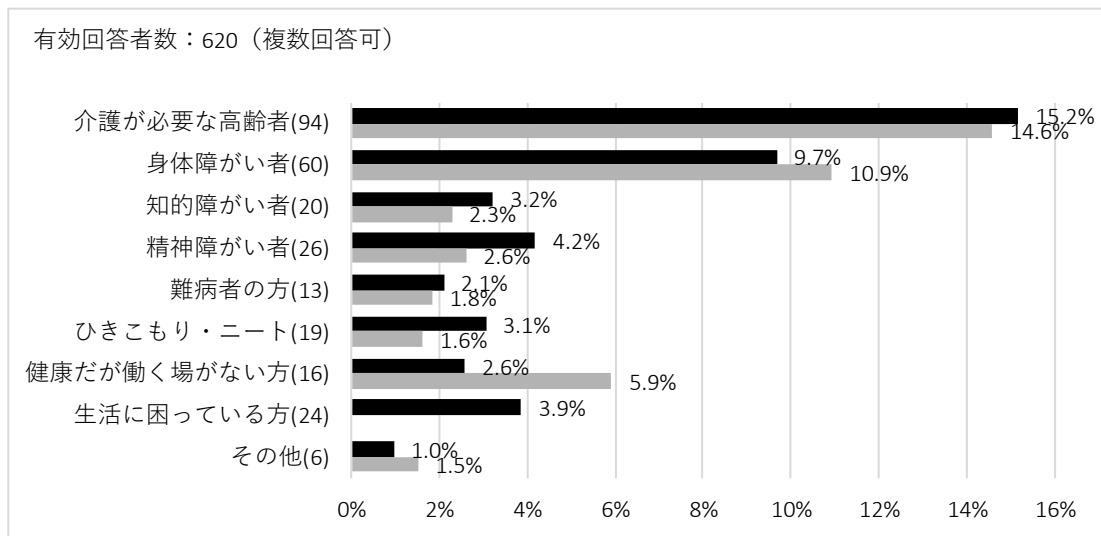


2 家族内における要支援者の有無

「家族内における要支援者の有無」については、図 5-3『家族内における要支援者の有無』のとおりであり、「介護が必要な方」が 15.2%(95 件)と最も高く、次いで「身体障がい者」が 9.7%(60 件)と続く。

前回調査と比較すると、「健康だが働く場がない方」が 3.3 ポイントと減少している一方で、「ひきこもり・ニート」が 1.5 ポイントの増加であった。

図 5-3 家族内における要支援者の有無



《その他の回答》

- ・子育て中の妊婦、介護までは必要がない高齢者 等

3 生活の問題に係る相談相手

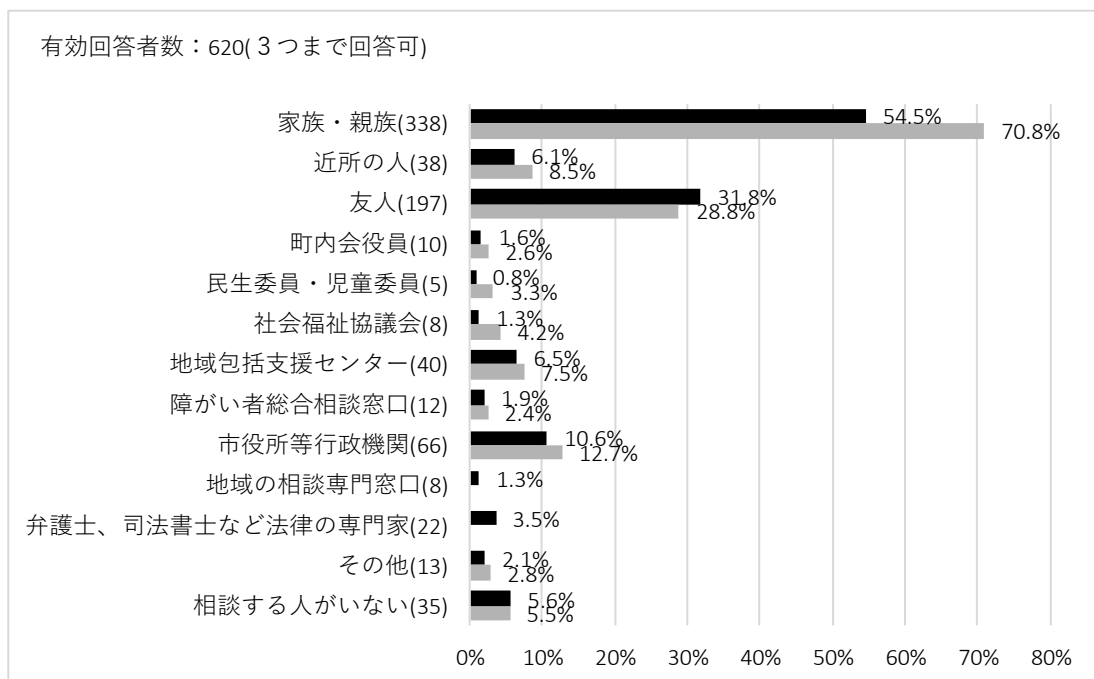
「生活の問題に係る相談相手」については、生活の問題に係る相談相手ニーズと相談相手の状況を把握するため、「生活の問題に係る相談相手(現在)」、「生活の問題に係る相談相手(本来相談したい相手)」という質問を行った。

まず、「生活の問題に係る相談相手(現在)」については、図5-4『生活の問題に係る相談相手(現在)』のとおりであり、「家族や親族」が54.5%(338件)、「友人」が31.8%(197件)、「市役所等行政機関」が10.6%(66件)が多い状況にあった。

前回調査と比較すると「家族や親族」が16.3ポイントの減少となっている。

また、「相談する相手がない」との回答が5.6%(35件)であった。

図5-4 生活の問題に係る相談相手(現在) (a)

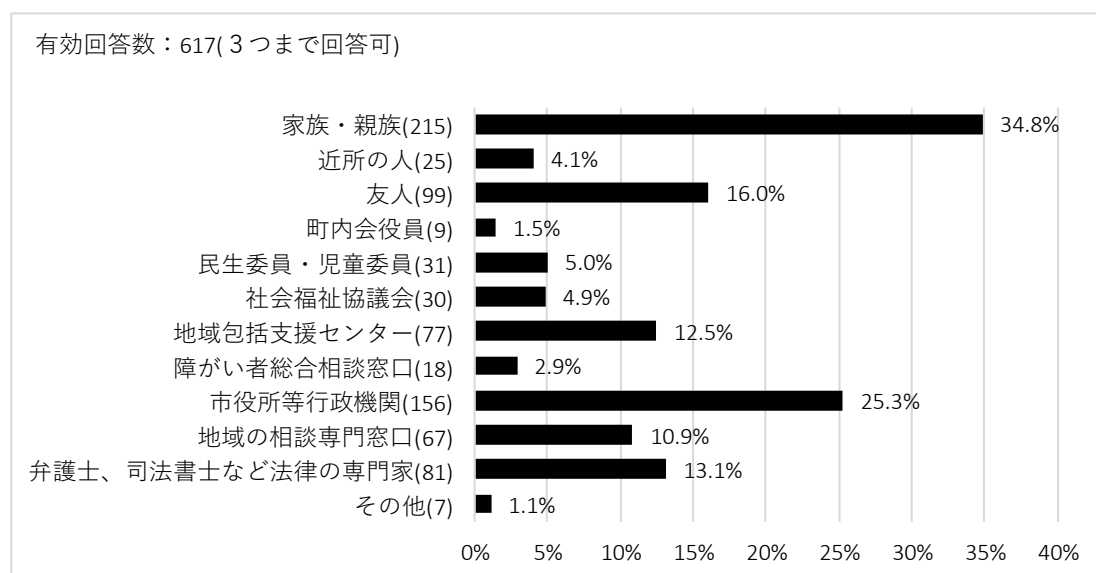


《その他の回答》

医療機関、福祉施設、保育所 等

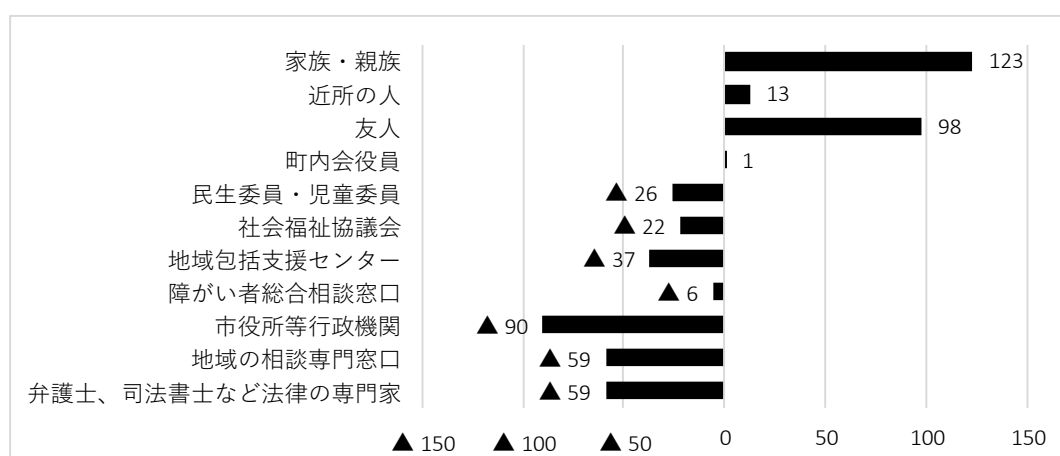
次に、「生活の問題に係る相談相手（本来相談したい相手）」については、図 5-5『生活の問題に係る相談相手（本来相談したい相手）』のとおりであり、「家族や親族」が 34.8% (215 件)、「市役所等行政機関」が 25.3%(156 件)と最も高く、次いで「友人」が 16.0% (99 件)、「弁護士、司法書士など法律の専門家」が 13.1%(81 件)、「地域包括支援センター」12.5%(77 件)、「地域の相談専門窓口」10.9%(67 件)と続く。

図 5-5 生活の問題に係る相談相手（本来相談したい相手） (b)



また、「生活の問題に係る相談相手（現在）」から「生活の問題に係る相談相手（本来相談したい相手）」を差し引いたものを図 5-6『相談相手に対する状況』のとおり算出した。その結果、「現在相談している相手」から「本来相談したい相手」を差し引いた結果、「家族・親戚」、「近所の人」、「友人」、「町内会役員」は現在相談している相手が上回っていたが、それ以外については、「現在相談している相手」が下回っている状況にあった。

図 5-6 相談相手に対する状況 (a-b)

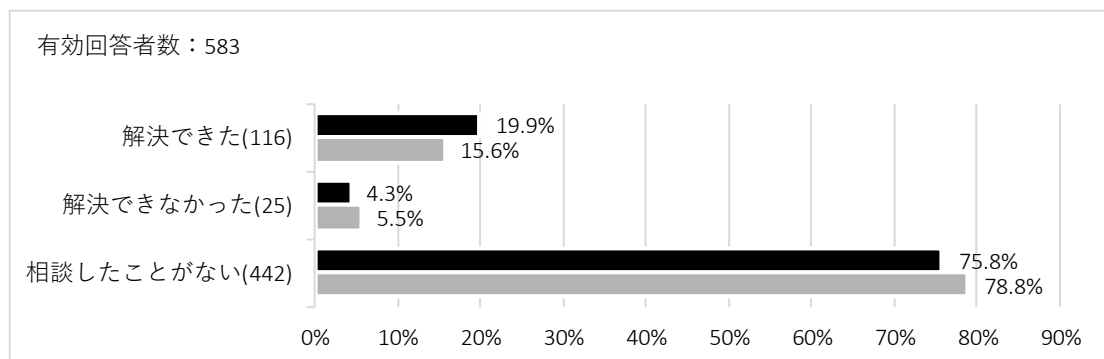


4 福祉に係る相談結果

福祉問題について「市役所に相談して解決できたか」については、図 5-7『市役所に相談して解決できたか』のとおりであり、「特に相談したことがない」が 75.8%(442 件)であった。「解決できた」が 19.9%(116 件)、「解決できなかったことがある」が 4.3%(25 件)であった。

前回調査と比較すると、「特に相談したことがない」が 3.0 ポイント減少し、「解決できた」が 4.3 ポイント上昇している。

図 5-7 市役所に相談して解決できたか



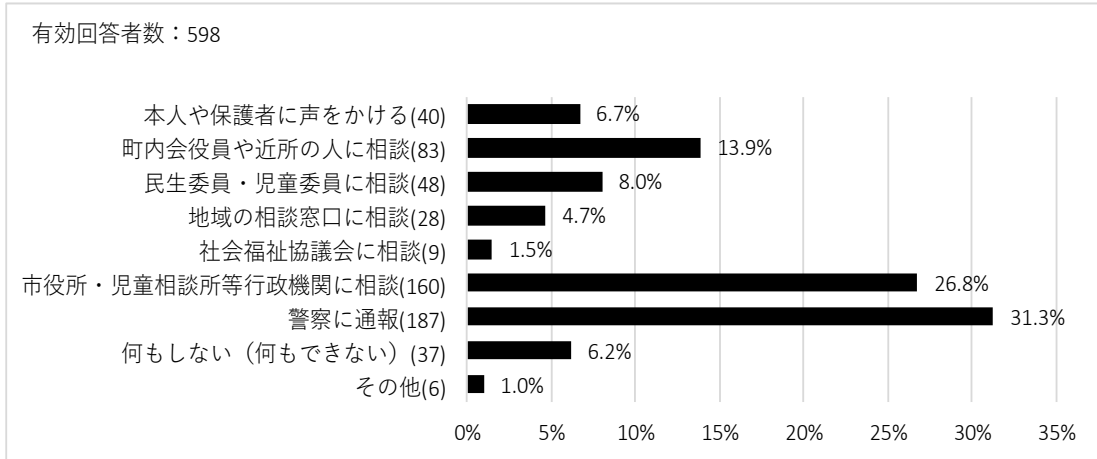
解決できなかった相談についての自由記述において記載されたものは以下のとおりである。なお、個人が特定されるもの、個別の紛争に関わるもの、質問内容と異なるものについては除外している。

- ・ 発病が 20 歳を超えていたため障害者年金の支給対象にならなかった。
- ・ 父の就職支援で相談したが、父のやる気がなくいまだに引きこもりである。
- ・ 疾病で子育て支援を利用していたとき、紹介された所が一時預かりをやめてしまったにもかかわらず次の所は紹介してもらえなかった。

5 虐待発見時の対応方法

高齢者や障がい者、児童に対する「虐待発見時の対応方法」については、図 5-8『虐待発見時の対応方法』のとおり「警察に通報」が 31.3%(187 件)、「市役所・児童相談所等行政機関に相談」が 26.8%(160 件)と行政機関に対する相談が多い状況であったが、「町内会役員や近所の人に相談」が 13.9%(83 件)、「民生委員・児童委員に相談」が 8.0%(48 件)、「本人や保護者に声をかける」が 6.7%(40 件)と、地域の中での見守りも見られた。

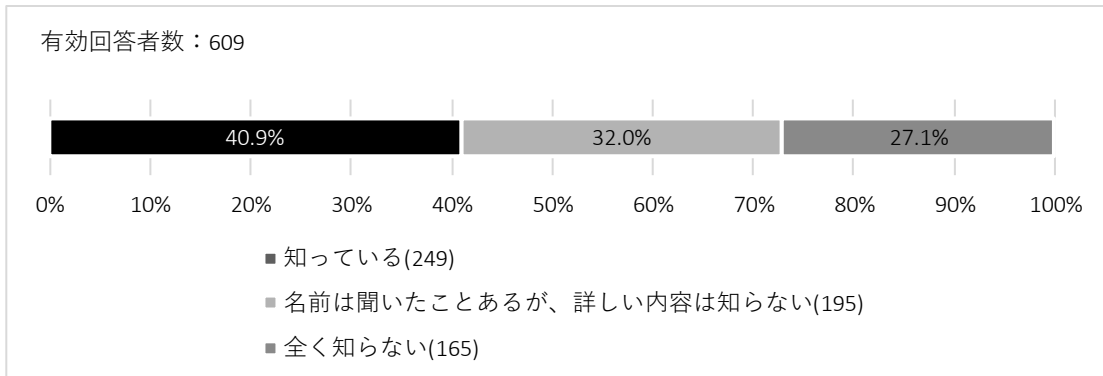
図 5-8 虐待発見時の対応方法



6 成年後見制度の認知度

「成年後見制度の認知度」については、図 5-9『成年後見制度の認知度』のとおりであり「知っている」が 40.9%(249)、「名前は聞いたことあるが、詳しい内容は知らない」が 32.0%(195 件)、「全く知らない」が 27.1%(165 件)であった。59.1%の人が制度の詳しい内容を知らないとの結果であった。

図 5-9 成年後見制度の認知度



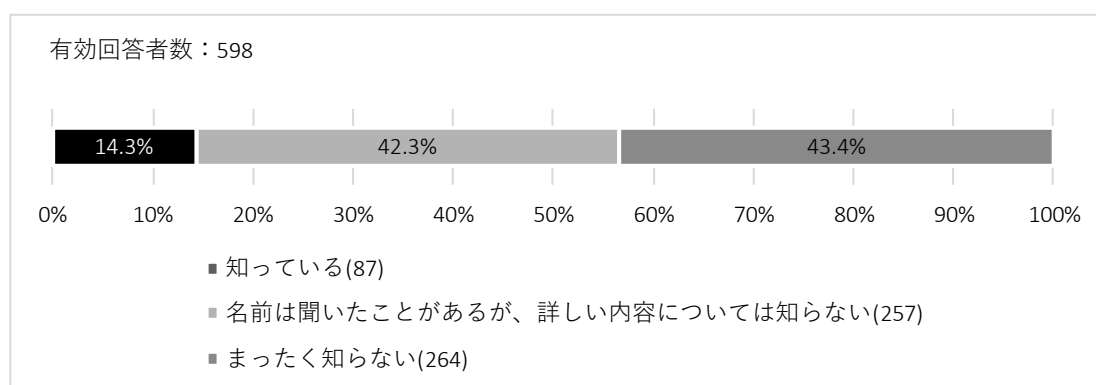
第6章 計画策定後の意識変化と今後の方向性

この章では、第1期地域福祉計画策定後の地域生活課題や住民意識の変化や福祉ニーズについて分析をしている。

1 地域福祉計画の認知度

地域福祉計画の認知度については、「知っている」、「全く知らない」、「名前は聞いたことがあるが、詳しい内容までは知らない」と答えた人が56.6%であった。

図6-1 地域福祉計画の認知度



2 計画策定後の地域変化

「計画策定後の地域変化」については、第1期地域福祉計画策定時の5年前と比較し、地域においてどのような変化があったのか質問を行った。結果は図6-2『計画策定後の地域変化』のとおりであり、全ての項目で「変わらない」が最も多かった。

また、「計画策定後の地域変化」を「良くなった」(+2)、「少し良くなった」(+1)、「悪くなった」(-2)、「少し悪くなった」(-1)とし合計したものを図6-3『計画策定後の地域変化(比較)』のとおり算出した。

まず、基本目標1「地域福祉の理解を深め、担い手を育てる地域づくり」については、「地域福祉に対する理解」、「地域で中心的に活動する人やボランティア団体数」、「若者の地域活動やボランティアへの参加状況」の質問を行った。

「地域福祉に対する理解」については、70ポイントであり、良くなったとの回答が多かった。

一方、「若者の地域活動やボランティアへの参加状況」については、▲69ポイントであり、良くなったとの回答が少なかった。

次に、基本目標2「地域の中で支え合い、たすけあいのある地域づくり」については、「若者以外の地域活動やボランティアへの参加状況」、「近所の人やボランティア、NPOとの協力」の質問を行った。

「若者以外の地域活動やボランティアへの参加状況」については、▲20ポイントであ

り、良くなったとの回答が少なかった。

基本目標3「いつまでも安心、安全に暮らせる地域づくり」については、「地域の行事やサロン会など地域の人が集まる活動」、「子育てにやさしい地域」、「高齢者が安心して暮らせる地域」、「障がい者への理解と共生できる地域」、「生活の苦しい人が公的機関に相談しやすい環境」の質問を行い、併せて「災害時に避難が困難な人への協力体制」、「災害時の近所の人とのたすけあい」について、重点的な取組2「災害時要支援者要支援者に対する日常的な見守り体制」として、「生活の苦しい人が公的機関に相談しやすい環境」については、重点的な取組3「生活困窮者自立支援の取組」として併せ質問をした。

その中で変化の大きかったものとしては、「災害時に避難が困難な人への協力体制」、「災害時の近所の人とのたすけあい」がそれぞれ25、28ポイントであり、良くなったとの回答が多かった。

基本目標4「健康でずっといきいき暮らせる地域づくり」については、「健康への関心や健康づくり」、「かかりつけ医・歯科医・薬局を持つことの意識」の質問を行った。

「健康への関心や健康づくり」が146ポイント、「かかりつけ医・歯科医・薬局を持つことの意識」が201ポイントと良くなったの回答が多かった。

基本目標5「福祉サービスの充実した地域づくり」については、「市政だより、市のホームページからの情報の取得」、「生活の苦しい人が公的機関に相談しやすい環境」、「福祉サービスへの関心」、「福祉に関する相談体制」を質問した。

全体的に良くなったとの回答が多かった。

重点的な取組1「地域福祉活動の基盤となる地域づくりの推進」については、基本目標1、基本目標2の質問のほか、「振り込め詐欺など消費者被害の防止」の質問をした。

「振り込め詐欺など消費者被害の防止」については良くなったとの回答が多かった。

図 6-2 計画策定後の地域変化

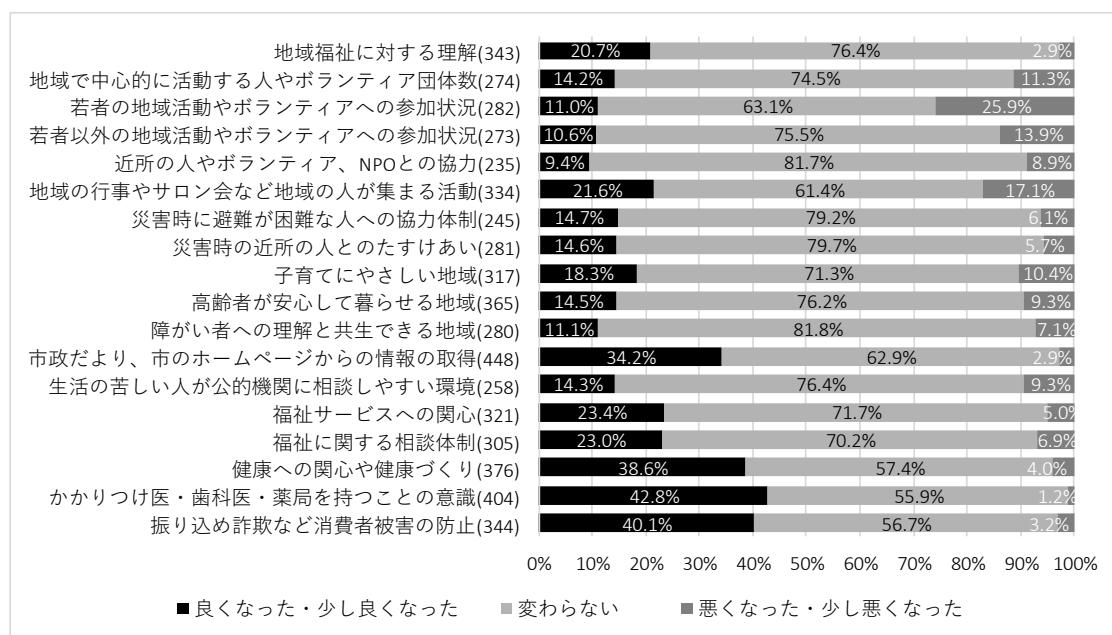
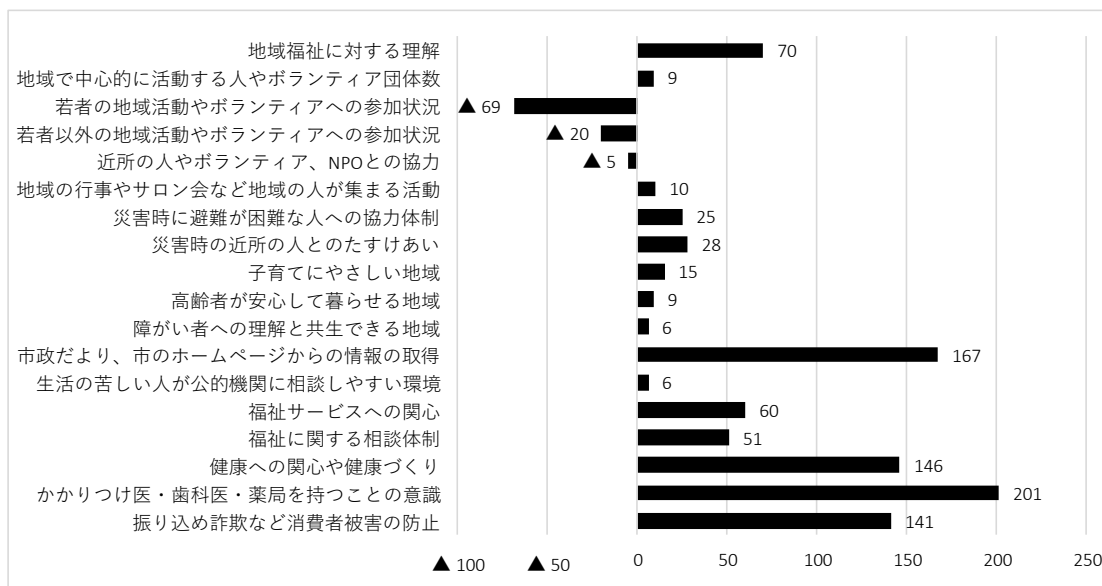


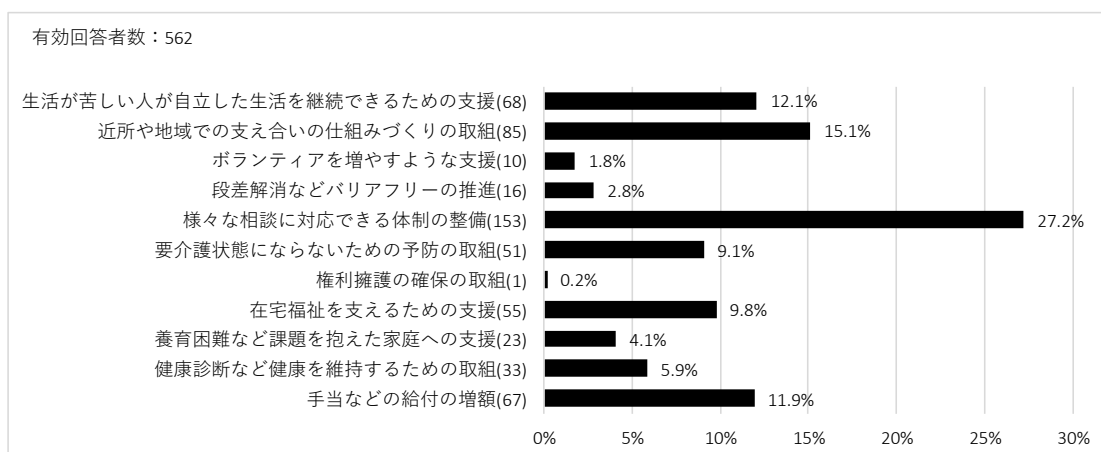
図 6-3 計画策定後の地域変化（比較）



3 充実を期待する福祉政策

回答者が市に今後重点的に推進すべきと考える福祉施策があるが、結果は図 6-4『充実を期待する福祉政策』のとおりであり、「様々な相談に対応できる体制の整備」が 27.2%(153 件)、「近所や地域での支え合いの仕組みづくりの取組」が 15.1%(85 件)と最も高く、次いで「生活が苦しい人が自立した生活を継続できるための支援」が 12.1%(68 件)と続く。

図 6-4 充実を期待する福祉政策



資料編

地域福祉を考えるアンケート集計結果

問1 あなたがお住まいになっている地区（小学校区と町名）を教えてください。選択学区など複数の学校区にまたがるときは、地区の児童が主に通う小学校を選んでください。【1つに○】

＜小学校区＞			
1. 鶴城小	2. 城北小	3. 行仁小	4. 城西小
5. 謹教小	6. 日新小	7. 湊小	8. 一箕小
9. 松長小	10. 永和小	11. 神指小	12. 門田小
13. 城南小	14. 大戸小	15. 東山小	16. 小金井小
17. 荒館小	18. 川南小	19. 河東学園小	20. わからない
＜町名＞（大字名、丁目までご記入ください）			
（ ） ※記入例（中央一丁目、一箕町大字亀賀等）			

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
37	53	26	55	43	30	10	55	23	12	17
12	13	14	15	16	17	18	19	20	欠損値	合計
43	26	6	27	37	31	15	54	8	14	622

問2 現在お住まいの場所での居住年数を教えてください。（本年11月1日現在）

約（ ）年 ※1年未満の場合は「0年」とご記入ください。

10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上 50年未満	50年以上 60年未満	60年以上 70年未満	70年以上 80年未満	80年以上	合計
124	98	103	98	75	31	42	9	2	582

問3 あなたがお住まいの住居について教えてください。【1つに○】

1. 一戸建て（自己・家族所有）	2. 一戸建て（借家）
3. 集合住宅（自己・家族所有）	4. 集合住宅（借家）
5. その他（ ）	

1	2	3	4	5	欠損値	合計
493	20	18	81	7	3	622

問4 あなたは今後も現在の地区に住み続けたいとお考えですか。【1つに○】

1. 住み続けたい	2. どちらかといえば住み続けたい
3. どちらともいえない	4. どちらかといえば他の地区に住みたい

1	2	3	4	欠損値	合計
342	133	109	35	3	622

問5 あなたの年齢、性別及び同居しているご家族の人数を教えてください。(本年11月1日現在)

<あなた> (年齢を記入し、性別・配偶者の有無に○をつけてください。)	
年齢 () 歳	性別 (男・女) 配偶者 (有・無)
<ご家族> (あなたから見た各続柄の人数をご記入ください。)	
祖父母 () 人	親 () 人 兄弟姉妹 () 人
子 () 人	孫 () 人 その他 () 人

年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	欠損値	合計
53	76	87	100	154	149	3	622

性別

男性	女性	欠損値	合計
287	328	7	622

配偶者

配偶者あり	配偶者なし	欠損値	合計
185	418	19	622

同居人数

1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	合計
57	151	143	118	52	101	622

同居世代数

1世代	2世代	3世代	4世代	合計
194	250	153	25	194

問 6 あなたの世帯全体のおおよその年収（仕送りを除く）を教えてください。【1つに○】

1. 100万円未満	2. 100万円～200万円未満
3. 200万円～300万円未満	4. 300万円～400万円未満
5. 400万円～500万円未満	6. 500万円～600万円未満
7. 600万円～700万円未満	8. 700万円～800万円未満
9. 800万円～900万円未満	10. 900万円～1,000万円未満
11. 1,000万円以上 1,500万円未満	12. 1,500万円以上

1	2	3	4	5	6	7
32	71	118	90	68	57	41
8	9	10	11	12	欠損値	合計
23	30	15	38	12	27	622

問 7 あなたの主な職業とその勤務（登校）日数・時間を教えてください。なお、勤務時間については、1日あたりの平均的な勤務時間数を記載してください。

<職業> 【1つに○】

1. 自営業	2. 農業
3. 正社員（民間企業・団体等）	4. パート・アルバイト
5. 契約社員・派遣社員	6. 公務員
7. 学生	8. 家事専業
9. 年金生活者	10. 無職（学生、家事専業を除く）
11. 失業中	12. その他（ ）

<勤務（登校）日数・時間>
週（ ）日 1日あたり約（ ）時間

1	2	3	4	5	6	7
40	17	181	57	28	28	12
8	9	10	11	12	欠損値	合計
58	129	45	4	12	11	622

問 8 あなたご自身やご家族は地域で何らかの役割（役職）を務めていますか。【該当するものすべてに○】

1. 民生委員・児童委員	2. 町内会役員
3. 赤十字奉仕団員	4. 消防団員
5. スポーツ少年団の指導者	6. 子育て支援関係団体
7. 子ども会・育成会の役員	8. 防犯・交通安全関係団体
9. 認知症サポーター	10. 高齢者福祉相談員
11. 老人会（クラブ）役員	12. 農業関係団体の役員（農事組合など）
13. 保健委員や食生活改善推進員	14. 保護司
15. 特にない	16. その他（ ）

1	2	3	4	5	6	7	8	9
15	102	20	37	5	2	18	13	7
10	11	12	13	14	15	16	合計	
0	10	16	4	2	24	417	692	

問 9 あなたご自身やご家族は、どのようなご近所づきあいをしていますか。【1つに○】

1. 近所の人とよく行き来している（⇒ 問 11 へ）
2. 近所の仲の良い人とは行き来している（⇒ 問 11 へ）
3. あいさつする程度であり近所づきあいはない（⇒ 問 10 へ）
4. 近所の人とは全くつきあいはない（⇒ 問 10 へ）
5. その他（ ）

1	2	3	4	5	欠損値	合計
88	191	309	16	7	11	622

問 10 問 9 で「3」か「4」のいずれかを選択した方に伺います。近所づきあいをされていない理由は何ですか。【該当するものすべてに○】

1. 仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない
2. 近所づきあいはわずらわしいので避けている
3. 近所づきあいはしたいが、つい消極的になってしまう
4. 普段留守の家が多く、近所づきあいがほとんどない地域である
5. その他（ ）

1	2	3	4	5	合計
169	56	40	69	35	369

問 11 あなたから見て、ご近所の状況はどのように思いますか。【1つに○】

1. まとまりがある	2. 特定の人だけがまとまっている
3. まとまりがない	4. よくわからない

1	2	3	4	欠損値	合計
177	171	42	207	25	622

問 12 あなたご自身やご家族は、町内会に入っていますか。【1つに○】

1. 入っている	2. 入っていない
----------	-----------

1	2	欠損値	合計
557	55	10	622

問 13 あなたは地域の活動や行事に参加していますか。【1つに○】

1. 参加している (⇒問 13-1 へ)	2. 参加していない (⇒問 13-2 へ)
-----------------------	------------------------

1	2	欠損値	合計
367	245	10	622

問 13-1 あなたが参加している活動や行事にはどのようなものがありますか。【該当するものすべてに○】

1. お祭り	2. 地区運動会
3. 地区文化祭	4. 清掃活動・廃品回収・堰さらい・側溝そうじ
5. 除雪活動	6. 防犯・防災・交通安全活動
7. 子ども会行事	8. 小中学校行事
9. 老人クラブ活動 (友愛訪問)	10. その他 () (⇒問 14 へ)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
150	71	46	320	75	24	44	54	25	12	821

問 13-2 参加していない主な理由をお聞かせください。【3つまでに○】

1. 仕事や家事で忙しい	2. 介護や育児で忙しい
3. 家族の理解がない	4. 興味がない
5. 健康や体力に不安がある	6. 経済的負担が大きい
7. 知り合いが少ない	8. 行事・活動の情報がない
9. 地域の人と関わりたくない	10. 地域活動は必要ないと思う
11. 同居の家族が参加している	12. その他 ()

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
104	21	2	58	38	6	41	35	13	6	54	22	400

問 14 あなたは、地域の人や友達と集まり様々な活動をするときに、どのような施設を利用していますか。【利用頻度が高い施設3つまでに○】

1. 會津稽古堂・公民館・コミュニティーセンター・体育館など公的施設	
2. 町内会館・自治会館・集会所	3. 飲食店
4. 民家（友達の家など）	5. 空き家・空き店舗
6. 公園や広場	7. ベンチなど屋外にある座れる場所
8. その他 ()	

1	2	3	4	5	6	7	8	合計
175	256	238	105	2	48	10	25	859

問 15 地震や火災等の災害時に住民同士が協力し合えるようになるためには、どのようなことが必要だとお考えですか。【必要な順に3つまでに○】

1. 災害時避難行動要支援者※それぞれの避難の方法や支援のあり方を地域みんなで考える	
2. 地域での自主防災組織※づくり	3. 地域での定期的な防災訓練
4. 地域での勉強会	5. 福祉サービス事業者や行政との連携
6. その他 ()	7. 特にないと思う

1	2	3	4	5	6	7	合計
362	296	189	156	190	17	33	1,243

問 16 あなたが災害時などに地域の人から手助けしてもらったことになった場合に、事前にどのような情報であれば地域の人に知らせてもよいとお考えですか。【該当するものすべてに○】

1. 名前	2. 生年月日（年齢）
3. 連絡先（電話番号）	4. 家族や親せきの連絡先
5. 病気（通院）や障がいの状況	6. 福祉サービスの利用状況
7. 所得の状況	8. その他（ ）
9. 何も知られたくない（⇒ 問 18 へ）	

1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
526	333	480	306	253	109	12	4	27	2,050

問 17 問 16 で「1」から「8」までのいずれかを選択した方に伺います。あなたは、知らせてもよいと回答した情報を、どの範囲までなら知らせてもよいとお考えですか。【該当するものすべてに○】

1. 友人・知人	2. 近所の人
3. 町内会	4. 民生委員・児童委員
5. 地域の自主防災組織 （自主防災組織がない地域の方は、組織があった場合として回答ください）	
6. 社会福祉協議会	7. その他（ ）

1	2	3	4	5	6	7	合計
394	359	272	198	180	135	7	1,545

問 18 あなたは、地域で困っている世帯がある場合、①現在既に手助けしていること、②今後手助けできると思うことはありますか。また、③現在もしくは将来的にあなたが自身が地域の人に手助けしてほしいと思うことはありますか。【1～15 の項目について、①②③それぞれについて「ある」・「ない」のいずれかに○】

手助けなどの内容	① 現在手助けしていること	② 今後手助けできること	③ 将来手助けしてほしいこと
1. 安否確認の声かけ	ある・ない	ある・ない	ある・ない
2. 話し相手	ある・ない	ある・ない	ある・ない
3. 悩みごと、心配ごとの相談	ある・ない	ある・ない	ある・ない
4. 日用品などのちょっとした買い物	ある・ない	ある・ない	ある・ない
5. 電球交換などのちょっとした作業	ある・ない	ある・ない	ある・ない
6. ごみ出し	ある・ない	ある・ない	ある・ない
7. 家の中の掃除	ある・ない	ある・ない	ある・ない
8. 庭の手入れ	ある・ない	ある・ない	ある・ない
9. 玄関前や通路確保のための除雪	ある・ない	ある・ない	ある・ない
10. 短時間の子どもの預かり	ある・ない	ある・ない	ある・ない
11. 保育園・幼稚園の送迎	ある・ない	ある・ない	ある・ない
12. 通院の付き添い（送迎）	ある・ない	ある・ない	ある・ない
13. 病気のときの看病	ある・ない	ある・ない	ある・ない
14. 経済的な支援	ある・ない	ある・ない	ある・ない
15. その他（ ）	ある・ない	ある・ない	ある・ない

① 現在手助けしていること

1	2	3	4	5	6	7	8
82	126	74	37	27	39	18	28
9	10	11	12	13	14	15	合計
146	13	8	20	17	12	3	650

② 今後手助けできること

1	2	3	4	5	6	7	8
405	313	225	262	243	249	116	132
9	10	11	12	13	14	15	合計
306	117	87	108	72	35	6	2,676

③ 将来手助けしてほしいこと

1	2	3	4	5	6	7	8
370	259	214	206	208	192	103	133
9	10	11	12	13	14	15	合計
299	65	48	132	110	79	7	2,425

問 19 あなたは、地域の福祉活動に参加したいと思いますか。【1つに○】

- | |
|---|
| 1. 率先して参加したい (⇒ 問 20 へ) |
| 2. 状況を見て参加したい (⇒ 問 20 へ) |
| 3. 参加したくはないが、町内会等の活動であれば仕方なく参加する (⇒ 問 20 へ) |
| 4. 参加したくない (⇒ 問 21 へ) |

1	2	3	4	欠損値	合計
17	318	144	113	30	622

問 20 問 19 で「1」から「3」までのいずれかを選択した方に伺います。あなたが地域福祉活動に参加する場合、どの範囲（地域）までなら活動ができるとお考えですか。【1つに○】

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 隣組単位（近所） | 2. 町内会 |
| 3. 小学校区 | 4. 中学校区 |
| 5. 公民館・市民センターの区域 | 6. 合併前の区域（旧若松、旧北会津、旧河東） |
| 7. 市内全域 | 8. わからない |

1	2	3	4	5	6	7	8	合計
127	171	42	8	16	9	26	35	434

問 21 あなたは、どのような方が中心となり地域の福祉活動を企画・運営をした方がよいとお考えですか。【1つに○】

1. 地域福祉に意欲のある住民	2. 地域福祉の研修等を受けた住民
3. 町内会の役員	4. 民生委員・児童委員
5. 老人クラブの役員	6. その他（ ）
7. わからない	

1	2	3	4	5	6	7	欠損値	合計
187	150	84	49	4	12	74	62	622

問 22 あなたは、地域の福祉活動に参加する人材を育てるためには、どのような機会を通して学んでもらうことが最も必要とお考えですか。【1つに○】

1. 学校での教育で学ぶ	2. 家庭での教育で学ぶ
3. 地域活動の中で学ぶ	4. 行政等による研修会で学ぶ
5. NPO活動やボランティア活動の実践を通して学ぶ	
6. その他（ ）	7. わからない

1	2	3	4	5	6	7	欠損値	合計
107	22	156	139	95	1	62	40	622

問 23 あなたにとって、地域の福祉活動は、どのような組織と連携するのが重要とお考えですか。【3つまでに○】

1. 町内会・子ども会等町内で活動する組織
2. 地域の民生委員・児童委員の組織
3. NPO・ボランティア団体
4. 地域づくりを行う組織
5. 社会福祉協議会（地区社会福祉協議会を含む）
6. 地域の企業
7. その他（ ）

1	2	3	4	5	6	7	合計
326	239	197	230	248	74	7	1,321

問 24 あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はございますか。【3つまでに○】

1. 高齢者のみ世帯の安否確認
2. 認知症の人や家族への支援
3. 障がい者が地域で自立して生活するための支援
4. 障がい者に対する地域の理解、交流の促進
5. 生活習慣病等を予防するための健康づくりへの取組
6. 働きながら子どもを育てることができる環境の整備
7. 子どもの教育や将来のことを相談できる環境の整備
8. 高齢者、障がい者、子どもなどへの虐待防止
9. 孤立死（孤独死）の防止
10. 犯罪や非行の防止
11. 災害が発生した際の安否確認や避難誘導
12. 管理されていない空き家・空き地の適正な管理
13. 振り込め詐欺など消費者被害の防止
14. 自力での除雪が困難な世帯への支援
15. 仕事につけない人への就労支援
16. 生活が苦しい世帯への支援
17. 社会（地域）から孤立している人の社会（地域）への復帰支援
18. その他（ ）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
288	109	41	40	59	147	54	47	82	63
11	12	13	14	15	16	17	18	合計	
189	110	15	154	30	47	13	11	1,499	

問 25 あなたの地域では、5年前と比較し、どのように変化したと感じていますか。【1～18の項目それぞれについて1～6いずれか1つに○】

- ①良くなった（増えた） ②少し良くなった（少し増えた） ③変わらない
④少し悪くなった（少し減った） ⑤悪くなった（減った） ⑥わからない

地域の変化	① 良 く な っ た	② 少 し 良 く な っ た	③ 変 わ ら な い	④ 少 し 悪 く な っ た	⑤ 悪 く な っ た	⑥ わ か ら な い
1. 地域福祉に対する理解	1	2	3	4	5	6
2. 地域で中心的に活動する人やボランティア団体数	1	2	3	4	5	6
3. 若者の地域活動やボランティアへの参加状況	1	2	3	4	5	6
4. 若者以外の地域活動やボランティアへの参加状況	1	2	3	4	5	6
5. 近所の人やボランティア、NPO との協力	1	2	3	4	5	6
6. 地域の行事やサロン会など地域の人が集まる活動	1	2	3	4	5	6
7. 災害時に避難が困難な人への協力体制	1	2	3	4	5	6
8. 災害時の近所の人とのたすけあい	1	2	3	4	5	6
9. 子育てにやさしい地域	1	2	3	4	5	6
10. 高齢者が安心して暮らせる地域	1	2	3	4	5	6
11. 障がい者への理解と共生できる地域	1	2	3	4	5	6
12. 市政だより、市のホームページからの情報の取得	1	2	3	4	5	6
13. 生活の苦しい人が公的機関に相談しやすい環境	1	2	3	4	5	6
14. 福祉サービスへの関心	1	2	3	4	5	6
15. 福祉に関する相談体制	1	2	3	4	5	6
16. 健康への関心や健康づくり	1	2	3	4	5	6
17. かかりつけ医・歯科医・薬局を持つこと意識	1	2	3	4	5	6
18. 振り込め詐欺など消費者被害の防止	1	2	3	4	5	6

地域福祉に対する理解

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
12	59	262	7	3	232	47	622

地域で中心的に活動する人やボランティア団体数

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
8	31	204	24	7	294	54	622

若者の地域活動やボランティアへの参加状況

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
8	23	178	38	35	290	50	622

若者以外の地域活動やボランティアへの参加状況

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
3	26	206	24	14	294	55	622

近所の人やボランティア、NPO との協力

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
2	20	192	13	8	329	58	622

地域の行事やサロン会など地域の人が集まる活動

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
12	60	205	40	17	232	3	622

災害時に避難が困難な人への協力体制

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
7	29	194	12	3	320	67	622

災害時の近所の人とのたすけあい

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
7	34	224	12	4	284	57	622

子育てにやさしい地域

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
5	53	226	18	15	248	57	622

高齢者が安心して暮らせる地域

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
6	47	278	18	16	207	50	622

障がい者への理解と共生できる地域

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
5	26	229	10	10	281	61	622

市政だより、市のホームページからの情報の取得

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
32	121	282	8	5	121	53	622

生活の苦しい人が公的機関に相談しやすい環境

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
4	33	197	13	11	303	61	622

福祉サービスへの関心

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
9	66	230	8	8	246	55	622

福祉に関する相談体制

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
9	61	214	14	7	260	57	622

健康への関心や健康づくり

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
21	124	216	10	5	196	50	622

かかりつけ医・歯科医・薬局を持つことの意識

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
36	137	226	2	3	170	48	622

振り込め詐欺など消費者被害の防止

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
23	115	195	2	9	226	52	622

問 26 あなたは、ボランティアやNPO団体の活動に参加したことがありますか。【1つに○】

1. 参加したことがある (⇒ 問 27 へ)	2. 参加したことはない (⇒ 問 28 へ)
-------------------------	-------------------------

1	2	欠損値	合計
142	458	22	622

問 27 問 26 で「1」を選択した方に伺います。あなたは、これまでにどのような分野のボランティア活動やNPO（11 ページ※参照）活動に参加しましたか。【該当するものすべてに○】

1. 高齢者に関する活動
2. 障がいのある人に関する活動
3. 子育てに関する活動
4. 保健・健康づくりに関する活動
5. 社会教育の増進に関する活動
6. まちづくりの推進に関する活動
7. 観光の振興に関する活動
8. 農山漁村又は中山間地域の振興に関する活動
9. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興に関する活動
10. 環境の保全に関する活動
11. 災害救援に関する活動
12. 地域安全に関する活動
13. 人権の擁護又は平和の推進に関する活動
14. 国際協力に関する活動
15. 男女共同参画社会の形成の促進に関する活動
16. 子どもの健全育成に関する活動
17. 情報化社会の進展に関する活動
18. 科学技術の振興に関する活動
19. 経済活動の活性化に関する活動
20. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
21. 消費者の保護に関する活動
22. その他（ ）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
49	36	23	33	5	22	18	9	21	24	33	19
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	合計	
3	10	3	31	3	1	3	3	1	3	353	

問 28 あなたは、今後どのような分野のボランティア活動やNPO（11 ページ※参照）活動に参加してみたいと思いますか。【3つまでに○】

1. 高齢者に関する活動
2. 障がいのある人に関する活動
3. 子育てに関する活動
4. 保健・健康づくりに関する活動
5. 社会教育の増進に関する活動
6. まちづくりの推進に関する活動
7. 観光の振興に関する活動
8. 農山漁村又は中山間地域の振興に関する活動
9. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興に関する活動
10. 環境の保全に関する活動
11. 災害救援に関する活動
12. 地域安全に関する活動
13. 人権の擁護又は平和の推進に関する活動
14. 国際協力に関する活動
15. 男女共同参画社会の形成の促進に関する活動
16. 子どもの健全育成に関する活動
17. 情報化社会の進展に関する活動
18. 科学技術の振興に関する活動
19. 経済活動の活性化に関する活動
20. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
21. 消費者の保護に関する活動
22. その他（ ）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
122	56	106	116	19	76	50	16	47	47	96	63
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
8	17	6	87	15	8	22	22	14	13	138	1,164

問 29 あなたは、今後どのような条件が整えばボランティア活動やNPO（11 ページ※参照）活動に参加してみたいと思いますか。【3つまでに○】

- | |
|---|
| 1. 自分にあった時間や活動内容であること |
| 2. 自分の仕事や特技を活用できること |
| 3. 友人や家族と一緒に活動ができること |
| 4. 家族や職場の理解があること |
| 5. ボランティアグループの選択肢が充実すること |
| 6. 団体の活動内容に関する情報が充実すること |
| 7. 活動への参加の仕方が分かりやすいこと |
| 8. 活動資金の補助や援助が充実していること |
| 9. 進学や就職活動における評価につながること |
| 10. わずかでも報酬があること |
| 11. 技術・資格の習得につながること |
| 12. 活動に参加することに職場の理解や支援があること |
| 13. その他（) |
| 14. わからない |
| 15. 参加したいとは思わない |

1	2	3	4	5	6	7	8
365	162	108	78	42	51	133	51
9	10	11	12	13	14	15	合計
2	76	38	40	15	37	84	1,282

問 30 あなたやご家族で以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。【該当するものすべてに○】

- | | |
|--|--------------|
| 1. 介護が必要な高齢者 | 2. 身体障がい者 |
| 3. 知的障がい者 | 4. 精神障がい者 |
| 5. 難病者の方 | 6. ひきこもり・ニート |
| 7. 健康だが働く場がない方 | 8. 生活に困っている方 |
| 9. その他（) | 10. いずれもない |

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
94	60	20	26	13	19	16	24	6	419	697

問 31 あなたやご家族は、生活の問題を解決したいとき、①現在は、どこに相談をしていますか。②本来は、どこで相談をできればよいと思いますか。【1～13の項目について、①・②それぞれ3つまでに○】

相談相手	① 現在相談しているところ	② 本来相談したいところ
1. 家族・親族		
2. 近所の人		
3. 友人		
4. 町内会役員		
5. 民生委員・児童委員		
6. 社会福祉協議会		
7. 地域包括支援センター		
8. 障がい者総合相談窓口		
9. 行政機関（市役所・支所・市民センター等）		
10. 地区社会福祉協議会など地域の相談専門の窓口		
11. 弁護士、司法書士など法律の専門家		
12. その他（ ）		
13. 相談する人はいない		

① 現在相談しているところ

1	2	3	4	5	6	7
338	38	197	10	5	8	40
8	9	10	11	12	13	合計
12	66	8	22	13	35	792

② 本来相談したいところ

1	2	3	4	5	6	7
215	25	99	9	31	30	77
8	9	10	11	12	合計	
18	156	67	81	7	815	

問 32 あなたやご家族は、福祉のことで市役所に相談したとき、解決することができましたか。【1つに○】

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. 解決できた(⇒ 問 34 へ) | 2. 解決できなかったことがある(⇒ 問 33 へ) |
| 3. 特に相談したことはない(⇒ 問 34 へ) | |

1	2	3	欠損値	合計
116	25	442	39	622

問 33 問 32 で「2」を選択した方に伺います。どのようなことを相談したときに解決できなかったですか。よろしければ具体的にご記入ください。

- | |
|--|
| <input type="radio"/> 発病時が 20 歳を超えていたため障害者年金の支給対象にならなかった。
<input type="radio"/> 父の就職支援で相談したが、父のやる気がなくいまだに引きこもりである。
<input type="radio"/> ひきこもりの子どもの相談に行ったが、本人を連れてくるよう言われ、外出できずそのままになってしまった。
<input type="radio"/> 疾病で子育て支援を利用していたとき、紹介された所が一時預かりをやめてしまったにもかかわらず次の所は紹介してもらえなかった。 |
|--|

問 34 あなたは、社会福祉協議会（8 ページ※参照）をご存じですか。【1つに○】

- | |
|---------------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない |
| 3. 全く知らない |

1	2	3	欠損値	合計
241	287	73	21	622

問 35 社会福祉協議会（8 ページ※参照）が行う活動や支援のうち、あなたが今後、充実してほしいと思うことはありますか。【3つまでに○】

1. ボランティア活動への参加促進と支援
2. 住民による身近な支え合いの活動（＝地域の福祉活動）への支援
3. 誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービス
4. 身近なところで福祉の相談ができる窓口
5. 児童・生徒、地域住民を対象とした福祉教育の推進
6. 福祉に関する情報発信（インターネット等を含む）
7. 子育てに関する支援
8. 高齢者や障がいのある人など援助を必要とする人や団体への支援
9. 緊急的な生活のための貸付や家計相談など生活に困っている人へ支援
10. 判断が十分でない人への権利擁護※の支援
11. 特になし

1	2	3	4	5	6	7
92	142	246	230	66	70	115
8	9	10	11	欠損値	合計	
188	64	50	66	1	816	

問 36 あなたは、社会福祉協議会（8 ページ※参照）が地域の支え合う活動の拠点として組織化を進めている地区社会福祉協議会をご存じですか。【1つに○】

1. 知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない
3. 全く知らない

1	2	3	欠損値	合計
103	230	265	24	622

問 37 あなたは、お住まいの地域を担当している民生委員・児童委員（4 ページ※参照）がどなたかご存じですか。【1つに○】

1. 知っている
2. 知らない

1	2	欠損値	合計
203	404	15	622

問 38 民生委員・児童委員（4 ページ※参照）の活動のうち、あなたが今後、特に充実してほしいと思う項目はどれですか。【1つに○】

- | |
|----------------------------|
| 1. 日常生活の悩みや心配ごとの相談 |
| 2. 福祉に関する情報の提供 |
| 3. 地域住民の見守り |
| 4. 福祉サービス利用にあたっての調整や支援 |
| 5. 地域の福祉課題を解決していくための仕組みづくり |
| 6. 特にない |

1	2	3	4	5	6	欠損値	合計
75	92	175	68	54	113	45	622

問 39 あなたは、高齢者、障がい者、子どもなどへの虐待に気が付いたとき、どのような対応をしますか。【1つに○】

- | |
|----------------------------------|
| 1. 本人や保護者に声をかける |
| 2. 町内会役員や近所の人に相談 |
| 3. 民生委員・児童委員に相談 |
| 4. 地域包括支援センター)などの地域の相談機関に相談 |
| 5. 社会福祉協議会に相談 |
| 6. 行政機関（市役所・支所・市民センター・児童相談所等）に相談 |
| 7. 警察に通報 |
| 8. 何もしない（何もできない） |
| 9. その他（ ） |

1	2	3	4	5	6	7	8	9	欠損値	合計
40	83	48	28	9	160	187	37	6	24	622

問 40 あなたは、成年後見制度をご存じですか。【1つに○】

- | |
|-------------------------|
| 1. 知っている |
| 2. 名前は知っているが、内容まではわからない |
| 3. 全く知らない |

1	2	3	欠損値	合計
249	195	165	13	622

問 41 あなたは、市が今後どのような施策を重点的に推進すべきと思いますか。【1つに○】

1. 生活が苦しい人が自立した生活を継続できるための支援
2. 近所や地域での支え合いの仕組みづくりの取組
3. ボランティアを増やすような支援
4. 段差解消などバリアフリーの推進
5. 様々な相談に対応できる体制の整備
6. 要介護状態にならないための予防の取組
7. 権利擁護の確保の取組
8. 在宅福祉を支えるための支援
9. 養育困難など課題を抱えた家庭への支援
10. 健康診断など健康を維持するための取組
11. 手当などの給付の増額

1	2	3	4	5	6	7
68	85	10	16	153	51	1
8	9	10	11	欠損値	合計	
55	23	33	67	50	622	

問 42 あなたは、このアンケートが届くまで、会津若松市『地域福祉計画』、社会福祉法人会津若松市社会福祉協議会『地域福祉活動計画』をご存知でしたか。【1つに○】

1. 知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、詳しい内容については知らない
3. 全く知らない

1	2	3	欠損値	合計
87	257	264	14	622

問 43 （自由記載）地域で孤立している人をなくしていくためには、見守りや支え合いなどの地域における取組が今後ますます重要となってきます。

こうした活動を充実させるため、あなたは何かが必要とお考えですか。

ご意見をお聞かせください。

- 地域づくりに関すること
- 現在、活動している団体やサークルの活動状況を把握しながら、細かい訪問行動のシステムを作る。お茶のみを多くする。孤立している人の訪問回数を多くして、なじみになる。その後集団への参加のアプローチをする。

- 私の地域では世帯主の氏名しか把握していないので、家族も把握していなければ災害時に誰が亡くなったかがわからない。家族の名前を明確にする必要があると思う。
- 元々の近所付き合いが大切だと思うが、地域住民が確実に参加するようなボランティア団体等が必要だと思う。
- うちの子どもは私立小学校に通うようになり、地域との繋がりが全くなくなってしまった。
- 小さな単位(町内会や地区)でボランティアをしたい人とお手伝いが必要な人とを結ぶコーディネーターがいると良い。
- 地域住民との催し、集会を増やし、ふれあいの場を数多く設けていくための支援の充実。
- その地域で暮らすなら、まず最低限として、町内会への入会・活動は必須。これすら拒む家があればみんなが迷惑して団結が揺らいでしまう。消防団への加入勧奨も一度は必須だと思う。
- まずは町内会での組長、隣や近所の人がもう少し関心を持つよう町内の回覧や会議に参加させ学ぶ機会を設ける。ただ、今の時代個人情報保護法等もありどこまで踏み込んで良いか線引きが人それぞれで難しい。でも常に意識するのは大切だと思う。(最近見かけない、車が停車(駐車したまま)等)一番怖いのは「無関心」だと思う。
- 参加しやすい町づくり、声かけできる安心した町づくり。
- 地域情報を吸い上げる体制づくり。
- アパート住まいの人達が、地域の中に入ってきやすい環境づくり。若い人達が地域の活動に参加しやすい環境づくり。
- 地域の活動で行っていること、行う予定、やりたいけどできないことなど、市のホームページや市政だよりなどで、多くの人が見られるようにしたいと思います。
- 仕組み作りが全てだと考える。問題だけに注視するのではなくそれに必要な支援を充実させ、双方に満足できるメリットを見出せる仕組みがあれば勝手に良くなると思う。結局資金力。お金を運用できる組織にしてほしい。
- 核家族や単身世帯が増えたことで隣同士、顔を知らないで生活している世代が増えてきているため近隣に誰が生活しているかということを知る必要がある。特に若い世代が地域への参加に積極的ではないため若い人が参加しやすいような催しや地域のコミュニティづくりが必要だと思われる。
- 一番身近な組織は町内会。町内会で活躍できる人づくり、育成。民生委員・児童委員も活動状況が見えにくく一部の人にしか理解されていない。
- どこにどんな人が住んでいるのかということは最低限の情報として知っていることが必要と考える。そのためにもせめて町内会内の各戸家族構成くらいはお互い分かりあっていける近所付き合いが必要。

- 多くの若い方が参加しやすい環境。
- 戦前は「向こう三軒両隣」との思想で地域性が確立していたと推察するが最近では都会的、核家族的考え方が強く隣の人は何をしているのか分からない状況にあると思慮する。この考え、風潮をなくして隣人間のコミュニケーションが強まるような行政指導が望まれる。計画及び活動計画の策定の前にそれが実行できる地域性を確立することが大切ではないかと考える。
- 子どもから大人（高齢者も含む）までに、取組の重要性を確認してもらう。ボランティア活動などを通して実際に体験できることが必要だと思う。話だけではその場だけで終わってしまい意味がない。

見守りに関すること

- 若い人がいなく高齢者ばかりのため、高齢者同士で声掛けをしている。これからもそうしていく。
- 高齢世帯や一人暮らしの家をよく知っているのは隣近所の人だと思うので隣組、集落役員の手助けが重要だと思う。
- どのような見守りや支えあいがあるのかの広報活動。支援する側の方法や報酬の充実。
- それぞれの地域はもちろん、各組内での取り組みも見えないところがあり手助けしたくてもできない状態がある。特に個人の情報保護等が弊害となっていることもあり、なかなか隣組でも声がかけれないのが現状です。地区全体ではなく、組ごとの連携ができるような話し合いも必要だと思う。
- 私自身単身世帯であり、近所付き合いもなく、地域の役員や民生委員・児童委員などが誰なのかも知らず災害が起きたときや除雪等女性一人の暮らしでどうしたらいいのか分からなくて不安である。高齢者でなくても不安が多い。
- SOS のサインを出すこと。他人のせいにはしない。自分から助けを求める。わがままになる。自己主張をする。困っていれば、声を上げれば、普通助ける。迷惑をかけると悪いと思い、何も言わないことが一番ダメ！
- 町内でのお節介な声かけも必要であり、節度あるお節介行動を促し、できるようなメッセージを地域に発信したらよいのではないか。お節介すること、されることで、お互い顔を合わし言葉を交わし合うことにもなるので「お節介」を推進するようなカッコイイメッセージを考えて発信してほしい。
- ご近所の付き合い。昔のようなお茶飲みができるような集合場所があればいろいろな方々と話せて顔見知りになり何かとお世話ができる。
- 今までのようにときどき訪問し、買い物や掃除、おかず作りなどをしてあげたなら助かると思います。
- 隣近所のあいさつ、コミュニケーションの重要性。各地域の区長、または組長さんから特に一人暮らしの年寄りの訪問の重要性。（新聞、郵便物等が何日も郵便受けに溜まってはいないか？）
- 民生委員・児童委員と町内の方々が一緒になり、自分の町内の実態を把握し委員

と一緒に声かけして歩く。

- 引っ越したばかりで地域の事がよく分らないとき、近所の人や組長さん達の優しい人柄にホッとした。普段からの声かけが一番大事だと思う。
- 見守る範囲を広げすぎると本来守るべき所が見えなくなる場合もあると思う。難しいが頑張っしてほしい。
- 地域住民と町内会や民生委員・児童委員がつながりやすい地域のサロンや集会のような顔の見える関係が必要だと考える。社会が変わり昔とは違う年代を超えた取組が必要である。そのようなシステムを地域で構築していくことができれば高齢者も障がい者も子育て世代も支え合うことができると思う。
- 自分から声かけするのはお節介かなと思うので行政で下地を作ってくれば支援できると思う。
- 組織を充実し、見守りや声かけなどの人数を増やし、一致団結して取り組むよう持っていくことが必要。
- 各地域に専門スタッフを配置し、声かけや困りごとなどの確認を取ればよいと思う。
- 町内会、近所の人との繋がりを大事にすること。一人暮らしの人は両隣の家には緊急時の連絡先を伝えておくべきだと思う。
- 孤立している人をなくしていこうという場合、①近所の人々の声かけ、見守り。②民生委員・児童委員の方々の声かけ、見守り。③地域ぐるみでのカバーができればよいと思う。
- 町内・組・隣近所で孤立している人を把握していることが大事だと思う。
- ゴミ出しや外出などから戻ったときにご近所さんへのあいさつを心がけている。
- 地域の人たちと常に話し合いながら見守ること。
- 身近に認知症の方がいるのですがまだまだ周りの人々の理解があまりないのでその方は孤立しているようだ。声かけなり話し相手になってあげる人が身近に必要なと思う。皆さんも自分がその立場に立ってみて考えていけたらよいかと思う。
- 人手不足の背景で人に頼り続けることが困難になってくる。IoT や情報技術を取り入れて統括した管理の仕組み作りを推進することも考えても良いと思う。もっと税金の使い方効率化を考えて進めてほしい。そのような取組に協力したい。
- 自分自身が将来孤立しそうで怖いが他人との関わりも難しい（苦手）。他の方々の意見を知りたい。
- 地域の中で顔が見える関係づくりがまず第一歩になるのではないか。また地域の中に支え合いの必要性を理解している方も多いと思うので、それをどうやって形にしていくかも課題の一つかと思う。
- 一人一人が地域で孤立している人をなくしていこうという意識がまず大切だと

思います。そういう思いやりの心を育ていける社会、地域づくりをみんなで真剣に考えていかなければならないと思う。

- 見守りや支え合いをするための資金。
- 過度なプライバシー保護をやめ、困っている人の情報を地域で共有する。
- 市職員、警察等公的機関の人が常にどの地域も把握し常日頃から見回り地域住民の方へ声かけが必要。何かあってから動くのではなく何も起こらないうちから状況把握が一番大切。
- 情報収集、孤立者の巡回、イベント参加などへの声かけ。高齢者は子どもたちとの触れ合いがよいと思われる。
- ボランティア的な活動には資金を積極的に投入し、当事者・実施者に資金が回るしくみを作るべき。IT 技術の積極的な活用も考慮すべき。
- 最高の方法を思案し会津から実践できれば、この上なくありがたく安心感に繋がる。
- 孤立されている方の自覚。

子どものことや子育て、教育に関すること

- 関係機関が連絡を密にして定期的に声かけや支援をしていくこと。特に子育て世帯には悩みを相談しやすい環境を作るために訪問する人の立場、資格、性別、年齢等の考慮は必要だと思う。
- 私は 4 歳の小さい子どもがいるが、子どもも一緒に活動に参加できる仕組みがあるとよいと思う。子どもにも社会経験として地域の活動に参加させたいと思っている。
- 各家庭内の状態の把握。父子家庭もいろいろな補助（お金、時間）をお願いしたい。調査してほしい。
- 学校教育が大切。子どもたちに近所や地域でどんな人々が住んでいるかなど。社会活動、道徳などもっと学校と地域でスクラムを組んでいければ子どもたちが大人になってもまちを良くしようなどと考えると思う。勉強だけでなく、通学しての不便なところ、もっと良くしたいところなど。地域での孤立は声かけしかないと思う。挨拶運動などもっと関心を持つことかもしれない。
- 人間社会は人と人との心の結びつきが重要です道徳教育の必要性を強く感じている。今は国際社会の多様性をありがたく感じ、感謝あるのみ。
- 子どものころから個人が尊重されることが最も大切であることを教育の現場でしっかりと取り組むことが必要ではないか。福祉とは施しではないことを教える必要がある。

高齢者に関すること

- 病気になり外出することも少なくなり、孤立するようになり社会から取り残された気分。月一回でも誰かが来てくれて話し合いができたらとよい。町内も高齢者が多く、集まることもないので近くにそのような所があれば（お茶会など）よいよいと思う。

- 介護施設の充実を願いたい。
- 高齢で身体に多少故障があっても病院通いをしながらなんとか自立している人達が大勢いる。一番困るのが買い物とか通院時の足です。タクシー頼みでは経済的にいきたい所にも自由に行けない。そんな悩みを何らかの方法で解決できないかと皆話している。近所の人達との交流から得られるものとも思えません。何故ならみんな高齢者で、どんな方法があるのか情報を知りたいとみんな思っていると実感している。
- 自宅に閉じこもらないで健康維持できる施設を増やしてほしい。特に男性は外に出てコミュニケーションを取ってほしい。
- 11月25日の新聞（転ばぬ先のフレイル予防）。年齢を重ねて心身が弱るフレイルの予防や回復に取り組むことは本人や家族の生活の質を高めるだけでなく介護費用の伸びを抑える効果も期待されるとの報道があった。このような取組を地域全体で行うことで衰えを少しでも遅らせられたらよい。
- 一人で暮らしていると年とともに体を動かす機会が少なくなり特に冬等はこたつ猫になってしまう。身近なところでの筋力アップのための運動などできる場が欲しい。ジムや稽古堂はハードルが高く感じる。歩いて行けるような近くの公民館等身近な所での活動を希望する。
- 人生100年時代となりこれからは自分のことはなるべく自分でできるような健康・体力づくりをしていかなければならないと思う。
- 近所に娘さんと住んでいる100歳のおばあさんがいる。私は理容師でしたので社会福祉協議会に登録して10年くらいボランティアをした。現在100歳のおばあさんの散髪に行っている。いつまでできるかわかりませんができる限りがんばりたいと思う。お年寄りには相手にしてもらいたいので、特に地域では、気軽に声をかけることだと思う。

相談に関すること

- 年中無休で24時間相談できる窓口。
- 自分が相談したいと思ったときに頼れる場所、対応してもらえる場所。
- 地域の中のどこで、誰が、いつ相談に乗ってくれるのか。何をどうすれば地域や社会と繋がることができるのかなど、どこに相談すればいいかが分かるようにすることが急務。それぞれの地域任せにせず行政が体制づくりをするべきだと思う。
- 少しでもいいので定期的に会話する機会を作り、相談しやすい環境を作っていくことが大事だと思う。
- いろいろな支援センターがあるようだが、なかなか分かりにくい。
- 日々近所の方とあいさつなどちょっとしたことが必要なのかと思う。困ったことがあったときにどこに相談したらよいのかをわかりやすくしてあるとよいと思う。
- どんなことでもすぐに相談できる窓口を作ってほしい。（あるとは思いますが分かり

にくいため)

- 一人で住んでいる高齢者への心配事はないかなど定期的な声かけ。相談窓口を分かりやすく書いた用紙を配布し目に付くところに置いてもらう。
- 様々な相談に対応できる体制の整備。
- 町内は今のところ高齢者だけの家はないが、もうすぐ自分達が高齢者となるので民生委員・児童委員に何でも相談できて解決できるような仕組みになってほしい。

まちづくり全般に関すること

- 地域に両親と生活できるような雇用を創出し、在宅介護が出来る環境を作り出すことが必要と考える。
- まちをコンパクトにして無駄な行政支出を抑える。行政は積極的に市民と交わり入り込み、潜在的かつ初期の問題点を把握する。
- 生活の安定がベースとなって思いやりやいろいろな活動ができる。本市が経済的に充実発展していけるような施策が一番大事なことだと思う。
- 国自体が厳しい中で日本人一人ひとりが自覚して生活していくのが一番。
- いつでも気軽に使える交通機関。特に山間部。
- お金や時間もかかるが富山市のようなコンパクトシティへの取組が必要。水道などのインフラが老朽化した世帯の住民を市内中心部へ集める施策を。
- 老朽化が進んだ市営住宅を新しくし、誰もが住みやすく交流が広がるような環境を作る。

その他

- 現実的に難しい問題だと思う。いい案が浮かばない。
- 社会福祉協議会が何をしているか、顔が市民に見えない組織だと思う。社会福祉を掲げるなら市民に見える活動をしてほしい。市民の目は厳しい！
- 民生委員・児童委員の果たすべき役割は大きいと思いますが、残念ながら手不足と聞き及んでいる。志の高い方々がその力を十分に発揮できるよう行政が多様な支援を行うよう期待したい。
- 法の整備。個人レベルでは個人情報保護法などで立ち入れないのでやはり法を整備して行政がやるしかないと思う。
- 民生委員・児童委員の人数及び手当を充実。仕事ができる環境を作る。
- 市の計画を実践する努力。計画だけでは解決しない。
- お金などあればいいし、何ととっても少しでもお金が出ればいいと思う。
- 社会福祉協議会のことをもっと多くの人に知ってもらうために、詳しい内容を知らせること。
- 自治体、関係機関の体制の充実。そして各個人が地域に関心を持って生活していくことではないかと思う。
- 将来のことを考えると大変な時代になったという実感で何をどうのという問題が難しく、じっくり考えていかななくてはならないと思う。

地域福祉を考えるアンケート結果報告書

令和2年6月作成

会津若松市地域福祉課